

**2018年8月14~15日**

憲法・改憲、8・15、首相玉串料、地位協定、沖縄知事選・辺野古、オスプレイ、国防権限法、朝鮮半島、日本軍慰安婦、米朝・南北・日韓、戦争記録・証言

憲法9条 平和考えて…大分の市民団体、意見広告36年目

毎日新聞 2018年8月14日 12時50分(最終更新 8月14日 15時04分)



これまでの意見広告（縮刷版を含む）

憲法9条を守ろうと毎年終戦記念日に新聞の1ページを使った意見広告を出し続けている大分市の市民団体「赤とんぼの会」が、今年も36回目の広告を掲載する。テーマを掲げて賛同者の名を連ねる広告で、多くの市民が声を上げていると見せる紙面づくり。ここ数年は賛同者の減少が懸念されるが、同会は「平和憲法の意味をみんなでもう一度考えてほしい」と願いを込める。

意見広告は、タカ派の中曽根康弘政権だった1983年、県内の主婦らが結成した同会が始めた。ベルリンの壁が崩壊した翌年の90年は「世界の壁をなくすとき 今こそ、憲法九条です」、日米防衛協力の指針が改定された97年は「有事って戦争よっ！ もうゆずれない憲法九条」とそれぞれの時代に即した内容で訴えてきた。

今年は、韓国と北朝鮮の南北首脳会談を受けて「憲法九条は対話を生む！」をテーマにした。9条改正を訴える安倍晋三首相が今秋の自民党総裁選で3選を目指し改憲議論の活発化が予想される中、9条の大切さを改めて問いたいとする。

県内で配布される全国紙や地元紙など4紙に掲載し、300万円の費用は賛同者の寄付で賄う。寄付は原則1口1000円だが、生活が厳しい人も参加できるように少額で受け付けることも多い。最も大事にしているのが賛同者の名前前で、パソコンに書体がない旧字体の漢字も自分たちで作字して正確な表記を新聞に掲載する。

しかし年々、賛同者集めは難しくなっており、2007年の3708人をピークに減少を続けている。背景として深刻なのが「戦争の風化」だ。宮崎優子代表（69）は「戦争を知る世代が少なくなっている」と危機感を強める。事

務局を務める日高礼子さん（62）は「平和や憲法9条という言葉を使うだけで、うさんくさそうにする人が増えてきた」と話す。国際情勢の変化も要因とみられ「北朝鮮が攻めてきたらどうする」などと抗議の電話もあるという。



意見広告の校閲作業をする赤とんぼの会事務局。最低でも7回は名前の読み合わせをする＝大分市で、白川徹撮影

それでも、意見広告は平和について考えるきっかけになると信じている。スタッフが戦争体験を話すなど「対話」を通じて、賛同者以外の人にも平和について考えてもらう努力を続けていくという。宮崎さんは「原点は中間の戦争体験。平和を守る心を表明し、次世代につないでいきたい」と語った。【白川徹】

**首相「次の国会に改憲案」 9条改憲優先度、争点に**

東京新聞 2018年8月14日 朝刊

安倍晋三首相は十二日、地元の山口県下関市での講演で、憲法九条の一、二項を維持した上で自衛隊を明記する自民党改憲案について「次の国会に提出できるよう取りまとめを加速すべきだ」と語った。九月の党総裁選や秋に召集予定の臨時国会に向け、改憲議論を進める考えを示した。総裁選に立候補表明した石破茂元幹事長は九条改憲を優先しない考えを示しており、九条改憲の優先度が総裁選の主要争点となってきた。

自民党は自衛隊を明記するなどの改憲四項目の条文案をまとめている。

首相は講演で総裁選について「党员の間で（改憲）議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する」と指摘。自衛隊明記に向けた「決意」を表明し「いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない」と、改憲原案の国会提出に向け、まずは党内で早期に結論を出す姿勢を強調した。

石破氏は九条改憲について、戦力の不保持を規定した二項を削除する案を持論とする。一方で「国民の深い理解が必要だ」として、九条よりも参院選での「合区」解消や、緊急事態条項新設のための改憲を優先すべきだと主張する。

総裁選に立候補を目指す野田聖子総務相は、「未来志向の観点から検討が深められるべきだ」として、早期の改憲に慎重な立場で、具体的な改憲項目には言及していない。

（村上一樹）

産経新聞 2018.8.14 10:00 更新

## 【長州「正論」懇話会】安倍晋三首相講演要旨 憲法に自衛隊明記、誇り持って任務に



長州「正論」懇話会設立5周年記念

講演会で講演する安倍晋三首相＝12日午後、山口県下関市（奥清博撮影）

### 【憲法改正】

西日本豪雨の発災以来、最大で3万1千人を超える自衛隊の諸君が行方不明の捜索、大量に流れ込んだ土砂やがれきの撤去、炊き出しや入浴などの被災者支援に当たってきた。被災者のため、黙々と献身的に任務を全うする彼らは日本国民の誇りだ。

毎年、防衛大学の卒業式に出席し、最高指揮官として真新しい制服に袖を通したばかりの自衛官たちから「事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託に応える」との重い服務宣誓を受ける。

彼らは国民を守るために命を懸ける。しかし、近年でも「自衛隊を合憲」と言い切る憲法学者はわずか2割だ。その結果、多くの教科書に自衛隊の合憲性に議論があるとの記述があり、自衛官の子供たちも、その教科書で勉強しなければならない。

こんな状況に終止符を打つ。全ての自衛官が誇りを持って任務を全うできる環境を整えることは、今を生きる政治家の責任だ。憲法の中に、わが国の独立と平和を守ることと、自衛隊をしっかりと明記することで責任を果たしていく決意だ。

昨年の衆院選で自民党は初めて選挙公約の柱、主要項目の一つとして憲法改正を位置づけ、自衛隊の明記など4項目を具体的に掲げた。本年の党大会では党の運動方針として、公約に掲げた4項目の議論を重ね、憲法改正案を示し、憲法改正の実現を目指す方針を決定した。これに従って意見集約に向けた党内議論が精力的に行われてきた。

いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。これまでの活発な党内議論の上に、自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを加速すべきだ。

来月には総裁選があるが、憲法改正は立党以来の党是であり、すべての党員の悲願だ。昨年の衆院選での公約実現を目指すことは、自民党としての責任でもある。誰が総裁になろうとも、その責任を果たしていかなければならない。

憲法改正には、衆参両院で3分の2を得て発議し、国民投票で過半数の賛成を得るという極めて高いハードルを乗り越える必要がある。政治は結果であり、どのように幅広い同意を得て憲法改正を実現するか、総裁選で党员の間で議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待する。

### 【行政をめぐる問題】

通常国会中、(財務省の) 決裁文書改竄(かいざん) など行政をめぐるさまざまな問題が相次ぎ、国民の皆さまの信頼を損なったことを深くおわび申し上げたい。政府挙げて再発防止に取り組む。

私自身の関与の問題についていろいろと厳しい指摘、批判をいただいた。今後とも、指摘があれば丁寧に説明責任を果たしていかなければならない。

妻(昭恵夫人)や長年の友人が関わっていたのであれば、疑念の目が向けられることは当然であり、その点への意識が必ずしも十分ではなかった。首相という立場が周囲に与える影響を常に意識する必要がある。しっかりと胸に刻みながら、今後、慎重な上にも慎重に政権運営に当たらなければならない。

「安倍1強」とか言われているが、私は極めて宥和(ゆうわ)的な人間だ。安全保障法制のときも党内で徹底的に議論してもらい、その結果をベースに進めた。これが私のスタイルだ。強権的なやり方は長続きしない。大きな改革であればあるほど、まず国政選挙で問う。国民の支持を得て、実行に移していく。民主主義の基本に立ち返るしかない。

### 【1億総活躍】

先の通常国会では、長時間労働の是正や同一労働同一賃金などの働き方改革関連法が成立した。育児や介護など、さまざまな事情を持つ皆さんが多様な働き方を選択できる「1億総活躍」の新しい時代に向かって扉を開くことができた。

政権交代前、8割台にとどまっていた生活保護世帯の子供たちの高校進学率は初めて90%を超え、直近では93%までアップしている。1人親家庭では、大学への進学率が24%から42%まで上昇した。いわゆる子供の貧困率も低下している。どんな世の中でも格差はあるが、格差を固定化させてはならない。

### 【アベノミクス】

6年前に政権交代を成し遂げ、経済最優先を掲げ、「三本の矢」を力強く放ってきた。

年金資産はこの5年半で53・6兆円も増加した。人口が減少する中で名目GDP(国内総生産)は11・8%成長し、58兆円増加し、過去最高を記録した。中小企業の倒産は政権交代前から3割減少し、この27年間で最も少なくなっている。

正社員の有効求人倍率も統計開始以来、過去最高だ。こ

の春、高校、大学を卒業した若者たちの就業率は過去最高水準となった。5年連続、今世紀で最も高い水準の賃上げが実現している。中小企業の賃上げ率も過去20年で最高になった。

アベノミクスの果実を使って、安倍晋三内閣は民主党政権時代の2・5倍のペースで、5年間で59万人分の保育の受け皿を整備した。その結果、女性就業者は200万人増加し、今や25歳以上の全ての世代で女性の就業率は米国を上回った。

#### 【自由貿易】

わが国がTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）のような多くの国が参加する協定づくりを主導したのは、戦後70年以上の歴史でおそらく初めてではないか。EU（欧州連合）との経済連携協定（EPA）も5年の交渉を経て、先月、署名に至った。人口6億人、世界経済の3割を占める大きな市場に、自由で公正なルールに基づく経済圏が誕生する。わが国はこれからも、自由貿易の旗手として、新しい時代の経済、秩序づくりを主導していく決意だ。

拉致問題 安倍政権で必ず解決

#### 【信頼される外交】

日本は、アジアで唯一の先進7カ国（G7）メンバーだ。同時に長年、東南アジア、インド、中東諸国など太平洋からインド洋へ至る地域の国々と深い信頼関係を築いてきた。日本こそが世界を平和と繁栄へ導く懸け橋となる。今後も不断の努力を重ね、世界から信頼される国、尊敬される国とならなければいけない。

#### 【日米同盟】

トランプ米大統領と1年半の間に7回の首脳会談、20回を超える電話会談、3回のゴルフを重ねた。米国は日本が攻撃されたとき、共に戦ってくれる唯一の同盟国だ。どの大統領ともしっかりと信頼関係を築くことは、日本の首相の最も重要な責務の一つだ。トランプ氏とは何でも話し合える関係を築くことができていると思っている。

3年前、安保法制が成立したことが大きい。互いに助け合えることができる同盟は当然その絆を強くする。日米同盟はかつてなく強固なものとなっている。

トランプ氏にはこれまでの常識は通用しない。だからこそ、前例にとらわれず大胆な決断ができるリーダーでもある。

#### 【北朝鮮問題】

6月には歴史的な米朝首脳会談が行われた。米大統領と朝鮮労働党委員長の2人の首脳がサインし、文書を発出した。この意義は大変大きい。北朝鮮はこれまで、1994年の枠組み合意、2005年の6カ国共同声明にかかわらず、国際社会の努力をことごとく裏切ってきた。首脳間の合意でなかったゆえに簡単にほごにされてきた面がある。

（平成14年の）日朝平壤宣言は当時の小泉純一郎首相と金正日（キム・ジョンイル）国防委員長がサインをした

文書だ。北朝鮮もこれをなかったことにはできない。日朝の交渉を始める際、間違いなくその土台となる文書だ。

4月の日米首脳会談の際に、トランプ氏に「サインをする文書を残してください」と話した。今回の米朝首脳間の文書は北朝鮮の完全な非核化に向けて大きな土台を作った。最強の軍事力を持つ米国の大統領がサインをした。その重みは相当なものだ。トランプ氏は相互不信の殻を打ち破り、相互の信頼を醸成することで共に問題を解決するという新しいアプローチを取った。

わが国にとって最も重要な拉致問題は、ご家族の皆さまが高齢になられながら、いまだ解決できないことは痛恨の極みだ。安倍政権でこの問題を必ず解決するという強い決意で臨んでいる。最後は私自身が金正恩（キム・ジョンウン）氏と直接向き合い、わが国が主体的に解決しなければならないと考えている。

北朝鮮は正しい道を歩めば、明るい未来を描くことができる。その前提が拉致、核、ミサイルの諸問題の解決だ。わが国として不幸な過去を清算し、国交正常化を目指す方針は揺らがない。私も相互不信の殻を打ち破り、問題の解決を目指す決意だ。

#### 【日中関係】

昨年11月、習近平国家主席と首脳会談を行い、新しいスタートを切った。5月に李克強首相が公式訪問し、10年来の懸案だった海空連絡メカニズムに合意するなど多くの成果を得た。首脳間の往来を通じ、日中関係を新しい段階へと押し上げていきたい。

#### 【戦後日本外交の総決算】

私が掲げた「自由で開かれたインド太平洋戦略」を米国をはじめ多くの国が強く支持してくれている。日本の外交安全保障戦略を米国が取り入れるようなことは初めてのことでないか。

冷戦終結後も、北東アジアでは北朝鮮問題をはじめ戦後の枠組みが長年、そのままになってきた。日本がリードして、新しい時代の北東アジアの平和と繁栄の礎を築かなければならない。今こそ「戦後日本外交の総決算」を成し遂げるときだ。

#### 【日露関係】

一昨年、長門にロシアのプーチン大統領を招き、平和条約問題の解決に向けた真摯（しんし）な決意を共有した。

あのおとき合意した、（北方四島）元島民の飛行機を利用した墓参りも今年で2年目になる。四島での共同経済活動も新しい段階に入ろうとしている。

長門合意を着実に実現に移すことで、領土問題を解決し、戦後70年以上解決されないままの平和条約の締結を目指したい。ロシアとは世界の課題解決に協力する関係を築き上げていく。日露の新時代を切り拓（ひら）いていきたい。

#### 【地方創生】

安倍内閣は観光立国に力を入れ、外国人観光客は5年連



続で過去最高を更新した。今年は上半期だけで、すでに1600万人に迫り3千万人時代に突入した。観光を地方創生の大きな起爆剤とする。2020年、4千万人の大台を目指してさらに施策を強化する。

おいしくて安全な日本の農林水産物も外国人には大人気だ。農家の平均年齢は66歳を超えている。農業を守り抜くためにこそ、今、改革しなければならない。先の国会では林業改革に向けた法案も成立し、次は水産業改革にも挑戦する。

地域経済を支える中小・小規模事業者は、深刻な人手不足に直面しており、しっかりと手を打っていく。同時に一定の専門性、技能を有し、即戦力となる優秀な外国人材を幅広く受け入れる新しい在留資格を来年4月を目指し創設する。いわゆる移民政策ではない。

#### 【国土強靱（きょうじん）化】

西日本豪雨では、たくさんの方がお亡くなりになった。改めてご冥福をお祈りする。

前政権の時代、「コンクリートから人へ」といったスローガンが叫ばれた。河川の改修や治水事業、砂防ダムの建設、ため池の維持改修など、まるで公共事業全てが悪いように批判され、予算は大幅に削られてしまった。国民の命を守る、防災や減災に必要なインフラまで削ってはならない。減災・防災の観点から、河川の浚渫（しゅんせつ）なども含めて安心な暮らしを確保するための対策を全国的に早急に講じる必要がある。

#### 【先の時代を切り拓く】

9カ月後には天皇陛下のご退位、皇太子殿下のご即位、皇位継承という歴史の大きな節目を迎える。国民の皆さんが、わが国と皇室の長い伝統と歴史に思いをはせこぞって寿（ことほ）ぐことができるよう、世界の方々から祝福されるよう政府として万全の準備を進めていく。

「失われた20年」はもはや過去のものになった。未来を見据えた改革を進める準備は整った。平成のその先の時代に向かって、今こそ動き出すべきときだ。

社会保障を全世代型へと改革していかなければならない。未来を担う子供たちに大胆に投資する。高齢者の皆さんも力強く応援していく。子供たちから子育て世代、そして高齢者の皆さんまで、すべての世代が安心できる社会保障制度を構築していく。少子高齢化を踏まえ、地方の行政体制、財政、税制のあり方も考える必要がある。

やればできる。そう信じ、いかなる困難に直面してもチャレンジを続けてきた先人たちの志を私たちはしっかりと受け継ぎながら、今こそ、平成のその先の時代を切り拓くときだ。

JNN8月14日16時17分

### 自民総裁選で駆け引き激化、地元で見せた2人の表情

自民党の総裁選挙までおよそ1か月。それぞれ地元に入

った安倍総理と石破元幹事長ですが、密着取材で見えてきたのは全く違う二人の表情でした。その背景に迫ります。

安倍総理の地元、山口県で行われた花火大会。お盆休みを利用して参加した安倍総理は、いつもよりも穏やかな表情に見えます。

「安倍総理に一目会おうと、多くの人が詰めかけています。ものすごい熱気です」（記者）

来月、総裁選を控え英気を養う安倍総理。この日、お昼ご飯は行きつけのお好み焼き店に入りました。総理が昼食を終えた後の店内には、安倍総理が書いた色紙が残されていました。そこには「アベノミックス焼き」の文字。

「(Q. アベノミックス焼きというのは?) 普通のミックスです。豚とイカとエビ。笑って(色紙を)書いてました」

(お好み焼き店の店長)

自民党総裁3選を目指す安倍総理。まだ、正式な出馬表明はしていませんが、すでに国会議員票の7割はおさえた見られ、余裕すら漂わせているようです。

これと対照的なのはすでに出馬を表明し、地方票の獲得に奔走する、石破元幹事長。

「この戦いは日本のためにやらねばならない戦い」(自民党 石破茂元幹事長)

森友・加計学園問題などで揺らいだ政治の信頼を取り戻すと意欲を見せ、地元では鳥取初の総理大臣へ、という期待も高まっています。

「新しい日本を作るには新しい考え方が必要」(地元の支援者)

「私、涙が出ました。総裁になってほしい」(地元の支援者)

キャッチフレーズは「正直、公正」。石破氏周辺はその狙いを、こう明かします。

『『正直・公正』のフレーズは安倍総理が指摘される『うそつき・えこひいき』と対比になっているよね』(石破派幹部)

安倍総理との対決姿勢を鮮明にし、議員票、地方票に影響する世論を味方につけようという石破氏。連日、メディアに出演し支持を訴えますが、アベノミックスの成果を強調する安倍総理陣営の動きが気になるようです。

「安倍さん側が『石破になると大不況になる』と言って歩いている」(自民党 石破茂元幹事長)

一方、優位に立つ安倍総理が総裁選の争点にしようというのが「憲法改正」です。

「憲法改正を実現するか、来たる総裁選が党员の間でしっかりと議論を深め、一致団結して前に進むきっかけとなることを期待しています」(安倍首相)

憲法9条に自衛隊を明記する改正案を総裁選後の秋の臨時国会に提出することに意欲を見せたのに対し、石破氏は・・・

「党としても仮に国会に提案するとすれば、まだ党議決

定も何もしていないわけですね。党議決定のプロセスは最低限必要だと思いますよ」（自民党 石破茂元幹事長）

さらに『憲法9条に自衛隊を明記しても権限などは変わらない』とする安倍総理に対し、「何も変わらない改正をすべきではない」と違いを強調しています。

事実上、安倍総理と石破氏の一騎打ちとなっている総裁選。来月7日告示、20日投票票の見通しで、争点を巡る駆け引きは早くも激しくなっています。

## 終戦記念日で与野党談話

与野党は15日、終戦記念日に当たり談話を発表した。要旨は次の通り。

【自民】唯一の戦争被爆国として実相を語り継ぐとともに、歴史に謙虚に向き合い、恒久平和の実現に全力を尽くす。先人が築いた「平和国家日本」を次の世代に引き継ぎ、世界の平和と繁栄に積極的に貢献する。

【立憲民主】安倍政権により、戦後、日本人が育てあげ、守り続けてきた立憲主義と平和主義が脅かされようとしている。歴史の教訓を胸に刻み、国際協調と専守防衛を貫き、国際社会の平和と繁栄に貢献する。

【国民民主】立憲主義、平和主義、民主主義を守り、非核三原則を堅持しつつ、「近くは現実的に、遠くは抑制的に、人道支援は積極的に」との考え方にに基づき、日本が二度と戦渦に巻き込まれないように努力を払う。

【公明】不幸な歴史をいま一度見つめ直し、二度と悲劇を繰り返さないことを誓い、世界から平和国家として信頼されるよう、憲法の平和主義を堅持する。「平和の党」として、世界平和にさらに貢献する。

【共産】安倍政権の「戦争する国づくり」を絶対に許さない決意を表明する。安倍改憲を阻止し、安保法制を廃止して立憲主義を取り戻すために、市民と野党の共闘をさらに発展させるべく力を尽くす。

【日本維新の会】朝鮮半島の非核化をはじめとする国際平和の実現に全力を傾注する。憲法9条の在り方についても、引き続き国民の声に真摯（しんし）に耳を傾け、慎重に検討する。

【希望】外交力、防衛力の抜本的強化が求められている。平和と繁栄は、自らの意志と努力によってのみ、もたらされるものであるとの覚醒が必要だ。平和主義の下、現実的な外交・安全保障政策を推進する。

【自由】現政権は、自衛隊を歯止めなく世界中に派遣できるような安全保障政策を進めている。戦争の惨禍で人々が再び苦しむことのないよう、戦争のない世の中の実現のため全力を尽くす。

【社民】朝鮮半島をめぐる情勢が大きく変化している。日朝間の緊張緩和と関係改善に取り組むように求めていく。憲法改悪を断固阻止し、「不戦の誓い」を後世にも引き継ぐ。

（時事通信 2018/08/15-00:16）

## 終戦の日、各党が談話を発表

日経新聞 2018/8/15 0:00

与野党各党は15日の終戦の日にあわせて談話を発表した。

自民党 唯一の戦争被爆国として被爆の実相を語り継ぐとともに、歴史に謙虚に向き合い、恒久平和の実現に全力を尽くす。日米同盟を基軸とする抑止力の向上を図り、積極的平和主義に基づいた平和外交努力を着実に積み重ねていくことが何よりも大切だ。

立憲民主党 安倍政権により、戦後、日本人が育てあげ、守り続けてきた「立憲主義」と「平和主義」が脅かされようとしている。国際協調と専守防衛を貫き、国連などの多国間協調の枠組みに基づき国際社会の平和と繁栄に貢献する。

国民民主党 「立憲主義」「平和主義」「民主主義」を守り、非核三原則を堅持しつつ「近くは現実的に、遠くは抑制的に、人道支援は積極的に」との考え方にに基づき、日本が二度と戦禍に巻き込まれることがないよう、あらゆる努力を払う。

公明党 不幸な歴史を見つめ直し、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを誓い、心を新たにして、世界から平和国家として信頼されるよう、憲法の平和主義を堅持していく。

共産党 安倍政権の「戦争する国づくり」を絶対に許さない。改憲を阻止し、安保法制を廃止して立憲主義を取り戻すために、市民と野党の共闘をさらに発展させるべく力を尽くす。

日本維新の会 民主主義、自由主義、法の支配などの価値観を共有する国々と力を合わせ、朝鮮半島の非核化をはじめとする国際平和の実現に全力を傾注させる。9条の在り方も慎重に検討していく。

自由党 戦争の惨禍で人々が再び苦しむことのないよう、戦争のない世の中の実現のため、全力を尽くしていくことを終戦の日に関く誓う。

希望の党 国際社会との緊密な連携を維持するとともに、あらゆる事態に備えて、我が国自身の外交力、防衛力の抜本的強化が求められている。

社民党 9条改悪と軍事大国化に反対する多くの人々と力を合わせ、安倍政権の改憲発議阻止に全力を挙げる。

産経新聞 2018.8.15 00:10 更新

【終戦の日】自民党声明「終戦記念日にあたって」 歴史に謙虚に向き合い、恒久平和の実現に全力を尽くす

本日、73回目の終戦記念日を迎えました。先の大戦で犠牲となられたわが国ならびに全ての国の英霊に対し、衷心より哀悼の誠を捧げますとともに、二度とわが国は戦争への道を歩まないと強く決意いたします。

わが国は戦後一貫して平和国家として歩み続け、国際社会において世界の平和と安定の構築に主導的役割を果たしてまいりました。その役割はこれからも変わることなく、唯一の戦争被爆国として被爆の実相を語り継ぐとともに、歴史に謙虚に向き合い、恒久平和の実現に全力を尽くすことを、ここに強く誓うものであります。

今日、わが国を取り巻く安全保障環境は刻一刻と変化しています。一国だけでは地域の平和と安定を守りきれない時代の中においては、日米同盟を基軸とする抑止力の向上を図り、積極的平和主義に基づいた平和外交努力を着実に積み重ねていくことが何よりも大切であります。

わが党は、平和と自由を愛する国民政党として、先人が築いた「平和国家日本」を次の世代に引き継ぎ、世界の平和と繁栄に積極的に貢献してまいります。

産経新聞 2018.8.15 00:10 更新

### 【終戦の日】公明党声明「終戦記念日アピール」 平和国家として信頼されるよう、憲法の平和主義を堅持する

記録的な猛暑が続く中、本日、73回目の終戦記念日を迎えました。

先の大戦で犠牲となられた内外の全ての方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、ご遺族ならびにいまなお深い傷痕に苦しむ皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

かつて日本は、軍国主義によって植民地支配と侵略を進め、多くの人々、とりわけアジア・太平洋地域の人々に耐え難い苦しみと損害をもたらしました。この事実から目を背けることはできません。私たちは、この不幸な歴史を今一度見つめ直し、二度とこのような悲劇を繰り返さないことを誓い、心を新たに、世界から平和国家として信頼されるよう、憲法の平和主義を堅持してまいります。

日本は発展を続けるアジアの中でさらに信頼を広げていかなければなりません。とりわけ中国、韓国との関係は重要です。体制や文化の相違を超え、民衆の間で培われる相互理解こそが平和への確実な礎石になります。その上に立って政府間の関係改善をさらに進めていくべきでしょう。

9日に開催された長崎「原爆の日」の平和祈念式典に、国連事務総長として初めてグテレス氏が出席されました。国連は昨年7月、核兵器禁止条約を総会で採択しました。核兵器を違法とする初の法規範であり、歴史的な条約です。グテレス事務総長の長崎訪問が「核兵器のない世界」に向けた大切な一歩となるよう、唯一の戦争被爆国である日本も真剣に行動するときです。対立する核保有国と非保有国の間の「橋渡し役」となって両者の対話が進むようリードし、核軍縮の具体的進展をめざす努力が求められます。

一方、北朝鮮の核問題では大きな変化がありました。6月に初の米朝首脳会談が実現し、北朝鮮の金正恩委員長が、朝鮮半島の完全な非核化を確認し、それに向けた取り組みを初めて文書の形で約束しました。しかし、具体的な非核

化へのプロセスは明らかではなく、日本は米国、韓国、そして中国、ロシアとも連携して非核化を実現すべきです。

今年12月には、世界人権宣言の採択70周年を迎えます。国連は現在、「誰一人取り残さない」との理念の下、2030年をめざし、貧困撲滅や健康増進、教育の拡充、さらにクリーンエネルギー開発、経済成長までも目標に掲げた持続可能な開発目標（SDGs＝エスディージーズ）の達成に取り組んでいます。

公明党は、SDGsの推進によって貧困や人権侵害といった紛争の芽が摘み取られ、確かな平和への道を築くことにつながると確信しています。

「平和の党」公明党として、世界平和にさらに貢献していくことを重ねてお誓い申し上げます。

産経新聞 2018.8.15 00:14 更新

### 【終戦の日】日本維新の会・松井一郎代表談話「戦没者を追悼し平和を祈念する日」 旧軍用墓地が置き去りにされているのは悲しい現実

「戦没者を追悼し平和を祈念する日」に際し、先の大戦において亡くなられた方々をはじめ祖国のために殉じた全ての戦没者に対し哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

終戦から73年がたちました。戦争の記憶も薄れつつあります。しかしながら、現在の平和と繁栄は、先人たちの尊い犠牲の上に成り立っていることを忘れてはなりません。本日、全国戦没者追悼式が行われる一方、全国44カ所にある旧軍用墓地でも慰霊祭が行われています。先の大戦をはじめ祖国のために準じられた方々を忘れてはならないと思う者にとって、旧軍用墓地が置き去りにされているのは悲しい現実です。私たち日本維新の会は、旧軍用墓地が国の責任において管理・改修されるよう、担当大臣に提言する準備を進めています。

さて、6月には初めての米朝首脳会談があり、朝鮮半島の非核化が合意されました。しかし朝鮮半島の非核化実現までには遠い道のりです。

日本維新の会は、民主主義、自由主義、法の支配などの価値観を共有する国々と力を合わせ、朝鮮半島の非核化をはじめとする国際平和の実現に全力を傾注してまいります。憲法9条の在り方につきましても、引き続き国民の声に真摯（しんし）に耳を傾け、慎重に検討してまいります。

産経新聞 2018.8.15 00:15 更新

### 【終戦の日】共産党・小池晃書記局長談話「終戦記念日にあたって」 9条を守り抜き、憲法を生かした平和な日本を築く

一、73回目の終戦記念日にあたり、日本共産党は、日本軍国主義がおしすすめた侵略戦争と植民地支配の犠牲となった内外の人々に、深い哀悼の意を表します。そして、戦

争の惨禍、おびたしい犠牲と悲惨な体験をへて、日本国民が手にした憲法9条を守り抜き、憲法を生かした平和な日本を築くために全力をあげます。

一、不戦の誓いを新たにする日にあたって、安倍政権の「戦争する国づくり」を絶対に許さない決意を表明します。安倍政権は、違憲の安保法制＝戦争法を強行し、日米軍事同盟の強化と大軍拡をすすめ、沖縄での米軍新基地建設をこり押ししようとしています。さらに、憲法9条を変え、無制限の集団的自衛権の行使、海外での武力行使ができる国にしようとしています。安倍改憲を阻止し、安保法制を廃止して立憲主義を取り戻すために、市民と野党の共闘をさらに発展させるべく力を尽くします。

一、私たちは、今年の終戦記念日を朝鮮半島と東アジア地域で、平和の激動が始まる中で迎えました。これは、朝鮮半島非核化と平和体制構築に向けたプロセスの始まりであり、持続的な努力が必要ですが、対立から対話への大きな転換が実現したことは、画期的な変化です。安倍政権の「戦争する国づくり」は、「北朝鮮の脅威」を口実にしてきましたが、いま起きている平和のプロセスが成功すれば、この「根拠」も崩壊します。

日本共産党は今後も、激動を生み出す原動力となった平和を願う各国の民衆の運動と固く連帯し、朝鮮半島の非核化を達成するために全力をあげます。このプロセスは、この地域の多国間の安全保障のメカニズム構築への展望を開くものです。私たちは、「北東アジア平和協力構想」を提唱していますが、北東アジアを戦争の脅威のない平和の地域とするために、日本とアジア、そして世界の平和を願う人たちと力を合わせていきます。

一、「核兵器のない世界」の実現の可能性も広がっています。昨年7月に国連で採択された核兵器禁止条約は、米国など核保有国による妨害にもかかわらず、現時点で60カ国が署名し、14カ国が批准しています。条約発効に必要な50カ国の批准に向け、さらなる国際的世論を巻き起こすときです。

同条約をめぐるでも、安倍政権は唯一の戦争被爆国の政府にもかかわらず、「核抑止力」を「口実」に、被爆者・国民の悲願に冷たく背を向け続けています。安倍政権を倒し、核兵器禁止条約に署名する政府をつくるため、市民と野党の共闘を強く大きくすることが求められています。私たちはそのために奮闘する決意です。

産経新聞 2018.8.15 00:15 更新

**【終戦の日】立憲民主党・枝野幸男代表談話「73回目の終戦の日にあたって」安倍政権により「立憲主義」と「平和主義」が脅かされようとしている**

本日、73回目の終戦の日を迎えました。先の戦争で犠牲となられた内外すべての人々に思いを致し、国民の皆さまとともに衷心より哀悼の誠をささげます。

先の大戦では、国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えたことを痛切に反省し、再び戦争の惨禍を繰り返さぬよう誓います。

戦後の日本は、憲法の平和主義のもと、焦土と化した国の復興に全力を傾注し、自由で平和で豊かな民主主義国家をつくり上げました。同時に、経済協力、人道支援、PKOなど諸外国の繁栄・発展、国際社会の平和と安定につながる日本独自の貢献を行ってきました。戦後日本が歩んできた道は正しいものであり、誇れるものであったと確信します。

戦後73年、日本は今、時代の大きな岐路に立たされています。安倍政権は、憲法解釈の変更による歯止めのない集団的自衛権の行使を容認し、今また、立憲主義、平和主義を無視した憲法の改悪に向けて突き進もうとしています。安倍政権により、戦後、日本人が育てあげ、守り続けてきた「立憲主義」と「平和主義」が脅かされようとしています。

立憲民主党は、歴史の教訓を胸に刻み、日本の外交・安全保障の基本姿勢である国際協調と専守防衛を貫き、国際連合などの多国間協調の枠組みに基づき国際社会の平和と繁栄に貢献します。核兵器廃絶、人道支援、経済連携、文化交流などを推進し、人間の安全保障を実現するとともに、自国のみならず他の国々とともに利益を享受する開かれた国益を追求します。健全な日米同盟を軸とし、アジア太平洋地域、とりわけ近隣諸国をはじめとする世界との共生を実現します。世界の平和と安定と繁栄を推進するために、積極的な平和創造外交を展開し、世界に対しても、新しい平和秩序づくりに全力で貢献していく決意をここに表明します。

産経新聞 2018.8.15 00:17 更新

**【終戦の日】国民民主党・大塚耕平、玉木雄一郎両代表談話「73回目の終戦の日にあたって」安倍政権は未来に対する懸念を高めている**

本日、73回目の終戦の日を迎えました。先の大戦では、多くの国民が戦禍に巻き込まれ、国のために戦い、家族の身を案じつつ戦場に倒れ、民間戦傷者も含め、終戦後も塗炭の苦難にさいなまれました。遠い異国の地で望郷の思いを抱きながら亡くなった抑留者も多数います。

全ての戦争犠牲者、戦争被害者に対し、衷心より哀悼の誠をささげるとともに、肉親を失った悲しみに耐え、苦難の道を歩んでこられたご遺族の皆様に、深甚なる敬意を表します。

先の戦争では、日本が多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対し、多大の損害と苦痛を与えたことも事実です。二度と同じ過ちをおかしてはならないとの決意を新たにし、犠牲となられた皆様とそのご遺族に対し、重ねて哀悼の意

を表します。

今日の日本の平和と繁栄は、戦争によって命を落とされた皆様の尊い犠牲の上に成り立っています。

私たちは、先人の犠牲に思いを致すとともに、戦争による惨禍の教訓を風化させることなく、未来の世代へと語り継いでいかなければなりません。経済協力、人道支援、PKO（国連平和維持活動）など、諸外国の繁栄・発展、国際社会の平和と安定につながる独自の貢献も含め、戦後日本が歩んできた道を振り返りつつ、今後も不断の努力を続けていかなければなりません。

日本は今、時代の大きな岐路に立たされています。戦後、日本が大切に育み、守り続けてきた「立憲主義」「平和主義」「民主主義」が脅かされようとしています。安倍晋三政権は、民主主義の危機といえる強引かつ強権的な国会運営を行うなど、日本の未来に対する懸念を高めています。

国民民主党は、「立憲主義」「平和主義」「民主主義」を守り、非核三原則を堅持しつつ、「近くは現実的に、遠くは抑制的に、人道支援は積極的に」との考え方に基づき、日本が二度と戦禍に巻き込まれることがないように、あらゆる努力を払います。

国民民主党は、日本と国際社会の平和と安定に貢献していきます。

産経新聞 2018.8.15 00:20 更新

### 【終戦の日】自由党・小沢一郎代表談話「終戦の日にあたり」必要なことは戦争を再び繰り返さない国民の覚悟

本日73回目の終戦の日を迎えるにあたり、改めて先の大戦で尊い命を犠牲にされた全ての方々に謹んで哀悼の誠をささげます。

人間は常に忘れる生き物です。しかし、決して忘れてはならないことがあります。それが「戦争」です。

福島原発事故による、日々増え続ける放射性汚染廃棄物にどれだけの人が思いをはせられているのでしょうか。たった7年前のことです。

ましてや、太平洋戦争については一体何人の方々が具体的なイメージを持てるのでしょうか。それを考えたとき、本当に恐ろしい思いがします。

最近、インターネットの普及などで過激な発言も社会的に目立ってきました。他者や他国、他民族に対する排他的な意見も氾濫しています。

こうした中、現政権は自衛隊を歯止めなく、世界中に派遣できるような安全保障政策を進めています。果たして偶然でしょうか。戦争も、犠牲者も、不戦の誓いもすべて簡単に忘れてしまうのでしょうか。

そういうことが今、われわれに問われています。幸い、映像も含めた多くの記録や証言が残されています。まだ、われわれは直接、戦争を体験された方々から話を聞くことができます。

一番必要なことは、国民に悲劇しかもたらさない戦争を正しく認識し、再び繰り返さないという国民の覚悟です。その覚悟で政治は形作られます。

自由党としましても、戦争の惨禍で人々が再び苦しむことのないよう、戦争のない世の中の実現のため、全力を尽くしてまいることを、この終戦の日に固くお誓い申し上げます。

産経新聞 2018.8.15 00:22 更新

### 【終戦の日】社民党声明「敗戦73年にあたって」平和憲法の意義と価値を世界中に広げる

1、第二次世界大戦の終結から73年目を迎えました。社民党は戦争の惨禍によるすべての犠牲者に哀悼の誠をささげるとともに、遺族の皆さまにお見舞い申し上げます。日本はこの73年間、大戦の反省に立ち、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする」と決意した平和憲法のもとで、民主的な「平和国家」を築いてきました。残念ながら今日もなお、地域紛争は世界各地で絶えることなく生じ、尊い命が奪われ、祖国を追われる難民が後をたちません。このような不幸な事態に終止符を打つために、私たちは、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」ことを前文にうたう平和憲法の意義と価値を世界中に広げ、「恒久平和」の実現に努力し続けます。

2、安倍晋三政権によって、「専守防衛」を大きく逸脱する軍拡が進められています。国民の暮らしを置き去りにする一方で、米国の圧力による長距離巡行ミサイルやイージス・アショア（地上配備型迎撃システム）の導入、攻撃型空母や次期主力戦闘機F35、オスプレイの購入、電子攻撃機の導入検討に加え、「戦争法」による新たな任務に対応する自衛隊の装備増強や島嶼防衛態勢の整備など、防衛費は6年連続で拡大しています。また、イラク派遣時の日報隠蔽の発覚は、シビリアンコントロールの崩壊を露呈しました。この上に、憲法9条2項の死文化を目的とした明文改憲が行われれば、米国に追従して歯止めなく「戦争する国」へと突き進むことになりかねません。社民党は9条改悪と軍事大国化に反対する多くの人々と力を合わせ、安倍政権の改憲発議阻止に全力を挙げます。

3、地上戦が行われた沖縄は、戦後も「捨て石」として米国の軍事支配下に置かれました。本土「復帰」から46年たった今もなお、7割を超える在日米軍基地を押し付けられ、日米安保条約や日米地位協定が優先する「反憲法」下の日常を強いられています。米軍ヘリ事故や米軍人・軍属による事件の多発、危険なオスプレイの飛行訓練など、「軍事植民地下」の不条理にあらがい続けている沖縄県民の闘いは、平和と民主主義を掲げた最前線の闘いであり、この闘いに勝利しなければ本当の意味で戦争が終わったとはいえません。しかし安倍政権は、沖縄県民の民意をことごと



く無視し、非暴力の活動家を強権・暴力的に排除して、米軍の辺野古新基地建設や高江ヘリパッド建設を傍若無人に強行しています。日米両政府による暴挙を決して許さず、9月の沖縄県知事選挙に勝利して、在沖米軍基地の縮小・撤去、日米地位協定の全面改正を勝ち取らなければなりません。

4、国連の「核兵器禁止条約」の採択や、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のノーベル平和賞受賞など、国際社会の潮流は核廃絶に向かっています。一方、米トランプ政権は、核兵器の開発や使用を拡大するとして「核体制の見直し（NPR）」を発表し、あろうことか日本政府はこれを支持し、「核兵器禁止条約」にも反対の立場を取っています。原爆の悲劇を体験した日本こそが、ヒロシマ・ナガサキの思いを世界に広げ、「核なき世界」の主導的役割を果たすべきです。

5、朝鮮戦争の休戦から65年を迎えた今年、朝鮮半島を巡る情勢が大きく変化しています。4月には南北首脳会談、6月には史上初の米朝首脳会談が行われ、緊張関係からの改善が目まぐるしく進んでいます。東アジアに残された冷戦構造の終結には、日朝の国交正常化も欠かせません。社民党は、北東アジア総合安全保障機構の創設や非核地帯構想を提唱するなど、対話による平和的解決をめざしてきました。日本政府には、2005年の6カ国共同声明に立ち戻り、粘り強い外交努力による米朝間の平和協定の実現、そして2002年の日朝平壤宣言に基づく日朝間の緊張緩和と関係改善に取り組むよう求めています。

6、今年、日中平和友好条約締結40年に当たります。盧溝橋事件から戦禍が拡大し、日本の植民地支配と侵略によって、アジア近隣諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。この事実をあらためて直視し、相互理解と友好協力関係を築く努力を続けることが重要です。社民党は、憲法9条改悪に反対する3000万署名運動をはじめ、憲法講座や時局講演会を全国で展開し、安倍改憲の危険性を多くの人々に訴えています。これまで平和憲法が存続危機を乗り越えてきた背景には、「戦争をしない、させない」との確固たる国民世論がありました。社民党は、平和を希求する全ての人々と憲法改悪を断固阻止し、「不戦の誓い」を後世にも引き継いでいくことを誓います。

産経新聞 2018.8.15 00:24 更新

**【終戦の日】希望の党・松沢成文代表談話「戦没者を追悼し平和を祈念する日に当たって」平和は自らの意志と努力によってのみもたらされる**

本日、戦没者を追悼し平和を祈念する日を迎え、改めて全ての戦没者に対し、哀悼の意をささげますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今日、私たちが享受している平和と繁栄は、祖国のために戦場に散った三百万余の同胞と焦土と化した国内で亡く

なられた多くの方々の尊い犠牲の上にあることを一時たりとも忘れてはなりません。

先人たちの尊い犠牲に応えるためにも、私たちは、わが国のみならず、世界の平和と繁栄のため、全力を持って貢献する必要があります。

戦後73年を経て、わが国を取り巻く環境は大きく変化しました。中華人民共和国による南シナ海や東シナ海における海洋進出、朝鮮民主主義人民共和国による核・ミサイル開発や拉致問題、テロの脅威の増大など、緊張がエスカレートしています。

本年6月シンガポールで米朝首脳会談が行われ、共同声明が発表されたものの何ら状況は好転していないと言わざるを得ません。

地域の平和と安定を守るため、アメリカをはじめとする国際社会との緊密な連携を維持するとともに、あらゆる事態に備えて、わが国自身の外交力、防衛力の抜本的強化が求められています。

平和と繁栄は決して与えられるものではなく、自らの意志と努力によってのみ、もたらされるものであるとの覚醒が必要です。

希望の党は、今後も平和主義のもと、現実的な外交・安全保障政策を推進して参ります。

## 首相、靖国神社に玉串料奉納 参拝は見送り

日経新聞 2018/8/15 8:59

安倍晋三首相（自民党総裁）は15日午前、東京・九段北の靖国神社に玉串料を私費で奉納した。終戦の日の参拝見送りは2012年12月の第2次安倍政権発足後、6年連続。参拝に反発する中国、韓国との関係に配慮したとみられる。

「自民党総裁 安倍晋三」名で、自民党の柴山昌彦総裁特別補佐を通じて奉納した。自民党からは小泉進次郎筆頭副幹事長らが参拝した。

産経新聞 2018.8.15 09:27 更新

## 【終戦の日】安倍晋三首相が靖国神社に玉串料 終戦の日に6年連続 小泉進次郎氏らは参拝

安倍晋三首相は終戦の日の15日、東京・九段北の靖国神社に自民党総裁として私費で玉串料を奉納した。首相は参拝せず、柴山昌彦総裁特別補佐が神社を訪れ、代わりに納めた。平成25年の終戦の日から6年連続で同様の対応となった。

柴山氏は記者団に、首相から「先人たちの御霊にしっかりと参りをしてください。参拝に行けず、申し訳ない」と指示があったことを明らかにした。

また、自民党の萩生田光一幹事長代行と小泉進次郎筆頭副幹事長は15日午前に参拝した。

## 安倍首相 靖国神社に私費で玉串料

NHK2018年8月15日 9時14分

「終戦の日」の15日、安倍総理大臣は、自民党の柴山 総裁特別補佐を通じて、自民党総裁として、私費で、靖国神社に玉串料を納めました。

「終戦の日」の15日、安倍総理大臣は、靖国神社に参拝せず、自民党の柴山 総裁特別補佐を通じて「自民党総裁・安倍晋三」として私費で玉串料を納めました。

このあと柴山氏は記者団に対し「昨年に引き続き自由民主党・安倍晋三総裁の名代として私がただいま参拝をさせていただいた。安倍総裁からは『先人たちのみ霊にしっかりと参りをしてください。本日は、参拝に行けずに申し訳ない』という言葉があった」と述べました。

安倍総理大臣は、第2次安倍内閣が発足して1年後となる5年前平成25年12月に靖国神社に参拝しましたが、それ以降は参拝しておらず「終戦の日」には、毎年、私費で玉串料を納めています。

しんぶん赤旗 2018年8月15日(水)

### きょう終戦73年 戦争か平和か 歴史的岐路

きょう15日は、日本が進めた侵略戦争と植民地支配の終結から73年になります。この戦争では、アジア・太平洋地域で2000万人以上、日本人300万人以上が犠牲になりました。戦前の歴史の反省から生まれたのが日本国憲法です。

安倍政権は違憲の安保法制＝戦争法を強行し、自衛隊明記の9条改憲を狙っています。一方で、平和を願う各国の民衆運動を原動力とする平和の激動が朝鮮半島と東アジアで起こっています。この平和体制構築のプロセスが成功すれば、改憲など安倍政権の「戦争をする国づくり」の「根拠」は崩壊します。戦争か平和かの歴史的岐路のなかで戦後73年を迎えました。日本共産党の小池晃書記局長は談話を発表しました。

### 国民に黙とう呼び掛け＝菅官房長官談話

菅義偉官房長官は、終戦記念日の15日に開催する全国戦没者追悼式に当たり、14日付で「戦禍に倒れた戦没者の方々の尊い犠牲に思いを致し、恒久平和の確立への誓いを新たにしようとするものだ」との談話を発表した。15日正午に戦没者をしのび、「心から黙とうをささげられるよう切望する」と呼び掛けた。(時事通信 2018/08/14-05:40)

### 戦後73年の終戦の日 各地で集会や催し

NHK8月15日 4時41分



終戦から73年を迎える15日、およそ310万人の戦没者を追悼し、平和について考える集会や催しが全国各地で開かれます。

このうち、東京の日本武道館では政府主催の全国戦没者追悼式が開かれ、天皇皇后両陛下が出席されるほか戦争で亡くなった人の遺族などおよそ6000人が参列する予定です。来年4月の天皇陛下の退位を前に、両陛下が出席されるのはことが最後となります。

式典では、安倍総理大臣が式辞を述べ、正午の時報に合わせて全員で1分間の黙とうをささげます。

そして、天皇陛下がおことばを述べられたあと、参列者が式壇に花を手向けて、およそ310万人の戦没者を追悼します。

終戦から73年を迎え遺族の高齢化が進んでいて、参列を予定している遺族のおよそ8割は70歳以上となっています。

参列する戦没者の妻は13人で、このうち最年長の102歳の女性は、沖縄で戦死した夫のため長男に付き添われて参列します。

戦争を直接知る世代が少なくなる中、その記憶を受け継いでいこうと、式典には、18歳未満の若い世代も合わせて121人参列します。

15日はこのほかにも全国各地で戦没者を悼み平和について考えるさまざまな集会や催しが開かれます。

### 平成最後の戦没者追悼式、15日 高齢化、戦争体験の継承課題に

共同通信 2018/8/14 20:18



終戦の日を前に、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で手を合わせる男性＝14日午後、東京都千代田区

終戦から73年となる15日、東京都千代田区の日本武道館で、政府主催の全国戦没者追悼式が開かれる。来年4月30日の退位を控える天皇陛下は最後の参列となる。安倍晋三首相や約5千人の戦没者遺族も列席し、先の大戦で犠牲となった約310万人を悼む。戦前、戦中世代の高齢化が進んでおり、戦争体験の継承や平和の在り方が問われる中での平成最後の追悼式となる。

安倍首相は2012年12月の第2次政権発足後、歴代首相が触れてきたアジア諸国への加害と反省に言及せず、近隣諸国の反発を招いており、式辞の内容に関心が集まって

いる。



観光客など多くの人が行き交う皇居外苑。15日で終戦から73年を迎える＝14日午後、東京都千代田区

## 「お言葉」に込めた願い変わらず 戦争の記憶途絶えても平成最後の夏

2018/8/14 15:00 情報元日本経済新聞 電子版

終戦記念日の15日、平成最後の全国戦没者追悼式が開かれる。出席する遺族約5500人のうち、昭和期に参列者の過半を占めた「戦没者の妻」はわずか14人。父母の出席者はいない。失われつつある戦争の直接記憶。天皇陛下は早くから危機感を持たれていた。



2015年の全国戦没者追悼式でお言葉を述べる天皇陛下

2002年9月。この年に日本遺族会の会長に就任した元衆院議員、古賀誠さん(78)は皇居・御所を訪れた。創立55周年式典について陛下に説明するのが目的だった。

「苦労した戦没者の妻の多くが亡くなり、戦争を知らない世代が増えました。遺児の私もこのような年齢です」。古賀さんの話に陛下はじっと耳を傾けられたという。

「先の戦争のことが人々の心から遠くなっていく今日、戦争による深い悲しみを経験した遺族たちの持つ、世界の平和と我が国の平らかな行く末に対する強い思いを世に伝えていくことは誠に大切なことと思います」

東京都内で開かれた式典で、陛下は戦争の記憶の風化を危惧するお言葉を述べられた。

その3年後、戦後60年の年に開かれた日本遺族会婦人部の集いにも両陛下は出席されている。「ご苦労されましたね」「ご主人はどちらで亡くなられたのですか」。約50人の参加者一人ひとりに声を掛けられた。

様子を見守っていた古賀さんは強い感銘を受けていた。時間を過ぎて妻たちへの声掛けを続ける両陛下の姿に、遺族への思いやりと、戦争体験者が減り、記憶が風化することへの強い危機感を感じたからだ。

高齢化が進んでいた婦人部の集いはこれが最後になった。戦後70年の15年、82歳の誕生日を前にした記者会見。

この場でも陛下は「年々、戦争を知らない世代が増加していきますが、先の戦争のことを十分に知り、考えを深めていくことが日本の将来にとって極めて大切」と述べられた。

陛下の言葉を多くの国民が同時に耳にする機会は多くない。全国戦没者追悼式は陛下が戦争について発信される貴重な場になっている。

さきの大戦において、尊い命を失った数多くの人々やその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします――。

1989年の即位後最初の追悼式以降、お言葉の表現はほぼ定型。しかし、戦後50年と70年の節目には、それぞれ「歴史を顧み」「さきの大戦に対する深い反省」との表現が新たに盛り込まれた。「思いが伝わるように長い時間をかけて、お言葉作りに心血を注がれていた」。元側近の一人は述べ懐する。

戦後の節目にあたって国内外の激戦地や被害の大きかった地域を訪れる「慰霊の旅」を重ねてこられた両陛下。ソロモン諸島で父を失い、戦没者追悼式に長年出席してきた京都産業大名誉教授、所功さん(76)は「陛下は慰霊の旅を重ねることで戦争の実態を知り、追体験された。このことでお言葉は年々さらに重みを増した」と振り返る。

平成の次の時代、あらがえない時の流れのなかで、過去を正しく伝えていくことができるのか。所さんは悲観しない。「若い世代にはボランティア活動やSNSなどで体験を自ら発信し、共感し合える力がある。時代の転換点こそ、関心をもって過去に学び、平和について考える好機になる」

## 平成最後の戦没者追悼 来春退位、陛下「お言葉」

東京新聞 2018年8月15日 朝刊

終戦から七十三年となる十五日、東京都千代田区の日本武道館で、政府主催の全国戦没者追悼式が開かれる。来年四月三十日の退位を控える天皇陛下は最後の参列となる。安倍晋三首相や約五千人の戦没者遺族も列席し、先の大戦で犠牲となった約三百十万人を悼む。戦前、戦中世代の高齢化が進んでおり、戦争体験の継承や平和の在り方が問われる中での平成最後の追悼式となる。

安倍首相は二〇一二年十二月の第二次政権発足後、歴代首相が触れてきたアジア諸国への加害と反省に言及せず、近隣諸国の反発を招いており、式辞の内容に関心が集まっている。

天皇陛下は即位以来、毎年皇后さまと共に参列され、平和を願うメッセージを発し続けてきた。戦後七十年の一五五年からは三年連続で、お言葉に「深い反省」という文言を盛り込んでいる。最後の参列で、どんな言葉で平和への思いを表現するのか注目される。

厚生労働省によると、参列予定の遺族の最高齢は百二歳で、最年少は二歳。参列者の高齢化が進み、七十代以上が八割近くに上る。

二十年前には千人近く参列していた戦没者の配偶者は減



少傾向が進み、今年は十三人とどまる見込み。

## 平成最後の「8.15」に聞く 忘れぬため、何をすべきか 半藤一利氏、佐藤卓己氏、鈴木洋仁氏、羽毛田信吾氏

日経新聞 2018/8/15 6:00

日本人にとって8月15日は第2次世界大戦で失われた多くの犠牲者を悼み、平和を願う日であり続けた。戦後生まれが人口の大半を占め、戦争の記憶が失われていく時代。

「8.15」の意味を空虚なものにしないために何が求められるのだろうか。平成最後の終戦記念日にあたり、4人の有識者に聞いた。

■追悼式 にじむ陛下の思い 作家 半藤一利氏



半藤一利氏

——天皇陛下が全国戦没者追悼式に出席されるのは、今年が在位中最後です。

戦争を体験した人間からすると、同世代の天皇陛下が退位されることで、もう我々の時代は本当に終わるのかなという若干の感慨はある。

即位されたばかりの頃は、天皇陛下を「頼りない」などと言う人もいたが、陛下は皇后さまとともに30年かけて、象徴天皇とはこういうものだという形を自分でつくってこられた。

陛下は即位後の儀式で「皆さんとともに日本国憲法を守り、これに従って責務を果たす」と述べられている。当時、「皆さん」という言葉に、象徴天皇として国民と共にいかに国をつくっていくかという決意を感じた。戦地や被災地などへの訪問を絶え間なく続けられ、その「責務」は十全に果たされたと思う。陛下の思いが最も表れているのが、8月15日の全国戦没者追悼式ではないだろうか。

——追悼式でのお言葉から陛下のどのような思いを感じますか。

1992年のお言葉では、それまでの「深い悲しみ」という言葉が「つきることのない悲しみ」と言い換えられ、94年には「尊い命」が「かけがえのない命」と変化した。2001年には「感慨は今なお尽きることがありません」というように、「今なお」という言葉が付け加えられている。

表現が強まったのは、戦争について知れば知るほど、その結果に対する思いが深まったということだろう。陛下は自ら歴史を学び、国内外の激戦地に足を運ばれてきた。戦

争の悲惨さや無残さ、非人間性に対する反省がおりなのだと思う。

——戦争との向き合い方は、昭和天皇とも違いますか。

昭和天皇は在位60年記念式典の写真をよく見ると、涙を流されている。戦後40年もたった頃だ。これを見たとき戦争責任をずっと一人で感じてこられたんだなと痛感した。

昭和天皇は75年の訪米時に「私が深く悲しみとする、あの不幸な戦争」とスピーチし、帰国後の記者会見でその発言に関連して戦争責任を感じているか質問された。

「そういう言葉のアヤについては、私はそういう文学方面はあまり研究もしていない」との回答は批判されたが、その場の即興で答えられるテーマではなく、ああいう言葉でしか言えないつらさがあった。

昭和天皇はついに象徴天皇になりきれなかったと思う。天皇陛下はそうした昭和天皇の背中を見て、ずいぶん学ばれたのではないか。皇位を受け継ぐことで、天皇の名の下で国を滅ぼすようなことをしたという責任も同時に背負うことになった。その責任の重さは、昭和天皇以上に強く感じてこられたかもしれない。

——代替わりは時代の節目となりますか。

昭和から平成になった1989年は天安門事件やベルリンの壁崩壊などがあり、世界的には時代の節目だったが、日本はバブルの真っ最中。バブルが崩壊し、阪神大震災やオウム真理教の事件が起きて社会が変わっていくのは、その数年後だ。

来年の代替わりが直接、時代の空気を変えるとは思わないが、時代は絶えず変化していく。戦没者追悼式を8月15日にやる意味を知らない人も増えている。その時に、象徴としていかにあるべきか。次の天皇陛下もまた、相当なご努力が必要になるかもしれない。

はんどろ・かずとし 東京大文学部を卒業後、文芸春秋入社。「週刊文春」や「文芸春秋」の編集長、同社専務などを経て、作家に。「歴史探偵」を自称し、著書に「日本のいちばん長い日」「ノモンハン」の夏」など。東京都出身。88歳。

■終戦の日とは 問い直す 京都大教授 佐藤卓己氏



佐藤卓己氏

——著書で「終戦」は8月15日ではないと指摘してい



ます。

8月15日は昭和天皇が「玉音放送」で国民に終戦を伝えた日だが、戦闘行為はまだ続いていた。公式には日本政府が降伏文書に署名した9月2日に終戦したと考えるべきで、多くの国がこの日を終戦の日としている。

——日本ではなぜ8月15日が定着したのですか。

8月15日に戦没者を追悼する行事は、必ずしも戦後に始まったものではない。1939年ごろから、お盆に祖霊を供養する仏教行事の「盂蘭盆会（うらぼんえ）」と、戦没者を弔う「英霊祭祀（さいし）」とが結びついた「戦没英霊盂蘭盆会法要」が各地の寺で行われ、ラジオでも全国中継されていた。

戦没者を弔う日として、月遅れ盆の8月15日と玉音放送を抱き合わせる発想は、国民感情として一定の合理性があった。ただ、玉音放送を全国民が一斉に聞いたというイメージは、戦後の報道によって作られたものだ。

——昭和天皇は8月15日とどう向き合ってきたのでしょうか。

日本政府が降伏文書に調印した翌日の1945年9月3日、昭和天皇は皇居・宮中三殿で戦争終結を歴代天皇に報告する儀式を行っている。昭和天皇が8月15日を終戦の日と考えていなかったことは明らかだろう。

一方で、玉音放送はラジオを通じてであれ、国民と直接コミュニケーションをしたという意味で、戦後の象徴天皇のイメージにふさわしいものだった。その8月15日に国民を代表して戦没者を慰霊することは、象徴天皇の役割として重要だと考えていたのではないか。

——天皇陛下は自ら戦地への「慰霊の旅」を重ね、戦争犠牲者に心を寄せられてきました。

陛下は昭和天皇から国民統合の象徴としての立場を引き継ぎつつ、その意味をより深められた。「忘れてはならない4つの日」として、終戦記念日のほか、沖縄慰霊の日や、広島と長崎に原爆が投下された日も大切にされてきた。いずれも多くの国民の心情に沿うもので、民意と共にあるとする強い意思を感じる。

——来年、戦後生まれの皇太子さまが新天皇に即位されます。

新天皇も8月15日を重要な日と位置づけ、国民とともに戦争を想起するシンボリックな日であり続けるだろう。天皇自身に戦争経験があるかどうかは関係なく、代替わりによって8月15日の意味合いが変わることはないと思う。

ただ、全国戦没者追悼式では天皇陛下のお言葉の前に首相が式辞を述べるなど、政治的なセレモニーとなっている面もある。代替わりを機に、8月15日は純粋な祈りの場とすべきで、政治が関与するのは本来の終戦の日である9月2日に行う方が国際的にも望ましいのではないか。

また、新天皇の在位中には戦争体験者が激減し、「先の戦争」という言葉が太平洋戦争だけを指さなくなる。8月15

日が、日清・日露戦争や第1次世界大戦など、過去の多くの戦争犠牲者を対象とする追悼の日が変わっていく可能性はある。

8月15日は知っていても、戦争がいつ始まったか問われて、12月8日と即答できる日本人がどれだけいるだろうか。8月15日の意味を問いただすことは日本人が戦後、どのように戦争と向き合ってきたかを考える契機になる。

さとう・たくみ 京都大大学院修了後、東京大新聞研究所助手、国際日本文化研究センター助教授などを経て現職。専門はメディア史、社会教育学。著書に「八月十五日の神話—終戦記念日のメディア学」など。広島県出身。57歳。  
■時代移っても「戦後」は続く 事業構想大学院大准教授 鈴木洋仁氏



鈴木洋仁氏

——「8月15日」は日本人にとってどんな意味を持ってきたのでしょうか。

1945年8月15日は「戦後元年」の初日。日本人は敗戦ほど強烈な経験を持っていない。多くの人々が亡くなり、憲法をはじめとする国の体制が激変した。この経験を超える出来事は戦後70年以上たっても起きていない。

昭和20年に始まった「戦後」という時代は平成という時代を貫通し、さらにポスト平成時代も続くことになるだろう。強いて言えば日本が次の戦争を経験しないかぎり「戦後」が続くわけで、日本人の歴史にとっては昭和や平成といった元号より分かりやすい時代区分といえるかもしれない。

——年月の経過とともに終戦記念日に対する人々の意識はどのように変化しましたか。

かつては祖父母が孫に自身の戦争体験を伝え、記憶を継承してきたが、今や70歳を超えた祖父母世代も戦後生まれという時代。戦後50年ぐらまでは「8月15日」の認識に世代間のギャップがみられた。戦争の直接の記憶が失われた結果、今日では世代間の意識の差はなくなってきた。

終戦を記憶している80代、90代の人でさえ、玉音放送の記憶より、テレビ番組や新聞記事などを通じて間接的に体験する敗戦の記憶の方が、色濃く意識にすり込まれているのではないだろうか。

戦後、日本人は戦争を絶対悪と捉え、反戦という点では価値観を共有してきた。毎年8月になると、映画やドラマはこの日を時代の切れ目として描き、反戦・平和のメッセ

一色となる。そこには異論を差し挟む余地はなく、戦後が始まった特別な日に対する意識はほぼ全世代で均質化してきたともいえる。

——直接の戦争の記憶が失われ、均質化が進むとどうなりますか。

人々は8月15日が巡ってくるたびに戦後から始まった反戦の誓いを忘れてはならないと確認する。その一方で、現実感を持って戦争の犠牲者を悼む気持ちはどうしても薄れていく。

かつてのようにお盆を田舎で迎え、年長者から戦争の話を聞くといった過ごし方ができなくなってきたことも、リアリティーの喪失に拍車を掛けている。8月15日は時代に沿った新たな意味が見いだされることもなく形骸化した単なる記念日として定着することになってしまうかもしれない。

——30年続いた平成の終戦記念日は今年で最後です。

右肩上がりで戦後復興を成し遂げた昭和期、8月15日は甲いの日であると同時に明るい未来をイメージして時代を語る起点でもあった。

経済が成熟し、長く景気低迷が続いた平成期に入ると、そうした意味合いで終戦の日を語ることは難しくなった。また、社会は将来への展望が開けているからこそ、過去の反省を生かそうとする。その展望が見えにくい今日、プラス面でもマイナス面でも過去を語ることの意味を見いだしにくくなっている。

昭和との間に平成を挟む次の時代はこの傾向がさらに強まり、8月15日の形骸化がさらに進行するだろう。皇太子さまは、陛下と同じ姿勢で戦没者追悼に臨むことを国民から求められるはずだ。

新たな象徴として国民との関係を築きながら、薄れていく戦争の記憶と向き合い、終戦の日に意味を持たせ続けるという課題に直面されることになる。

すずき・ひろひと 2017年、東京大大学院学際情報学府博士課程修了。04年に京都大総合人間学部卒。東京大総合教育研究センター特任助教などを経て現職。専門は歴史社会学。著書に『元号』と戦後日本など。東京都出身。38歳。

■歴史に学び風化させぬ努力 元宮内庁長官 羽毛田信吾氏



羽毛田信吾氏

——天皇陛下は8月15日、戦没者への祈りを欠かしたことがありません。

お仕えていて、時を経て戦争の記憶が風化することへの陛下のご心配には、ひとかたならぬものを感じていた。それは様々な行事で述べられるお言葉にも表れている。また、国内外への慰霊の旅でも慰霊と同時に戦争の悲惨さを忘れてはならない、平和の尊さを忘れてはならない、という気持ちを自らの行動で示されてきた。

毎年欠かさず全国戦没者追悼式に出席してきた8月15日には格別な思いをお持ちだ。その根源は使命感や信念だけでなく、人類愛というか、国民の幸せに思いを寄せられるところにあると思う。私は、それが陛下の心の底から自然に湧き出してきているものだと理解している。

——何がその姿勢を支えるのでしょうか。

陛下は敗戦という衝撃を少年期に経験された。だが、単に平和の尊さや戦争の悲惨さを体験として持たれているというだけではないはずだ。先の戦争の歴史について深く考え、象徴天皇として何をなすべきかを長年模索しながら、向き合ってきたのだと思う。

戦後60年を迎えた2005年、激戦地となったサイパンを訪問された両陛下にお供したことがある。海外訪問先について、陛下は通常、我々側近にも希望を明らかにされない。しかし、サイパンについては訪れたいという意思を強く示されていた。海に向かって拝礼される陛下の後ろ姿を拝見して感じたのは、亡くなった人々への追悼の思いと同時に、不戦の誓いと平和への願いだった。

また戦後70年の節目を迎えた15年の新年に当たってのご感想の中で「満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のあり方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています」とつぶられた。この年は慰霊のためにパラオを訪問されている。陛下は自らの行動を通じて、歴史と向き合い、戦争の悲劇を二度と繰り返してはならない、戦争の記憶を風化させてはいけない、とのお気持ちを真摯に示し続けられてきたと思う。

——羽毛田さんは昭和館（東京・千代田）館長として戦時の記憶を次世代に継承する事業に取り組んでいます。

若い人に伝え続けるには努力と工夫が欠かせない。当館では、実感を持って伝わるように映像資料を駆使するなどして展示方法を工夫したり、戦争経験者のオーラルヒストリーを保存したりする活動に力を入れてきた。

——戦争を繰り返さず、平和を享受できた平成を歴史的にどう位置づけますか。

今年は明治維新から150年の節目の年とされている。先の大戦期間の4年を挟み、維新から1941年の開戦までの73年と戦後73年という折り返しの時期でもある。

陛下は「歴史に学ぶことが大事だ」という趣旨のことを折に触れて述べてこられた。国民の大半が戦後生まれという時代でも、歴史に学び、平和の尊さが忘れられてはなら

ない、というのが陛下の考え方だ。歴史を持つ我々だからこそ、経験していないことでも歴史から学び取ることができるはずだ。

「平成」は明治、大正、昭和と続いた近代以降の歴史のなかで、唯一戦争のなかった時期だ。だからこそ、この平成最後の夏は過去の歴史を振り返り平和の大切さを考える時期であってほしいと願う。

はけた・しんご 1965年、京都大法卒、旧厚生省へ。99年、事務次官。2001年に宮内庁次長として入庁後、05～12年まで長官。退官後は宮内庁参与を務めるとともに、昭和館館長。山口県出身。76歳。

## <象徴天皇と平成> (上) 11歳の陛下、焦土に衝撃 「平和国家」戦後の原点

東京新聞 2018年8月14日 朝刊

太平洋戦争中、学習院初等科5年の学友と茨城県の鹿島神宮を参拝した皇太子時代の天皇陛下(右端) = 1944年5月4日



天皇、皇后両陛下は十五日、在位中最後の全国戦没者追悼式に出席される。昭和から平成へと時代が変わり、戦火の記憶が風化する中、陛下は折に触れ、戦争への反省と平和の尊さを語り続けてきた。戦時中は軍国少年だったという陛下が、戦後の新憲法下で象徴天皇のあり方を模索していく歩みは、父・昭和天皇の実像を知るところから始まったとされる。史料や関係者の証言で、平和を希求する陛下の原点を探る。(小松田健一、荘加卓嗣)

「歩調を取れっ」。引率教師の号令で約六十人の少年がダダダダと整然と進み、門をくぐる。一九四二年十月、千葉県陸軍戦車学校。訪れた学習院初等科三年生たちの先頭に行くのは、皇太子だった八歳の陛下。将兵の出迎えに軍隊式敬礼で応えた。

戦時色が強まる中、学習院初等科でも軍関連施設の訪問や神社での戦勝祈願などの行事が増えていった。陛下は四三年十一月、学徒出陣する学生の壮行行事に出席。その姿を捉えた写真を本紙は一面に掲載している。初等科以来の学友の栄木(さかき)和男(84)は、慣れた様子で敬礼した陛下の姿を思い浮かべる。「いずれ自分が天皇になり、観兵式で閲兵する立場ということは聞かされていたのだろう」

旧憲法では天皇は大元帥として軍を率いる立場だった。当時の皇族身位令で皇太子は満十歳に達した後、軍の武官に任官すると規定され、陛下もそれに備えて乗馬を習っていた。軍部は士気高揚を理由に陛下の任官を昭和天皇に求めたが、戦況の悪化から、昭和天皇は認めなかった。

本土空襲が激しくなり、陛下は学友と共に沼津、日光で疎開生活を送った。学友の橋本明(故人)は生前の本紙の取材に、「少国民で軍国少年だった」と、当時の陛下を評した。少国民は「天皇陛下に仕える小さい皇国民」の意味で、戦時中多用された言葉。昭和天皇を侍従次長として支えた木下道雄(故人)の「側近日誌」に、橋本の評価を裏付けるような陛下の作文が収められている。

日誌は四五年四月二十九日付で昭和天皇の四十四歳の誕生日。昭和天皇が雨の中、外套(がいとう)を着ずに青少年学徒を閲兵したと聞き「実にご立派だと思ひます」とたたえ「それなればこそ命を投げ捨て、体当りをする特攻隊も出るのです」と、つぶられている。学友の明石元紹(もとつぐ)(84)は「そうとでも書かない方がおかしい世の中だった」と回顧する。

陛下が、学習院の出陣学徒壮行会に出席されたのを1面トップで伝える本紙紙面(1943年11月23日付)。陛下は皇族方とともに敬礼で見送っている



戦局は悪化し、疎開先の日光にも米軍機が現れた。そして八月十五日。玉音放送があることを、前日に教師から聞かされていて、当日は学友と別の建物でラジオを聞いた。

栄木によると「その前後で陛下の様子に変化はなかった」という。だが側近日誌には陛下の「非常に残念に思ひました」「無条件降伏といふ国民の恥を、陛下(昭和天皇)御自身で御引受けになつて御放送になつた事は誠に恐れ多い事」との作文が残る。

十一月、十一歳の陛下は焼け野原となった東京に戻る。



目に焼きついた衝撃を後の記者会見で「原宿の駅に降りた時、あたりが何も無かったのでびっくりした」と振り返っている。

敗戦翌年の四六年一月、陛下は書道で「平和国家建設」と記した。明石はその六文字を「どこまで当時の陛下の思いを反映していたか分からない。『はやり言葉』みたいなものだった」と語るが、後の陛下の歩みを貫く言葉となる。

(敬称略)

## <象徴天皇と平成> (下) 平和希求 背中で語る 父の実像 追い 続けた慰霊

東京新聞 2018年8月15日 朝刊

登校する皇太子時代の  
天皇陛下=1943  
年



終戦前後の混乱の中、一九四六年に中学生の学齢を迎える皇太子だった陛下の教育をどう進めるかは待ったなしの課題だった。

専用の教育施設を設ける構想もあったが、陛下は学習院中等科に進む。指導陣に米国人のバイニング夫人や元慶応義塾塾長の小泉信三が迎えられた。学友の明石元紹(もとつぐ)(84)は「二人から、他者の人権を尊敬することで敬われるということを教わった」と、今につながる象徴天皇像の原型を見る。

四九年四月、高等科一年になった陛下は広島を訪れた。学友、栄木(さかき)和男(84)の父で東宮侍従を務めた栄木忠常(故人)の日記には、現地で陛下が述べたお言葉の要旨が残る。「(原爆投下)当時の話を聞き、同情に堪えない気持ちで一杯」「人類が再びこの惨劇を繰り返さないよう、固い信念と覚悟を養いたい」。かつての「軍国少年」の面影は、既がない。

日本が平和国家の歩みを始めると、戦争の記憶は昭和天皇と陛下の父子に影を落とす。学習院初等科から机を並べた橋本明(故人)は本紙の取材に、若いころの陛下が「木戸幸一日記」と、元老として昭和天皇の助言役だった西園寺公望の元秘書、原田熊雄(故人)の証言をまとめた「西園寺公と政局(原田日記)」を熟読し、『原田日記のほうが詳しい』と話していた」と証言していた。

「西太平洋戦没者の碑」に供花される天皇、皇后両陛下=2015年4月9日、パラオ・ペリリュー島で(共同)



両書とも戦争責任が軍部にあることを示す証拠として東京裁判に提出され、昭和天皇の免訴につながった。橋本は「陛下はこのプロセスを通じて、父は軍国主義者なのか、平和主義者なのかを勉強し、平和を愛する人と納得した」と分析し、「おやじを理解するために、息子の方が努力した」と付け加えた。

陛下は皇太子時代の会見で「平和国家、文化国家という言葉をもう一度かみしめてみたい」と語った。即位後は戦後五十年の長崎、広島、沖縄、六十年のサイパン、七十年のパラオなど慰霊の旅を続けた。元宮内庁幹部は「花を手向け、頭を下げる姿を示すことで、国民に忘れてはいけないと背中で語った」と話す。

「嫌な時代でしたね」。陛下は作家の半藤一利(88)やノンフィクション作家の保阪正康(78)ら在野の歴史家を御所に招き、近現代史を学び続けてきた。皇后さまも交えたその場は、誰からともなく当時の思い出話になる。

ある時、半藤と保阪が満州事变などを例に「昭和天皇は戦線不拡大の方針だった」との見方を示すと、陛下は深くうなずいたという。保阪は根源にある思いを「父が積極的に戦争をしたわけでないという安堵(あんど)感が欲しい。だが現実には天皇の名の下に何百万人も死んだ。では自分はどうすれば良いのか、ということだろう」と推し量る。

八月十五日の全国戦没者追悼式。二〇一五年以降、戦争の記憶の風化と、戦前日本を正当化する風潮にあらがうかのように、「さきの大戦に対する深い反省」に言及し続けている。

「自分の思いに反して戦争で命を落とした人がいる。だからこそ、もう少し知的な行動で戦争を防げないか、と」。明石は陛下の言葉にそんな強い思いを読み取っている。

(敬称略)

(小松田健一、荘加卓嗣)

日米地位協定の抜本的見直し、全国知事会が両政府に提言  
朝日新聞デジタル古城博隆 2018年8月14日 18時14分





山本朋

広防衛副大臣（左）に日米地位協定見直しを求める提言を手渡す上田清司・全国知事会長（中）と謝花喜一郎・沖縄県副知事＝防衛省

全国知事会は14日、日米地位協定の抜本的な見直しを日米両政府に提言した。8日に亡くなった翁長雄志・沖縄県知事の「基地問題は全都道府県の問題ではない」との訴えを受け、2年近くかけて提言にまとめ、7月の全国知事会議で全会一致で初めて採択した。

提言は、航空法や環境法令など国内法の適用や、事件・事故時の基地への立ち入りなどを日米地位協定に明記するよう要請。米軍の訓練ルート・時期に関する情報を事前提供すること、基地の使用状況などを点検して縮小・返還を促すことも求めている。

この日は同会長の上田清司・埼玉県知事らが外務、防衛両省と在日米大使館を訪問。上田知事は報道陣に「基地のない県も含めて共通の認識を持った」と述べた。同行した謝花（じゃはな）喜一郎・沖縄県副知事は「全国知事会としての提言は憲政史上初。画期的で心強い。沖縄県の思いもすべて入っているので、政府は取り組みをお願いしたい」と話した。

米軍基地を抱える15都道府県でつくる涉外知事会は、沖縄県で米兵による少女暴行事件が起きた1995年以降、日米地位協定改定を求め続けている。日米両政府は補足協定などで運用を見直しているものの、60年の締結以来、一度も改定されていない。（古城博隆）

## 在日米軍基地の地域負担など軽減策求める提言 全国知事会

NHK2018年8月14日 20時19分



全国のアメリカ軍基地をめぐり、全国知事会の会長を務める埼玉県の上田知事は、山本防衛副大臣と会談し、アメリカ軍機が低空飛行の訓練を行うにあたっては事前にルートや時期を知らせるなど、地域の負担や不安を軽減する対策を求める提言を手渡しました。

在日アメリカ軍基地の基地負担軽減に向けて、全国知事会

は、今月8日に死去した沖縄県の翁長知事の提案を基に研究会の提言をまとめ、14日、全国知事会の会長を務める埼玉県の上田知事らが山本防衛副大臣に手渡しました。

それによりますと、アメリカ軍機が低空飛行訓練を行うにあたっては、事前にルートや時期を知らせることや、基地ごとに、必要性や使用状況などを点検し、縮小や返還を積極的に促進すること、それに、事件や事故が発生した際の自治体職員の立ち入りを日米地位協定に明記するなど、地域の負担や不安を軽減する対策を求めています。

これに対して山本副大臣は、「防衛政策は、地域の協力がなければ成り立たず、提言については関係機関と検討させてもらいたい」と述べました。

会談のあと、上田知事は記者団に対し「私たちは、住民から直接、リアクションを受けており、政府には提言をアメリカ政府や関係者に伝えてもらいたい」と述べました。

## 辺野古 埋め立てで神経戦激化 知事急逝、選挙に影響も

毎日新聞 2018年8月14日 20時44分(最終更新 8月15日 00時59分)



埋め立て予定区域の護岸工事が進む辺野古の沿岸部＝沖縄県名護市で2018年4月19日、本社機「希望」から徳野仁子撮影

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画で、17日に予定されている埋め立て予定海域への土砂投入を巡り、政府と沖縄県の神経戦が激化している。翁長雄志知事の急逝で9月30日に前倒しされた知事選が「吊い合戦」の様相を呈する中での投入は、県民の怒りの火に油を注ぎかねない。政府側は投入延期を県側に示唆し、県は撤回決定の時期を慎重に見定めている。

翁長知事は7月27日に、前知事による埋め立て承認の撤回手続きに入ると表明。その12日後の今月8日に死去した。県は翌9日に予定通り沖縄防衛局の反論を聞く「聴聞」を実施し、反論内容の分析を進めている。知事の職務代理者の富川盛武副知事は14日、県庁で記者団に「いつでも（撤回を）打てる態勢で準備を進めているが、日々状況が変化している」と語った。

県関係者によると、知事の死後、政府側から県側に「撤回の決定を先送りするなら、土砂投入も知事選後まで延期する」という趣旨の打診があった。13日に2人の副知事から説明を受けた県政与党の県議は「政府の話に乗っては

いけない。躊躇（ちゅうちょ）なく撤回をすべきだ」と主張した。

防衛省沖縄防衛局は6月、投入を8月17日以降に始めると県に通知していた。11月の知事選と時期を離すことで悪影響を抑えつつ、工事を進める狙いだった。

しかし知事選は11月18日から9月30日に早まった。土砂投入は政府・与党が新知事に推す佐喜真淳・宜野湾市長への逆風に直結する。政府は今年17日の投入に固執しない構えで、菅義偉官房長官は10日の翁長知事の通夜の参列後、「しばらく（県の動きを）見守りたい」と記者団に述べた。

県が撤回を決定すれば投入はいったん止まるが、すぐに始まる法廷闘争を経て、移設阻止のための「最後のカード」を失いかねないリスクがある。既に県の「承認取り消し」を違法とする最高裁判決が2016年に確定しているからだ。防衛省幹部は「撤回の執行停止」を求める訴訟に「負けるはずがない」と強気に語る。

一方、ある県議は「政府は投入を先送りするかもしれないが、だからと言って撤回をやらないでいいことにはならない。翁長知事の県民との約束を裏切ることになる」と指摘する。県執行部は「トップ不在」の状況で、政府と県内の民意を見ながら撤回時期を探る難しい判断を迫られている。【遠藤孝康、佐野格、秋山信一】

産経新聞 2018.8.15 05:01 更新

【普天間移設】辺野古 土砂投入を延期 台風影響、17日は断念 政府方針 沖縄知事選後 ずれ込みも



米軍普天間飛行場の移

設工事が進む沖縄県名護市辺野古の沿岸部＝6月26日

政府が、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の名護市辺野古移設に関し、17日に予定していた辺野古埋め立てのための土砂投入を見送る方針を固めたことが14日、分かった。複数の政府関係者が明らかにした。台風の影響で17日からの作業には間に合わないと判断した。週明け以降、県が検討する埋め立て承認の撤回に向けた動きなどを踏まえて投入時期を探るが、9月30日投開票の知事選後までずれ込む可能性もある。

防衛省は6月、県赤土等流出防止条例に基づき、土砂投入を「8月17日」と通知していた。しかし、台風14号が今年11日に沖縄本島に接近したため、埋め立てによる周辺海域の汚濁を防止するシートなどを一部撤去していた。さらに台風15号の影響で現場海域の波が高く、土砂投入の準備が整うのは週明け以降となる見通しだ。

辺野古埋め立てをめぐるっては、埋め立て承認を撤回する意向を表明していた沖縄県の翁長雄志知事が8日に死去した。県は防衛省からの反論を聞く「聴聞」を予定通り9日に実施したが、撤回に踏み切る時期については明らかにしていない。知事の職務代理者を務める富川盛武副知事は14日、記者団に「土砂投入までに撤回するが、時期を申し上げることは戦略的に差し控えたい」と述べた。

翁長氏を支えてきた県議会会派の複数の幹部は、埋め立て承認撤回の是非を知事選の争点とするため、知事選後に先送りするよう主張している。ただ、撤回を先送りしたまま土砂投入が行われた場合、辺野古移設反対でまとまってきた翁長氏の支持母体「オール沖縄」の求心力が落ちる恐れもある。

政府内では、県との対立が先鋭化するのを避け、知事選が終わるまで土砂投入を控えた方がいいとの見方がある。その一方で、普天間飛行場の危険性除去に向けた不退転の決意を示すには知事選と関係なく土砂投入を行うべきだという意見もある。

政府は今後、県側の出方を見極めながら土砂投入の時期を決める構えで、双方の神経戦が始まっている。

辺野古新基地 国、土砂投入先送り 知事死去「喪に服す期間」

琉球新報 8/15(水) 6:34 配信



土砂投入が予定されている「N3護岸」と「K4護岸」がつながった埋め立て区域「2-1」＝名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブ沿岸（小型無人機で撮影）

米軍普天間飛行場の移設に伴う名護市辺野古の新基地建設に関し、国は13日までに、8月17日以降と通知していた埋め立て土砂の投入を先送りする方針を県に伝えた。翁長雄志氏が知事在任中に死去したことを受け「喪に服す期間」と説明した。県幹部は知事選後まで土砂投入は延期されることになるとの見通しを示している。複数の関係者が明らかにした。工事強行の印象を薄め、知事選への影響を回避する狙いが国側にあるとみられる。

国は県による埋め立て承認撤回を延期することも県に要請しており、双方の今後の動向が注目される。



富川盛武、謝花喜一郎両副知事は13日、県議会与党会派の代表者と面談し、国からの説明を伝えた。13日から知事の職務代理者の富川副知事は14日、記者団の取材に「刻々と変化する状況を踏まえ、いつでも（撤回を）打てるよう準備しながら時期を検討している」と述べた。国との交渉内容については答えなかった。

## 沖縄知事選、佐喜真氏が出馬表明＝移設反対派も擁立作業に着手



沖縄県知事選への出馬を表明する沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長＝14日午後、同市役所

沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長は14日午後、市役所で記者団に対し、翁長雄志知事の急逝に伴う沖縄県知事選（9月13日告示、30日投開票）に立候補する意向を正式に表明した。移設反対派も翁長氏の後継候補擁立に向けた調整に着手。人選を急ぐとみられ、双方の動きが活発化してきた。

【特集】沖縄・翁長知事死去～67歳、9月に選挙～

佐喜真氏は出馬表明に先立ち、市議会議長に辞職願を提出した。17日の臨時市議会で同意が得られる見通しだ。

この後、記者団に対し、米軍普天間飛行場（同市）の名護市辺野古移設をめぐる県と国の対立を念頭に「対立から協調へ未来志向で沖縄のあるべき姿を見据えなければならない」と強調。ただ、移設の是非については「後日しっかりお答えしたい」と述べ、明言を避けた。

佐喜真氏は宜野湾市議、県議を経て2012年2月に宜野湾市長に就任し、現在2期目。自民党県連が先に県知事選候補として擁立する方針を決め、応じる意向を示していた。

一方、翁長氏を支援してきた県政与党の社民、共産両党などの政党や地元企業関係者らは14日午後、那覇市内で会合を開き、今後の対応を協議。「翁長氏の遺志を受け継ぐ者」の擁立を目指し、選考を早急に進めることを確認した。社民党の照屋大河県議は記者団に「命を賭して闘った人の火を消してはいけない」と記者団に語った。（時事通信2018/08/14-18:59）

## 宜野湾市長が沖縄知事選出馬表明 辺野古反対派も擁立急ぐ

共同通信 2018/8/14 13:11



沖縄県知事選への出馬を表明する佐喜真淳宜野湾市長＝14日午後、宜野湾市役所

沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長（54）は14日、翁長雄志知事の死去に伴う9月30日投開票の県知事選への立候補を市役所で正式表明した。翁長氏の県政運営を「国との関係について争いが絶えず、ひずみや分断が生まれた」と批判した上で「対立から協調へ、未来志向で沖縄のあるべき姿を見据えなければならない。国との関係を改めて構築することが欠かせない」と指摘した。

知事選は米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設が争点となる見通し。佐喜真氏は移設を推進する安倍政権が支援する方針だ。一方の移設反対派は候補者が決まっておらず、擁立作業を急いでいる。

## 沖縄知事選に宜野湾市長が出馬表明 自民県連の要請受諾

朝日新聞デジタル伊藤和行、山下龍一 2018年8月14日 12時56分

沖縄県の翁長雄志（おながたけし）知事の急逝に伴い9月30日に投開票される知事選に、佐喜真（さきま）淳（あつし）・宜野湾市長（54）が立候補することを14日、正式に表明した。一方、国と激しく対立した翁長氏を支持してきた「オール沖縄」勢力は同日、後継候補の人選を始めた。副知事や経済人らの名が関係者の間で挙がっており、決定を急ぐ。

「対立や分断から無縁な沖縄を取り戻す」。市議会議長に辞表を提出した佐喜真氏は14日午後、報道陣に決意を述べた。自民党県連が擁立し、選挙戦では公明と日本維新の会の支援を受けた上で、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設を進める安倍政権が全面的に後押しする見通し。報道陣から辺野古移設について問われたが、「政策発表の段階で答えたい」と具体的には語らなかった。

佐喜真氏は元県議で、自民党県連の政調会長も務めた。2012年に宜野湾市長に初当選し2期目の途中。普天間飛行場の早期返還を訴えてきた。

一方、社民や共産などのオール沖縄勢力は、候補者擁立を進める「調整会議」で人選を含め今後の対応を話しあった。終了後、議長を務める照屋大河県議は報道陣に「しかるべき時期に各組織が候補を持ち寄りたい」と説明した。次回の日程は未定。

「翁長氏と同様に、日米安保を容認した上で、過重な基地負担にNOと言える人物」。県政与党幹部は選考基準をこう話す。これまでに謝花（じゃはな）喜一郎（61）、富川盛武（もりたけ）（70）両副知事のほか、保守系の会社経営者で翁長氏を支持してきた呉屋守将（ごやもりまさ）氏（69）らの名前が取りざたされている。（伊藤和行、山下龍一）

## 沖縄知事選、佐喜真・宜野湾市長が出馬表明

読売新聞 2018年08月14日 13時26分

### おながたけし

翁長雄志氏の死去に伴う沖縄県知事選（9月13

### さきまあつし

日告示、30日投開票）で、同県宜野湾市長の佐喜真淳氏（54）が14日、正式に出馬を表明した。佐喜真氏は自民党県連などから出馬要請を受けていた。

佐喜真氏は宜野湾市役所で記者団に、「対立や分断から無縁な沖縄を取り戻すために、全身全霊を懸ける決意だ」と述べた。

知事選は、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への移設の是非が主な争点となる見込み。翁長氏を支援してきた共産党や社民党などは後継候補の選定を急いでおり、現職首長や県幹部らの名前が取りざたされている。

佐喜真氏は宜野湾市出身。同市議などを経て、2012年の市長選で初当選し、現在2期目。14日に市議会議員に辞職願を提出した。市長選は知事選と同日選となる可能性が高い。

知事選には、元沖縄観光コンベンションビューロー会長

### あさとしげのぶ

の安里繁信氏（48）も立候補を表明している。

## 沖縄知事選 宜野湾市長が出馬表明 安倍政権、全面支援へ

毎日新聞 2018年8月14日 18時54分(最終更新 8月14日 22時22分)

沖縄県の翁長雄志（おなが・たけし）知事の死去に伴う9月30日投開票の知事選で、沖縄県宜野湾市の佐喜真淳（さきま・あつし）市長（54）が14日、立候補することを正式に表明した。安倍政権が全面的に支援する。佐喜真氏は自民県連などで行く候補者選考委員会からの出馬要請を受諾していた。

佐喜真氏はこの日、市議会議員に18日付の辞表を提出。市長選は知事選と同日選になる公算が大きい。

佐喜真氏は宜野湾市役所で記者団に対し、「対立や分断から無縁な沖縄を取り戻すために全身全霊をかける」と述べた。米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古への県内移設計画の賛否については、「政策発表の段階でしっかり答えたい」と明言を避けた。

佐喜真氏は元自民県議。2012年の市長選で初当選し、現在2期目。自民に加え、公明や日本維新の会も支援する見通しだ。

一方、翁長知事を支えてきた県政与党や団体は14日、那覇市で協議し、翁長知事の遺志を継いで辺野古移設に反対する候補の擁立を目指すことを確認した。

知事選には、元日本青年会議所会頭の安里繁信氏（48）も出馬表明している。【比嘉洋、遠藤孝康】

## 宜野湾市長が沖縄知事選へ出馬表明 「対立から協調へ」

日経新聞 2018/8/14 13:24

沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長は14日、同市役所で記者団に、9月30日投開票の知事選に出馬すると正式表明した。8日に死去した翁長雄志氏の約4年間の県政運営は「国と争いが絶えずひずみや分断が生まれた」と指摘。「対立から協調へ。未来志向で沖縄のあるべき姿を見据えていく」と語った。

佐喜真氏は自民党から出馬要請を受けていた。知事選は政府が進める米軍普天間基地（同市）の名護市辺野古移設計画が焦点の一つになる。辺野古問題に関しては「いささかも（普天間返還は）遅れてはいけない」と述べるにとどめた。

県内経済が好調である点に触れ「沖縄は日本の経済成長の重要な一翼を担うまでになった」と指摘。「沖縄の経済や産業がダイナミズムを持ち、世界がうらやむような豊かな社会を築く」と述べるとともに「基地の跡地利用をダイナミックに具体化していく」とも話した。

産経新聞 2018.8.14 23:01 更新

## 【沖縄県知事選】宜野湾市長の佐喜真淳氏が出馬表明 普天間飛行場移設反対派も翁長氏後継の絞り込み急ぐ

沖縄県宜野湾市の佐喜真淳市長（54）は14日、翁長雄志知事の死去に伴う知事選（9月30日投開票）への立候補を正式に表明した。また、米軍普天間飛行場（宜野湾市）の名護市辺野古移設に反対する共産党や社民党、労組などは14日に那覇市内で会合を開き、早急に翁長氏の後継候補を絞り込む方針を確認した。

佐喜真氏は市役所で記者団に対し、辺野古移設に反対した翁長県政について「国との関係で争いが絶えず、ひずみや分断が生まれた」と批判した。辺野古移設への対応に関しては「政策発表の段階でお答えしたい」と述べるにとどめた。表明に先立ち市議会議員に辞職願を提出した。

佐喜真氏は自民党県連が擁立した。公明党、日本維新の会の推薦も求める。元日本青年会議所会頭の安里繁信氏（48）も出馬表明しており、自民党県連は佐喜真氏への一本化に協力を求めて調整を急ぐ。翁長氏の後継候補を協議する14日の会合には、翁長氏の職務代理者を務める富川盛武副知事も出席した。富川氏は「翁長氏は最後まで出馬す



る意思があった。(後継候補は) その気持ちをくんで引き継げる人をお願いしたい」と述べた。

産経新聞 2018.8.14 23:03 更新

## 【沖縄知事選】出馬表明の佐喜真淳氏「普天間飛行場の危険性除去」を前面に 翁長雄志氏批判は抑え気味

「普天間飛行場が宜野湾市の中央部に居座り続ける事態があってはならない」

14日に沖縄県知事選に出馬する意思を正式表明した宜野湾市の佐喜真淳市長が最も力点を置いたのは、普天間飛行場の「危険性除去」だった。

普天間飛行場は平成8年4月、当時の橋本龍太郎首相とクリントン米大統領が返還に合意したが、22年たっても実現していない。16年8月には普天間飛行場所属の米海兵隊ヘリが隣接する沖縄国際大に墜落した。昨年12月も普天間第二小学校の校庭にヘリの窓枠が落下する事故が起きた。

政府が移設計画を進める名護市辺野古は周辺に住宅が少なく、危険性は大幅に低減する。ただ、8日に死去した翁長雄志知事は辺野古移設に反対し、政府と激しく対立してきた。米軍専用施設の約7割が沖縄県に集中することを問題視したためだが、普天間飛行場の危険性除去が置き去りになった面は否めない。

自民党が宜野湾市長の佐喜真氏を推す理由もここにある。県連幹部は「佐喜真氏は市民の安全に責任を負ってきた。だからこそ辺野古移設を容認しても説得力がある」と語る。翁長氏の後継候補は辺野古移設反対を掲げる見通しで、これに対抗するためには佐喜真氏が適任というわけだ。

政府高官や自民党本部の幹部とのパイプが太いことも、佐喜真氏の強みだ。1人当たり県民所得、若者の正規雇用率、子供の貧困率、学力…。佐喜真氏は全国最低レベルの沖縄県の現状を列挙し、「こういう施策は沖縄だけではできない。国との関係を改めて構築することは欠かせない」とも語った。

ただ翁長氏が死去したことで、佐喜真氏は選挙戦術の微妙な修正を迫られた。

県内の選挙では、候補者が正式に出馬表明する記者会見に後援会関係者らが集まり、候補者の後ろに居並ぶのが通例だ。だが、14日の記者会見に臨んだのは佐喜真氏のみだった。県連関係者は「喪が明けていないのに派手にやると批判を浴びかねないので、こういう形になった」と解説する。

知事選が翁長氏の「弔い合戦」となり、後継候補に追い風が吹く恐れもぬぐえない。このため、佐喜真氏は14日も翁長氏について「沖縄の過重な基地負担を全国に知らしめたことなど、功績は非常に大きかった」と述べるなど、批判のトーンを抑えざるを得なかった。

(杉本康士)

## 来月の沖縄知事選に向けた動き活発に

NHK2018年8月15日 4時23分

翁長知事の死去に伴い来月行われる沖縄県知事選挙に向けて、立候補を決めている宜野湾市の佐喜真淳市長は、14日、市長の辞職願を提出し、決意を示しました。一方、知事を支持してきた政党や団体は、アメリカ軍普天間基地の移設阻止などに取り組む後継候補を早急に擁立することを確認しました。

翁長知事の死去に伴う沖縄県知事選挙は、来月13日に告示、30日に投票が行われます。

翁長知事と対立してきた自民党や経済団体などの要請を受け、立候補を決めている宜野湾市の佐喜真淳市長は、14日、市長の辞職願を提出しました。

そして、「翁長県政の4年間は国との争いが絶えず、ひずみや分断が生まれたことも事実ではないか。対立から協調へ未来志向で沖縄のあるべき姿を見据えていかなければならない」と決意を示しました。

一方、翁長知事を支持してきた共産党や社民党などに加え、企業の代表者らは、会合で、知事の遺志を受け継ぎ、アメリカ軍普天間基地の名護市辺野古への移設阻止などに全力で取り組む後継候補を早急に擁立することを確認しました。会合の議長の照屋大河・県議会議員は「いつまでに擁立するかは決めていないが、なるべく早く翁長知事の遺志を受け継ぐ人を選びたい」と述べるなど、今後、双方の動きがさらに活発になる見通しです。

しんぶん赤旗 2018年8月15日(水)

## 沖縄知事選 宜野湾市長 出馬表明 新基地触れず翁長県政を批判

沖縄県名護市辺野古米軍新基地建設を容認する自民党県連の要請を受けて県知事選(9月13日告示、30日投票)に出馬予定の佐喜真淳宜野湾市長は14日、市役所で大城政利市議会議長に辞職願を提出しました。17日の臨時市議会で同意され、18日に失職する見込みです。佐喜真市長は知事選出馬も正式に表明しました。

佐喜真市長は故・翁長雄志知事について「沖縄の過重な基地負担を全国に知らしめた」と評価する一方、翁長知事が新基地建設反対を最後まで貫いたことを念頭に、「国との関係などにおいて争いが絶えず、ひずみや分断」が生まれたと発言。県民の新基地反対の民意を無視して新基地建設を強行する国については無批判でした。

記者団から辺野古新基地の是非について問われるも、「後日、しっかり答えたい」と言及を避けました。

翁長氏後継候補 那覇で調整会議

14日、日本共産党を含む県政与党、中道保守勢力、経済界、労働組合などで構成する「調整会議」は那覇市で会合を開きました。

「オール沖縄」の知事選候補者の選定基準として、翁長知事の遺志を引き継ぎ、辺野古新基地を造らせないという建白書実現のために頑張る人物であることを確認しました。

## 【報ステ】『イージス・アショア』防衛費が過去最大

ANN2018/08/14 23:30

来年度の防衛省の予算要求額は、過去最大の 5.4 兆円に上ることがわかった。予算を押し上げる要因は、政府が新たに導入しようとしている弾道ミサイル防衛システム『イージス・アショア』だ。導入費で約 2000 億円が盛り込まれるとみられる。さらに、今後 20 年にわたる維持費や迎撃ミサイルの費用も高額で、トータルのコストは 6000～7000 億円程度に上ることがわかった。防衛省はイージス・アショアを秋田市にある陸上自衛隊の『新屋演習場』と、山口県萩市と阿武町にまたがる『むつみ演習場』に配備する計画だ。この 2 基で日本本土をミサイルから防衛できるとしている。しかし、地元住民からは、レーダーから出る強力な電磁波を心配する声や、有事の際、テロなど攻撃の対象になるのではないかなど不安の声が上がっている。

## オスプレイが緊急着陸＝奄美空港、昨年から 4 回目－鹿児島

米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の海兵隊所属の輸送機 MV 22 オスプレイ 1 機が 14 日午後、鹿児島県・奄美空港に緊急着陸した。防衛省によると、けが人はなかったが、民間航空機の運航に一部遅れが出た。同空港にオスプレイが緊急着陸したのは、2017 年 6 月以来、4 回目。同省は詳しい原因など情報を収集している。

防衛省によると、同日午後 5 時 20 分ごろ、コックピット内の警告灯が点灯したオスプレイ 1 機が、奄美空港に緊急着陸。安全を確認して約 2 時間後、乗員数人を残して離陸した。同 8 時ごろには、別の 1 機が同空港に立ち寄り、残されていた乗員を乗せて離陸した。

今年 6 月に緊急着陸した米空軍の CV 22 オスプレイは、エンジン故障の部品交換や整備のため、1 カ月間同空港に駐機した。

また、同省沖縄防衛局などによると、別のオスプレイ 2 機が同 5 時 50 分と同 6 時半ごろ、米軍嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）に着陸した。2 機は 6 時 50 分ごろ、離陸しており、同局は米軍に所属や緊急性の有無などの情報を求めている。（時事通信 2018/08/15-00:07）

## 米軍オスプレイ、相次ぎ緊急着陸 奄美空港と嘉手納基地共同通信 2018/8/14 20:57

14 日午後、米海兵隊輸送機 MV22 オスプレイが、鹿児島県の民間の奄美空港（奄美市）と沖縄県の米軍嘉手納基地（嘉手納町など）に相次いで緊急着陸した。いずれも原因は分かっておらず、けが人の情報は無い。防衛省九州防

衛局と政府関係者が明らかにした。奄美の 1 機は米海兵隊普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）所属。嘉手納基地の 1 機も同じ所属の可能性はある。



鹿児島県奄美市・奄美空港、沖縄・米軍嘉手納基地

奄美空港へは午後 5 時 20 分ごろ緊急着陸し、約 2 時間後に離陸。嘉手納基地に午後 5 時 50 分ごろ緊急着陸した機体は、離陸後の午後 7 時ごろ普天間飛行場に着陸した。

## オスプレイ、奄美空港に緊急着陸 昨年 6 月以降で 4 回目朝日新聞デジタル古城博隆 2018 年 8 月 14 日 23 時 37 分

米軍普天間飛行場（沖縄県）所属の輸送機 MV 22 オスプレイ 1 機が 14 日午後 5 時 20 分ごろ、奄美空港（鹿児島県）に緊急着陸した。防衛省によると、けが人はなかったが、民間機に約 25 分の遅れが出た。米軍は警告灯が点灯したため手順に沿って着陸したと説明したという。オスプレイは午後 7 時 20 分ごろに離陸した。

オスプレイの同空港への緊急着陸は昨年 6 月以降、4 回目。防衛省は、在沖米海兵隊に安全管理の徹底を申し入れた。

奄美空港は普天間飛行場と米軍岩国基地（山口県）の間に位置する。昨年 6 月と今年 4 月に MV 22 が機体の不具合で緊急着陸した。今年 6 月には岩国基地を經由して米空軍の嘉手納基地（沖縄県）に向かっていた米空軍の CV 22 オスプレイがエンジンの不具合で緊急着陸した。交換部品の取り寄せに時間がかかり、同空港を離れるまで 1 カ月かかった。（古城博隆）

## オスプレイ 3 機が緊急着陸 奄美空港と嘉手納基地に毎日新聞 2018 年 8 月 14 日 20 時 24 分(最終更新 8 月 14 日 23 時 20 分)



オスプレイ＝野田武撮影

14 日午後 5 時 20 分ごろ、米軍普天間飛行場（沖縄県

宜野湾市) 所属の垂直離着陸輸送機MV 2 2 オスプレイ 1 機が、鹿児島県奄美市の奄美空港に着陸した。また、午後 5 時 5 0 分ごろと午後 6 時半ごろには、普天間飛行場所属とみられるオスプレイ 1 機ずつが相次いで米軍嘉手納基地 (沖縄県嘉手納町など) に着陸した。

防衛省によると、米軍は奄美空港に着陸した 1 機について、警告灯が点灯したために予防着陸したと説明しているという。けが人はなく、機体の損傷もなかった。嘉手納基地に着陸した 2 機も含め、3 機はその後に離陸した。【杉谷 健太、比嘉洋】

### オスプレイ相次ぎ緊急着陸 鹿児島・奄美と沖縄の基地

日経新聞 2018/8/14 19:14

14 日午後、米海兵隊輸送機MV22 オスプレイが、鹿児島県の民間の奄美空港 (奄美市) と沖縄県の米軍嘉手納基地 (嘉手納町など) に相次いで緊急着陸した。いずれも原因は分かっておらず、けが人の情報は無い。防衛省九州防衛局と政府関係者が明らかにした。奄美の 1 機は米海兵隊普天間基地 (沖縄県宜野湾市) 所属。嘉手納基地の 1 機も同じ所属の可能性はある。

奄美空港へは午後 5 時 20 分ごろ緊急着陸し、約 2 時間後に離陸。嘉手納基地に午後 5 時 50 分ごろ緊急着陸した機体は、離陸後の午後 7 時ごろ普天間基地に着陸した。

米側は、奄美への着陸に関し、コックピットの警告灯が点灯したためだと説明。最も安全な方法で着陸し、けが人も機体の損傷も無かったと強調した。

九州防衛局によると奄美空港では民間機に最大 25 分の遅れが出た。福岡航空地方気象台によると、奄美空港周辺の緊急着陸時の天気は晴れだった。

奄美空港には、今年 6 月に空軍仕様の CV22 が、今年 4 月と昨年 6 月には普天間基地所属の MV22 が、それぞれ緊急着陸している。〔共同〕

### 米海兵隊のオスプレイ 2 機、緊急着陸 奄美空港と嘉手納基地

東京新聞 2018 年 8 月 15 日 朝刊

十四日午後、米海兵隊輸送機MV 2 2 オスプレイが、鹿児島県の民間の奄美 (あまみ) 空港 (奄美市) と沖縄県の米軍嘉手納 (かでな) 基地 (嘉手納町など) に相次いで緊急着陸した。いずれも原因は分かっておらず、けが人の情報は無い。防衛省九州防衛局と政府関係者が明らかにした。奄美の一機は米海兵隊普天間 (ふてんま) 飛行場 (沖縄県宜野湾 (ぎのわん) 市) 所属。嘉手納基地の一機も同じ所属の可能性はある。

奄美空港へは午後五時二十分ごろ緊急着陸し、約二時間後に離陸。嘉手納基地に午後五時五十分ごろ緊急着陸した機体は、離陸後の午後七時ごろ普天間飛行場に着陸した。

米側は、奄美への着陸に関し、コックピットの警告灯が

点灯したためだと説明。最も安全な方法で着陸し、けが人も機体の損傷も無かったと強調した。

九州防衛局によると奄美空港では民間機に最大二十五分の遅れが出た。福岡航空地方気象台によると、奄美空港周辺の緊急着陸時の天気は晴れだった。



### オスプレイ 鹿児島島の奄美空港に着陸 約 2 時間後に飛び立つ

NHK2018 年 8 月 14 日 20 時 52 分



14 日夕方、鹿児島県の奄美空港にアメリカ軍の輸送機、オスプレイ 1 機が着陸し、およそ 2 時間後に再び飛び立ちました。九州防衛局によりますと、着陸した理由など、詳しいことはわかっていないということです。

九州防衛局によりますと、14 日午後 5 時 22 分ごろ、鹿児島県の奄美空港にアメリカ軍の輸送機オスプレイ 1 機が着陸したということです。

乗組員などにけがはなく、機体の外観に損傷は見当たらないとしています。オスプレイは着陸からおおよそ 2 時間たった午後 7 時 19 分ごろ、再び飛び立ちました。

また、奄美空港を管理する鹿児島県によりますと、オスプレイの着陸により奄美空港では一部の便に遅れが出ましたが、欠航した便はないということです。

九州防衛局はアメリカ軍からは情報の提供がなく、着陸した理由などはわからないとしています。

オスプレイをめぐっては去年 6 月とことし 4 月、そしてことし 6 月にも奄美空港に緊急着陸しています。このため奄美市など空港周辺の 5 つの市町村は、政府に対して米軍に対策を要請するよう求める文書を提出したばかりでした。

### 米、国防権限法が成立 トランプ氏「軍再建」を強調





トランプ米大統領 (ゲッティ=共同)

【ワシントン共同】トランプ米大統領は13日、2019会計年度(18年10月~19年9月)に戦費を含め計7160億ドル(約80兆円)の国防予算を計上する国防権限法案に署名し、同法は成立した。米メディアによると、国防予算はこの9年間で最大規模。東部ニューヨーク州のフォートドラム陸軍基地で大勢の兵士を前に署名式を開き、巨額の予算確保で「米軍再建」を重視する姿勢を強調した。

演説でトランプ氏は今回の予算で77機のステルス戦闘機F35など最新鋭の戦闘機や軍艦を導入し、兵力を増強すると表明。

また、兵士の給与や福利厚生を充実させるとアピールした。

**トランプ氏、国防権限法に署名 対中国強硬姿勢を鮮明に**  
朝日新聞デジタルワシントン=園田耕司、青山直篤、北京=西村大輔 2018年8月14日12時59分

トランプ米大統領は13日、2019会計年度(18年10月~19年9月)の国防予算の枠組みを決める総額約7160億ドル(約80兆円)の国防権限法に署名し、同法が成立した。同法は、米政府機関とその取引企業に対し、中国情報通信大手の華為技術(ファーウェイ)や中興通訊(ZTE)の機器を使うことを禁止するなど、対中強硬姿勢を鮮明にした。

トランプ氏は13日、訪問先の米ニューヨーク州で演説し、「(オバマ前政権では)ひどい削減が続いたが、我々は今こそ米軍を再建する」と述べた。トランプ政権下の国防費は18会計年度の約7千億ドルに続き、増額となった。

トランプ政権は17年12月に中国を「競争国」と規定する国家安全保障戦略を策定しており、今回の国防権限法でも貿易問題や南シナ海問題で中国への厳しい姿勢を際立たせた。中国情報通信大手の機器使用を禁じたほか、中国などへの技術流出を食い止めるため、海外企業の投資を審査する「対米外国投資委員会」(CFIUS)の権限を強める規定も盛り込んだ。多国間軍事演習である「環太平洋合同演習」(リムパック)については、中国が南シナ海の軍事拠点化をやめない限り、参加を禁じると明記した。

一方、中国と対照的に、台湾との防衛協力を強化する方針を打ち出し、軍事演習の促進を盛り込んだ。3月に成立

した台湾旅行法に基づき、米・台湾防衛当局者の相互訪問も明記した。

中国外務省の陸慷報道局長は14日、国防権限法に「強烈な不満」を表明、「冷戦思考とゼロサムゲームの理念を捨て、正確かつ客観的に両国関係を扱うよう米国側に促す」とコメントを発表した。

同法は中国と同じ「競争国」であるロシアにも厳しい姿勢を示した。16年の米大統領選干渉を念頭に、ロシアの「悪意のある作戦」への対抗戦略を構築する方針を明記した。また、トルコに対してはロシアから地対空ミサイル「S400」を輸入することを理由に、最新鋭戦闘機F35の納入を停止することを盛り込んだ。(ワシントン=園田耕司、青山直篤、北京=西村大輔)

**米国防予算79兆円...権限法成立、中露に厳しく**  
読売新聞 2018年08月14日13時09分



13日、米ニューヨーク州の軍施設で、国防権限法に署名したトランプ大統領(AP)

【ワシントン=海谷道隆、山本貴徳】米国の2019会計年度(18年10月~19年9月)の国防予算の大枠や国防方針などを定めた国防権限法は13日、トランプ大統領による署名を経て、成立した。国防予算の総額は約7160億ドル(約79兆円)で、この9年間で最大規模となる。トランプ氏が掲げる「米軍再建」を裏打ちするもので、中国やロシアに対する厳しい姿勢を鮮明にした。

国防権限法は、安全保障上の懸念から、米政府機関が、中国の通信大手「中興通訊(ZTE)」と「華為技術(ファーウェイ)」のサービスや機器を利用することを禁じた。国防総省が今年の中国の招待を取り消した環太平洋合同演習(リムパック)を巡っては、中国の参加を認めない方針を盛り込んだ。また、米国企業が持つ情報技術(IT)の中国などへの流出を防ぐ狙いから、海外企業による米国企業の買収や合併などを審査する「対米外国投資委員会」(CFIUS)の権限を強化し、審査対象を拡大することも明記した。

**米国防予算、過去9年で最大規模に 国防権限法が成立**  
日経新聞 2018/8/14 6:56

【ワシントン=永沢毅】トランプ米大統領は13日、2019会計年度(18年10月~19年9月)の国防予算の大枠を決



める国防権限法に署名し、同法が成立した。総額 7170 億ドル (約 79 兆円) で、この9年間で最大規模という。国防費の増強で中国やロシアに対抗する姿勢を鮮明にした。

同法には、中国政府による米国でのスパイ活動に利用されている中国の通信機器大手、中興通迅 (Z T E) 華為技術 (ファーウェイ) との契約を米政府に禁じる規定を入れた。台湾への武器供与を推進する方針も入れ、台湾への威嚇を続ける中国をけん制した。

また、国防長官が国益にかなうと認めない限りは約 2 万 8000 人の在韓米軍を 2 万 2000 人以下に減らさないよう義務付けた。トランプ氏が将来の規模縮小や撤収を唱えているため、米議会が大枠をはめた形だ。

## 米国防予算 80 兆円 「競争相手」中ロに対抗

東京新聞 2018 年 8 月 15 日 朝刊

【ワシントン＝石川智規】二〇一九会計年度 (一八年十月～一九年九月) の米国防予算の大枠を決める国防権限法が十三日、成立した。トランプ大統領がニューヨーク州フォートラム陸軍基地で多数の兵士を前に同法案に署名した。戦費を含む総額は七千六百十億ドル (約八十兆円) で、過去九年間で最大。中国やロシアなどの「競争相手」を強く意識し、防衛力増強に加え取引規制措置などの条項も盛り込んで、両国への対抗姿勢を鮮明にしている。

一九年度国防予算を巡っては、トランプ政権が二月の予算教書で、総予算四兆四千億ドルの約 1.5・6% に当たる六千八百六十億ドルを要求していた。米議会は軍事増強へ向けて、支持を表明。さらに三百億ドル積み増した国防権限法案を今月上旬に成立させていた。

トランプ氏は十三日、同法の署名に当たって演説し、「今こそ米軍を再建する」と強調。「現役兵士を数千人増やし、老朽化した戦車や航空機、艦船を最新鋭の技術を持つものに刷新していく」と語った。

具体的には、最新鋭ステルス戦闘機 F 35 の購入費や、バージニア級原子力潜水艦を含む新たな艦船の建造費などを盛り込んだ。

同法は軍事支出だけでなく、昨年十二月策定の国家安全保障戦略で「戦略上の競争相手」と位置付けた中国やロシアに対抗するための条項も含まれる。

中国に対しては、通信機器大手の中興通迅 (Z T E) や華為技術 (ファーウェイ) と米政府・企業の取引を制限。また、南シナ海の軍事拠点化をけん制する狙いで、多国間海上演習「環太平洋合同演習 (リムパック)」への中国の参加を禁止すると明記した。

ロシアに関しては、十一月の中間選挙を念頭に、サイバー攻撃に対処するための追加措置を盛り込んだほか、ロシアの核兵力に対抗するため、核戦力の研究開発を促進すると規定した。

## 米国防予算 80 兆円 権限法成立 中国に対抗 強調

東京新聞 2018 年 8 月 14 日 夕刊

【ワシントン＝石川智規】トランプ米大統領は十三日、二〇一九会計年度 (一八年十月～一九年九月) の国防予算の大枠を決める国防権限法に署名し、同法は成立した。トランプ氏が掲げる「力による平和」の実現に向けて兵力を増強する内容で、予算総額は戦費を含め七千六百十億ドル (約八十兆円)。米メディアによると一一年度以降、過去九年間で最大規模となった。

トランプ氏は署名に当たり「近年でもっとも重大な投資を行う国防予算だ」と強調。中国に対抗するため「われわれの軍備をかつてない規模で再建する」と意欲を示した。

同法は、最新鋭ステルス戦闘機 F 35 の七十七機購入や、艦船など装備の刷新、新兵数千人の採用費用などを盛り込んでいる。オバマ前政権では国防費の削減が続いていた。

同法は軍事支出だけでなく、米政府・企業が中国通信機器大手の中興通迅 (Z T E) や華為技術 (ファーウェイ) など中国通信機器大手との取引を制限。ハイテク技術の流出や中国によるスパイ活動をけん制するとともに、米海軍主催の環太平洋合同演習 (リムパック) への中国の参加を禁止するなど、中国に厳しい姿勢が目立つ。

## 米 国防予算「中国企業の通信機器 禁止」対抗姿勢鮮明に

NHK 8 月 14 日 11 時 08 分



アメリカのトランプ大統領は、今年度の国防予算の大枠を定める国防権限法案に署名し、政府機関で中国の大手通信機器メーカーの製品を使用することを禁止する条項を盛り込むなど、中国への対抗姿勢を鮮明にしています。

アメリカのトランプ大統領は 13 日、議会が取りまとめた、ことし 10 月から始まる 2019 会計年度の国防権限法案に署名し、法律が成立しました。

国防権限法は今後の国防政策とそれに必要とされる予算の大枠を示したもので、「アメリカ軍の再建」を掲げるトランプ大統領の意向を踏まえ、戦費を含む予算総額は、2018 年度より 170 億ドル余り多い、およそ 7170 億ドル (79 兆円余り) となっています。

トランプ大統領は「ひどい予算削減の時代は終わり、われわれは今、これまでになく形を再建している」と述べて、みずからの成果だと強調しました。

今回の国防権限法では中国について、軍の近代化や強引な投資を通じて国際秩序を覆そうとしている、と指摘してい

ます。  
そのうえで、機密の漏えいを防ぐため、政府機関で中国の大手通信機器メーカーZTEなどの製品の使用を禁止することや、中国を念頭に海外からの投資の審査を強化する条項が盛り込まれるなど、中国への対抗姿勢を鮮明にしています。

一方、北朝鮮をめぐることは、韓国に現在2万8000人余り駐留しているアメリカ軍の兵士について、2万2000人を下回らないことを義務づけ、トランプ政権が一方的に在韓米軍の大規模な縮小を進めることを規制しています。



アメリカのトランプ大統領は13日、議会が取りまとめた、ことし10月から始まる2019会計年度の国防権限法案に署名し、法律が成立しました。

国防権限法は今後の国防政策とそれに必要とされる予算の大枠を示したもので、「アメリカ軍の再建」を掲げるトランプ大統領の意向を踏まえ、戦費を含む予算総額は、2018年度より170億ドル余り多い、およそ7170億ドル(79兆円余り)となっています。

トランプ大統領は「ひどい予算削減の時代は終わり、われわれは今、これまでになく形を再建している」と述べて、みずからの成果だと強調しました。

今回の国防権限法では中国について、軍の近代化や強引な投資を通じて国際秩序を覆そうとしている、と指摘しています。

そのうえで、機密の漏えいを防ぐため、政府機関で中国の大手通信機器メーカーZTEなどの製品の使用を禁止することや、中国を念頭に海外からの投資の審査を強化する条項が盛り込まれるなど、中国への対抗姿勢を鮮明にしています。

一方、北朝鮮をめぐることは、韓国に現在2万8000人余り駐留しているアメリカ軍の兵士について、2万2000人を下回らないことを義務づけ、トランプ政権が一時的に在韓米軍の大規模な縮小を進めることを規制しています。

中国「強い不満を表明」

中国外務省の陸慷報道官はコメントを発表し「アメリカ側が中国の断固とした反対を顧みず、中国に関わる消極的な内容を含む国防権限法案に署名したことについて強い不満を表明する」としてアメリカの対応を批判しています。

そして「アメリカには正確かつ客観的に中国と中米関係を捉え、両国関係と両国の重要な領域での協力を損害を与えないよう促す」としています。

中国商務省の報道官は談話を発表し「法案の内容を全面的に検討し、実施のプロセスにおいて中国企業に与える影響を詳細に調査する」としています。

そのうえで「アメリカは客観的かつ公正に中国の投資者に対応し、国家の安全審査が中国とアメリカの企業の投資協力の妨げになることを避けるべきだ」として反発しています。

台湾とは軍事関係さらに強化

今回の国防権限法には中国が軍事的圧力を強める台湾に対し、武器売却を推進する方針が明記されたほか、マティス国防長官に対し、台湾との軍事演習の拡大や病院船の台湾への寄港を検討することを求める条項が盛り込まれています。

トランプ政権はことし3月、台湾との間で閣僚などの往来を促進する法律を成立させ、先月にはアメリカ海軍の駆逐艦を台湾海峡に派遣するなど中国をけん制する動きを強めていて、台湾との軍事関係のさらなる強化を表明したことで、中国の反発が強まることが予想されます。

#### 南北首脳会談「来月12日にも」＝韓国補佐官が見通し

【ソウル時事】韓国の文在寅大統領の外交ブレーンとして知られる文正仁・統一外交安保特別補佐官は、9月中の平壤開催で合意した南北首脳会談について、「12日から13日の間に行われるだろう」という見通しを明らかにした。13日に放映された韓国のJTBCテレビの報道番組で語った。

文正仁氏は首脳会談の時期について、9月9日の北朝鮮建国70周年記念日以降になると指摘。朝鮮戦争(1950～53年)の終戦宣言が9月下旬の国連総会前に出される可能性に関しては「小さくなった」との見方を示しつつも、「迅速に努力すれば、できないわけではない」と語った。

(時事通信 2018/08/14-09:13)

#### 南北首脳会談、9月中旬有力 大統領訪口は見送りか

共同通信 2018/8/14 12:40

【ソウル共同】韓国の文在寅大統領の外交ブレーン、文正仁・統一外交安保特別補佐官は13日、韓国のJTBCテレビに出演し、9月中に平壤で行うことで南北が合意した首脳会談の日程について「(9月)12日か13日になる」との見通しを示した。韓国では、北朝鮮の建国記念日の9月9日以降で、国連総会が始まる同18日までが有力視されている。

一方、聯合ニュースは14日、9月11～13日にロシア・ウラジオストクで開かれる国際会議「東方経済フォーラム」に李洛淵首相の出席が検討されていると報じた。文在寅氏が招待されていたが、南北首脳会談の日程が考慮されている可能性がある。



韓国、南北会談へのめり 米は「譲歩しすぎ」を警戒  
朝日新聞デジタル 牧野愛博、ワシントン=土佐茂生 2018年8月14日 15時54分



北朝鮮と米韓の関係

韓国と北朝鮮は13日、文在寅（ムンジェイン）大統領と金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長による3回目の首脳会談を、9月中に平壤で行うことで合意した。支持率を回復させたい韓国と、非核化の米朝交渉を打開したい北朝鮮との利害が一致した。米国は非核化に踏み込むよう北朝鮮に引き続き求めつつ、韓国による譲歩も警戒している。（牧野愛博、ワシントン=土佐茂生）

南北関係筋によれば、文政権は最近、重要政策と位置づける南北対話路線が、米朝関係の行き詰まりを受けて崩壊するとの危機感を強めていた。

文政権内には、南北首脳会談を、板門店宣言でうたう「今秋」から前倒して8月末に開くべきだとの意見も浮上。国家情報院の徐薫（ソフン）院長が7月下旬に訪米し、米側の反応を探った。

徐氏は米側に、北朝鮮が非核化に応じるよう説得するには、南北経済協力と朝鮮戦争の終戦宣言が必要だと主張。中断している開城工業団地と金剛山観光の再開に意欲を示し、両事業を経済制裁の「例外」にできないか打診した。

米国はいずれの事業についても…

### 米兵遺骨返還 「すべて人骨だった」米国防総省幹部

毎日新聞 2018年8月15日 08時59分(最終更新 8月15日 08時59分)

【ワシントン 洪江千春】北朝鮮が先月27日、米国に引き渡した米兵の遺骨について身元確認作業を進めている米国防総省捕虜・行方不明者調査局（DPAA）の幹部は14日、ホワイトハウスで記者会見し、「すべて人骨だった」と明らかにした。

遺骨は、朝鮮戦争（1950～53年）で死亡・行方不明になった米兵のものとされている。米国はひつぎ55基を受け取ったが、DPAAは「遺体の人数とは必ずしも一致しない」としている。過去の返還時と同様、他国の兵士

の遺骨が交じっている可能性もあるという。

DPAAは数週間内に東部デラウェア州の軍施設でDNA鑑定を始める予定。歯の治療痕、身体的特徴なども含めて身元確認を目指す。作業は数カ月から数年かかるという。

DPAA幹部はさらなる遺体返還について「時期は言える段階ではないが、そう遠くないことを望んでいる」と期待感を示した。米朝は今年6月にシンガポールで開催した首脳会談の共同宣言で、米兵の遺骨返還や収集で合意していた。

### 「南北の関係改善 非核化が不可欠」米国防務省

NHK 2018年8月14日 12時42分

韓国と北朝鮮が13日、来月、首脳会談を行うことで合意したことについて、アメリカ国防務省の当局者は、北朝鮮が非核化に向けて具体的な措置をとることが不可欠だとする立場を改めて示しました。

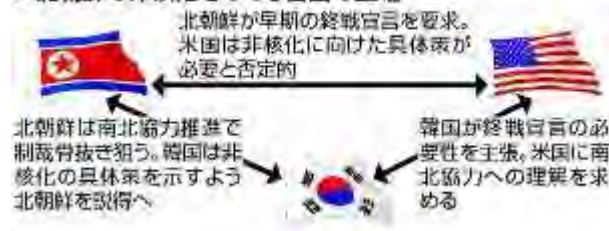


韓国と北朝鮮は13日、軍事境界線にあるパンムンジォム（板門店）で閣僚級会談を開き、ムン・ジェイン（文在寅）大統領が来月、ピョンヤンを訪問してキム・ジョンウン（金正恩）朝鮮労働党委員長と会談することで合意しました。これについてアメリカ国防務省の当局者は13日、NHKの取材に対し「南北の関係改善は北朝鮮の核問題の解決と切り離して進めることはできない、とムン大統領が表明している」と指摘し、北朝鮮が非核化に向けて具体的な措置をとることが不可欠だとする立場を改めて示しました。また「北朝鮮が非核化に応じなければ、経済制裁は完全に有効なままだ」と述べて、非核化の実現に向けて経済制裁を維持する重要性を強調しました。アメリカとしては、経済制裁の緩和に安易に応じないよう韓国政府にくぎを刺す狙いもあるとみられます。

### 韓国、首脳会談開催へ北朝鮮を説得...消息筋

読売新聞 2018年08月14日 11時16分

#### 北朝鮮の非核化をめぐる各国の立場



【ソウル=豊浦潤一】韓国と北朝鮮が13日に



## パンムンジョム

板門店で行われた閣僚級会談で南北首脳会談を9月中旬に平壤で開くことで合意したのは、朝鮮戦争（1950～53年）の「終戦宣言」の早期発表につなげ、南北経済協力に弾みをつける思惑で一致したためだ。米国は対北朝鮮制裁の骨抜きにつながる南北経済協力の行方に懸念を強めている。

南北会談に詳しい消息筋によると、北朝鮮は当初、韓国から見返りを得られる見通しの薄い南北首脳会談の早期開催に消極的な立場だったという。韓国は今回の会談で、北朝鮮が「体制の安全の保証」の一環として求めている終戦宣言を早期に発表する上でも、南北の和解を演出する必要があるとして、北朝鮮に首脳会談の開催を説得した。

終戦宣言を早期に発表できれば、北朝鮮の老朽化した鉄道や道路の建設支援に対し、米側から理解を得やすくなると北朝鮮側に伝えたという。北朝鮮の交通網整備は、

## キムジョンウン

金正恩 朝鮮労働党委員長が進める経済再建に不可欠だ。

## 南北首脳会談 9月に3回目開催へ 韓国大統領が平壤訪問

毎日新聞 2018年8月13日 19時52分(最終更新 8月13日 20時20分)

【ソウル堀山明子】韓国と北朝鮮は13日、軍事境界線のある板門店（パンムンジョム）の北朝鮮側施設「統一閣」で閣僚級会談を開き、文在寅（ムン・ジェイン）大統領と金正恩（キム・ジョンウン）朝鮮労働党委員長による首脳会談を9月中旬に平壤（ピョンヤン）で開くことで合意した。実現すれば、両首脳の会談は今年4月、5月に続き3回目。韓国大統領の平壤訪問は2007年10月の盧武鉉（ノムヒョン）大統領（当時）以来となる。

北朝鮮代表の李善権（リ・ソングォン）祖国平和統一委員会委員長は会談後、首脳会談日程について韓国記者団に「日にちは言わないだけで、すべてうまくいっている」と述べ、ほぼ確定していることを示唆した。北朝鮮は9月9日の建国70周年に合わせ、軍事パレードを準備中で、その前後の日程で議論した模様だ。韓国代表の趙明均（チョ・ミョンギョク）統一相は「できるだけ早く開催する方向で議論したが、招待する北側の日程を考慮した」と述べ、9日以降になる可能性を示唆した。

韓国側の説明によると、李氏は会談で、北朝鮮側は非核化に向けて努力しているとこれまでの立場を強調。米朝協議を加速させるためにも、南北関係を進展させる必要があると主張したという。北朝鮮は第3回首脳会談で4月の会談で合意した板門店宣言の着実な履行を確認し、宣言に明記された「年内の朝鮮戦争終戦宣言」に向けて米韓が積極的に動くよう促すとみられる。

南北会談、来月に平壤で3回目、停滞の非核化を促す狙い

東京新聞 2018年8月14日 朝刊

南北を巡る動き	
2018年	▶北朝鮮の金正恩朝鮮労働党
1月1日	▶委員長が南北関係改善に意欲表明
2月9日	▶韓国・平昌冬季五輪開幕、南北が合同入場行進
10日	▶韓国の文在寅大統領と正恩氏の妹、金与正党第1副部長がソウルで会談
3月	▶韓国の特使団が訪朝し正恩氏と会談。韓国大統領府が南北首脳会談の開催合意など発表
5~6日	
4月27日	▶南北首脳会談
5月16日	▶北朝鮮が南北閣僚級会談の開催延期を当日未明に通告。米朝首脳会談の中止も警告
24日	▶トランプ米大統領が米朝首脳会談中止を発表
26日	▶南北首脳が再会談。米朝首脳が会談実施に意欲表明
6月1日	▶延期された南北閣僚級会談を実施
12日	▶米朝首脳会談
22日	▶南北赤十字会談で離散家族の再会事業を8月20~26日に金剛山で行うことで合意
8月13日	▶板門店での南北閣僚級会談で9月中旬に平壤で南北首脳会談を開催することで合意

【ソウル=上野実輝彦】韓国と北朝鮮は十三日、軍事境界線上にある板門店（パンムンジョム）の北朝鮮側施設「統一閣」で閣僚級会談を開き、文在寅（ムンジェイン）大統領と金正恩（キムジョンウン）朝鮮労働党委員長による三回目の首脳会談を北朝鮮の平壤（ピョンヤン）で九月に開くことを決めた。具体的な日時は未定。実現すれば、韓国大統領の訪朝は二〇〇七年の盧武鉉（ノムヒョン）氏以来、三回目となる。

南北は今年四月の首脳会談の「板門店宣言」で、今秋に文氏が平壤を訪問することで合意。韓国政府としては、非核化を巡る米朝の交渉が停滞する現在、南北首脳会談を通じて米朝対話の促進につなげたい考えとみられる。

韓国側代表の趙明均（チョミョンギョク）統一相によると、閣僚級会談では首脳会談開催のほか、鉄道や道路の連結事業など経済協力や、非核化と平和体制構築なども協議。北朝鮮側代表を務めた李善権（リソングォン）祖国平和統一委員会委員長は会談の終わりに「北南関係改善の障害となっている問題を予定通りに解決していくことが重要だ」と述べた。

韓国大統領府報道官は首脳会談の日程について「九月初旬は難しい」と説明。九月には北朝鮮の建国七十周年記念

日や、ロシア極東ウラジオストクでの国際会議「東方経済フォーラム」、国連総会などが予定され、日程交渉が難航する可能性もある。

### 米韓外相、南北首脳会談巡り電話協議

日経新聞 2018/8/15 5:52

【ワシントン＝永沢毅】ポンペオ米務長官は13日、韓国の康京和（カン・ギョンファ）外相と電話協議した。国務省によると、完全な非核化が実現するまで北朝鮮への圧力を維持する必要性を改めて確認した。康氏は3回目となる南北首脳会談の9月開催を決めた13日の南北閣僚級会談の内容を報告した。

ポンペオ氏は14日、ツイッターに「北朝鮮の最終的な完全に検証された非核化に向けて緊密な協力を続ける。進展があると信じている」と投稿した。

### 南北合同チームがジャカルタ入り バスケ選手ら「金」に意欲

共同通信 2018/8/14 09:28



ジャカルタの空港に到着したバスケットボール女子の南北合同チームの選手ら＝13日（共同）

【ジャカルタ共同】18日に開幕するジャカルタ・アジア大会に出場する韓国と北朝鮮が結成したバスケットボール女子とボートの南北合同チームが13日、ジャカルタ入りした。合同チームが到着したジャカルタ国際空港では、朝鮮半島をデザインしたTシャツを着た在ジャカルタ韓国人が「半島の平和的な統一を望む」などと書かれた旗を掲げて歓迎した。

バスケットボール女子の合同チームは15日、1次リーグで開催国のインドネシアとの初戦を迎える。

残るカヌーの合同チームは21日に韓国を出国する予定。南北は2月の平昌冬季五輪のアイスホッケー女子でも合同チームを結成した。

### 東京で元従軍慰安婦追悼の集い 「真の意味で解決を」

共同通信 2018/8/14 18:14

慰安婦問題の実態解明に取り組む「女たちの戦争と平和資料館」（東京）で14日、この1年間に亡くなった被害女性を追悼する集いを開いた。支援者らが黙とうし「日本政府はきちんと事実を認定し、真の意味での解決を図ってほしい」と訴えた。



「女たちの戦争と平和資料館」で開かれた、亡くなった被害女性を追悼する集い＝14日午後、東京都新宿区

資料館には被害者179人の写真パネルが飾られている。うち、昨年8月14日以降に死亡が確認された韓国やインドネシアなどの計5人について、支援者らが被害の背景を語り、パネルに白い花を添えた。

池田恵理子名誉館長は「どの国の被害者も、本当の意味での解決を願っている。その思いを実現すべく活動したい」と話した。

### 慰安婦問題、国連委で再び焦点に 4年ぶり対日審査

共同通信 2018/8/14 22:19



2014年8月、ジュネーブで開かれた国連人種差別撤廃委員会の対日審査（共同）

【ジュネーブ共同】国連人種差別撤廃委員会は16、17の両日、ジュネーブで約4年ぶりの対日審査会合を開く。日韓両国間の懸案である旧日本軍の従軍慰安婦問題が前回審査に続き議論の焦点となる見通し。ヘイトスピーチ対策や沖縄の人々の権利保護を巡る問題も取り上げられそうだ。

審査会合は委員が日本政府に質問、日本側が回答する形で実施。韓国の政府や非政府組織（NGO）も参加できる。委員会は会合を踏まえ今月30日に日本への勧告を公表する予定だ。

産経新聞 2018.8.14 16:07 更新

### 慰安婦問題、再び焦点に 国連人種差別撤廃委員会、4年ぶり対日審査「議論覚悟している」 日本外交筋

国連人種差別撤廃委員会は16、17の両日、ジュネーブで約4年ぶりの対日審査会合を開く。日韓両国間の懸案である慰安婦問題が前回審査に続き議論の焦点となる見通し。ヘイトスピーチ対策や沖縄の人々の権利保護を巡る問題も取り上げられそうだ。



審査会合は委員と各国代表が日本政府に質問、日本側が回答する形で実施。韓国の政府や非政府組織（NGO）も参加できる。委員会は会合を踏まえ今月30日に日本への勧告を公表する予定だ。

委員会は2014年の前回審査後に出した勧告で、日本に慰安婦問題で適切な補償など包括的解決を求めた。日本政府は16年12月の回答で、補償問題は解決済みで責任者追及も考えていないとし、15年の日韓政府間合意により問題解決を目指す考えを強調していた。

一方、韓国の文在寅政権は、同合意で問題は解決しないと、日本に誠意ある対応を要求。日本外交筋は「今回の審査で議論になると覚悟している」と指摘した。（共同）

### 台湾に初の慰安婦像＝馬前総統出席し除幕式－台南



14日、台湾南部・台南の野党・国民党支部の敷地に設置された台湾初の慰安婦像

【台南時事】台湾の民間団体は14日、南部・台南市の中心にある最大野党・国民党支部の敷地内に従軍慰安婦の銅像を設置し、除幕式を開催した。台湾で慰安婦像が常設されるのは初めて。除幕式に出席した馬英九前総統はあいさつで、「元慰安婦への正式な謝罪と賠償を日本政府に求める」と訴えた。

「慰安婦問題研究所」設立へ＝所長に日韓合意批判の教授－韓国

関係者によると、像を設置した「台南市慰安婦人権平等促進協会」は、国民党の支援を受けて4月に設立された。同党の別動隊と位置付けられ、与党・民進党支持者の多い台南に銅像を置くことで、11月の統一地方選を前に国民党の存在感を示すとともに、台湾社会の反日感情を喚起する狙いがあるとみられる。

像は台湾人芸術家が制作し、両手を上げた少女の姿は「迫害を受けている者のやるせなさや抵抗を表している」（馬氏）という。台湾には元慰安婦の女性が2人生存している。

一帯は、日本統治時代の建造物が複数残り、多くの日本人観光客が訪れる。同協会は、制作費の約70万台湾ドル（約250万円）を募金で賄うとしている。（時事通信2018/08/14-15:01）

台湾に初の慰安婦像設置 国民党・馬英九前総統が出席  
共同通信 2018/8/14 13:08



14日、台湾南部、台南市内で除幕された従軍慰安婦問題を象徴する銅像と、国民党の馬英九前総統（共同）

【台南共同】台湾南部、台南市内で14日午前、旧日本軍による従軍慰安婦問題を象徴する銅像の除幕式が行われた。台湾の野党、国民党の馬英九前総統が出席してあいさつした。台湾には元慰安婦が存命しているが、慰安婦像の設置は初めて。日台関係に影を落とす可能性もある。

一方、台北市内の日本の対台湾窓口機関、日本台湾交流協会台北事務所の前では14日午前、女性団体が慰安婦問題への日本政府の謝罪などを求めて抗議の座り込みを行った。

馬前総統は「日本政府は謝罪と賠償を行うべきだが、民主進歩党（民進党）は政権党になって2年余り、この問題に触れていない」と政権を批判した。



台北市内の日本台湾交流協会台北事務所前で、慰安婦問題について抗議の座り込みをする人たち＝14日（共同）

台湾に初の慰安婦像 前総統「正式な賠償と謝罪」訴える  
朝日新聞デジタル台南＝西本秀 2018年8月14日 19時42分

旧日本軍の慰安婦だった韓国女性1991年に初めて実名で体験を公表した日にあたる14日、台湾南部の台南市に台湾で初めての慰安婦像が設置された。野党国民党の前総統の馬英九（マーインチウ）氏が除幕式に参列し、



日本政府に対し、「正式な賠償と謝罪」を訴えた。



設

置された慰安婦像。左端は式典に参列した馬英九前総統＝14日、台湾・台南市、西本秀撮影

台南市の繁華街に設置された像は、高さ約160センチの少女像。両手を上げて抵抗する姿をかたどっている。国民党の支援を受けて今春結成された団体「台南市慰安婦人権平等促進協会」が、寄付を呼びかけた。中国語と日本語、英語、ハングルで「慰安婦の悲惨な歴史を忘れず、彼女たちに尊敬と支持の意を示す」などと記した解説板を掲げている。

国民党の地元支部が土地を提供した。式典には、今秋の統一地方選挙で台南市長選に立候補する国民党の候補予定者も参列した。馬氏は式典で、現在の与党民進党政権は、慰安婦問題など日本統治時代の歴史の検証に消極的だと批判。選挙を意識して有権者にアピールする狙いもあるとみられる。

第2次大戦中、日本の植民地統治下にあった台湾の女性たちも慰安婦として動員された。台湾の人権団体が20年以上前に行った調査で、当時58人の生存者が確認された。高齢化が進んだ結果、現在は2人のみとなっている。

台北市内でも14日、元慰安婦を支援してきた女性人権団体などが、日本の大使館に相当する日本台湾交流協会の台北事務所を訪れ、謝罪や賠償を求める抗議文書を提出した。(台南＝西本秀)

## 慰安婦 少女像 台湾で初設置 馬英九前総統「日本は謝罪を」

NHK2018年8月14日 17時34分



台湾南部で、地元の人権団体が台湾で初めてとなる慰安婦問題を象徴する少女像を設置し、除幕式に出席した野党 国民党の馬英九前総統は日本政府は謝罪すべきだと訴えました。

高さが1メートル60センチほどあるこの少女像は、野党国民党の協力で設立された台湾南部、台南の人権団体が、中心部にある党の敷地に設置したものです。

除幕式には、過去にも慰安婦問題で日本政府に謝罪を求めている国民党の馬英九前総統が出席し「日本政府は賠償し、謝罪すべきだ。台湾の人々は、日本による植民地の歴史に加え、日本が女性たちに長年の苦しみをもたらしたことを忘れてはならない」と訴えました。

像の設置について台湾当局の関係者はNHKの取材に対し「当局は関与していない」とし、台南市は「国民党の政治活動だ」としています。

国民党はことし11月に控えた統一地方選挙をにらみ、東日本大震災以降から続く日本食品の輸入規制の継続を訴えるなど、与党 民進党の対日姿勢を批判することで党勢の回復を目指していて、今回の像の設置への協力にはこうした狙いもあるとみられます。

一方、台北にある日本の窓口機関「日本台湾交流協会」の前でも、長年、元慰安婦を支援している別の人権団体が抗議活動を行い「日本政府は謝罪しろ」などと一斉に声を上げていました。

## 対日外交紛争望まず＝慰安婦問題「教訓に」 一初の記念日で韓国大統領



14日、韓国中部・天安の国立墓地を歩く文在寅大統領(中央左)(EPA時事)

【ソウル時事】韓国の文在寅大統領は14日、中部・天安で行われた「慰安婦の日」式典で演説し、「この問題が韓日間の外交紛争につながらないよう願う」と表明した。その上で「両国間の外交的な手法で解決される問題だとも考えてはいない」と指摘し、2015年末の日韓政府間合意を否定する立場を改めて示した。

大統領は、慰安婦問題の「最終的かつ不可逆的な解決」をうたった日韓合意に直接言及しなかった。この問題が政府間合意では解決できないという考えを堅持する一方、合意の扱いをめぐる対立が対日関係全般に影響を及ぼす事態を避ける方針を強調した形だ。

大統領はこの中で、慰安婦問題を「韓日両国間の歴史問題にとどまらず、戦時下の女性への性暴力問題、人類の普遍的な女性の人権の問題だ」と定義。「われわれ自身や、日本を含む全世界が女性への性暴力や人権問題について深く反省し、二度と繰り返してはならないという確固たる教訓とすることで、初めて解決できる」と呼び掛けた。(時事通信 2018/08/14-20:36)

## 文大統領、慰安婦記念の式典出席 日韓の「外交紛争望まず」

共同通信 2018/8/14 17:38



14日、韓国政府主催の慰安婦記念日の式典に出席し、慰安婦だった女性と手をつなぐ文在寅大統領（手前左）＝韓国・天安（聯合＝共同）

【ソウル共同】旧日本軍の従軍慰安婦問題を巡り、韓国政府が被害の記憶を国内外に伝える記念日と定めた14日、同国中部の天安で政府主催の式典が開かれ文在寅大統領が出席した。文氏は演説で、慰安婦問題は日韓間だけでなく、戦時の女性への性暴力で人類の普遍的な人権問題とした上で「韓日間の外交紛争につながらないことを望む」と述べた。

文氏は、慰安婦問題が「韓日間の外交交渉で解決する問題とは考えていない」と指摘し、「韓日を含む全世界が反省し、二度と起こさないと固く誓ったときに初めて解決される。記念日に指定した趣旨もそこにある」と述べた。

## 韓国、初の慰安婦記念日 法制化、全国で行事

共同通信 2018/8/14 12:53



ソウルの日本大使館前にある従軍慰安婦問題の少女像＝14日（共同）



14日、従軍慰安婦問題の記念日に合わせソウルで開かれた関連資料の展示会（共同）

【ソウル共同】韓国は14日、旧日本軍の従軍慰安婦問題

に絡み、韓国政府が同問題を「国内外に広く知らせ、被害者を記憶するため多様な行事と広報を行う」と法で定めた初の記念日を迎えた。全国各地でこの問題を後世に伝えるための行事が企画され、被害に対する意識が高まっている。

朝鮮半島にとっては73回目の日本の植民地支配からの解放記念日である15日を翌日に控える。韓国政府が認定する同国内の元慰安婦の女性は27人にまで減っている。

## 文氏、慰安婦問題「普遍的な人権の問題」 式典で演説

朝日新聞デジタル竹田肇＝ソウル、鬼原民幸 2018年8月14日17時00分



「日本軍慰安婦被害者を

たたえる日」の式典に出席し、車いすに乗った元慰安婦の李容洙さんの手を引く文在寅大統領（14日、韓国・安市、東亜日報提供）



韓国の文在寅（ムンジェイン）大統領は14日、中西部・忠清南道天安市で行われた「日本軍慰安婦被害者をたたえる日」（慰安婦の日）の式典で演説し、「この問題が韓日間の外交紛争につながらないよう望む」と述べた。そのうえで、「両国間の外交的な方法で解決される問題だとも考えてはいない」と指摘。2015年12月の日韓合意で「解決済み」とする日本政府の立場とは異なるとの考えを改めて示した。

文氏は「慰安婦問題は、人類の普遍的な女性の人権の問題だ」と強調。日韓合意を含む外交的な方法よりも、人権問題としての取り組みを広げることが解決につながるとの考えを示唆した。元慰安婦の名誉や尊厳の回復のための事業や、若い世代への教育に積極的に取り組むことを訴えた。

ただ、文氏は日本を直接批判する表現は避けた。南北で対話路線を進めるなか、日韓が対立して周辺外交に悪影響が及ばないように配慮したとみられる。

「慰安婦の日」は、文政権の主導で昨年、国の記念日に指定された。8月14日は1991年に、旧日本軍の慰安婦だった故金学順（キムハクスン）さんが初めて実名で体験を公表した日にあたる。式典は政府が主催したが、外国大使は招待せず、テレビ中継も行わなかった。



一方で文政権は今年7月、日韓合意に基づいて日本政府が元慰安婦の支援財団に拠出した10億円と同額を政府予算から支出。「日本色」を消すことで、合意を事実上骨抜きにした。元慰安婦の心の傷を両政府の協力で癒やすとした事業は進んでいない。

日本外務省は14日、在日韓国大使館に対し、「日韓合意の着実な実施が重要だ」とする立場を改めて伝えた。韓国外交省に対しても、在韓日本大使館を通じて同様の内容を伝えた。日本政府としても、外交問題となるのを避けつつ、日本の立場を再確認させる狙いとみられる。韓国側では、「内政問題としての取り組みにまで干渉するのか」(韓国政府関係者)と反発も起きている。(武田肇=ソウル、鬼原民幸)

## 慰安婦問題は日韓合意で解決できず...韓国大統領

読売新聞 2018年08月14日 23時19分

### ムンジェイン

【ソウル=岡部雄二郎】韓国の文在寅大統領は1

### チュンチョンナムド

4日、忠清南道で開かれた慰安婦問題の記念式典で演説し、「被害者(元慰安婦)の尊厳と名誉を回復し、心の傷が癒えた時に初めて、慰安婦問題は解決する」と訴えた。日本政府に対する新たな要求や批判は避けつつも、2015年末の日韓合意では問題は解決しないとの立場を改めて強調した。

文氏は演説で、「この問題が韓日間の外交紛争とならないことを望んでいる」とする一方、慰安婦関連の記録の保存や研究支援を進める方針を打ち出した。

式典は、今年から始まった法定記念日「日本軍慰安婦被害者をたたえる日」(8月14日)に合わせて韓国政府が初

### キムハクスン

めて開いた。8月14日は、1991年に金学順さん(故人)が元慰安婦として初めて名乗り出た日だ。当

### イナギョン

初は李洛淵首相が出席予定だったが、直前に文氏に変わった。経済政策の不振で文政権の支持率下落に歯止めがかからず、党派を超えて支持を得やすい歴史問題への取り組みで積極姿勢を打ち出す必要に迫られたとの見方がある。

## 政府「日韓合意に反する」...文氏の式典出席に

読売新聞 2018年08月14日 23時23分

日本政府は、韓国の文在寅大統領が記念式典に出席したことや、演説の内容について「慰安婦問題の最終的かつ不可逆的な解決を確認した日韓合意に反する」(外務省幹部)と受け止めている。外務省と在韓日本大使館は14日、日韓合意を着実に実施するよう外交ルートで韓国側に申し入れた。

一方、文氏が演説で日本への批判をほとんどせず、追加

措置要求もなかったことについては一定程度、評価してい

### キムデジュン

る。今年は1998年に小渕首相と金大中大統領(当時)が未来志向の日韓関係を目指す「日韓共同宣言」に署名してから20周年の節目の年だ。日本政府関係者は「両政府ともに関係改善を進めたいと考えており、文大統領は演説で配慮したのではないかと指摘した。

## 慰安婦問題で立場伝達=外務省

外務省は14日、韓国の文在寅大統領が「慰安婦の日」式典で演説したことを受け、東京とソウルの外交ルートを通じて、「慰安婦問題の『最終的かつ不可逆的な解決』をうたった日韓合意の着実な履行が重要だ」との日本側の立場を改めて伝えた。(時事通信 2018/08/14・20:08)

産経新聞 2018.8.14 17:14 更新

## 【歴史戦】「韓日の外交紛争望まず」初の慰安婦記念式典で文在寅韓国大統領 「外交で解決しない」とも



14日、韓国政府主催の慰安婦記念日の式典に出席し、元慰安婦の女性の手を握る文在寅大統領=韓国・天安(聯合=共同)

【ソウル=名村隆寛】韓国で今年から法定記念日に定められた「日本軍慰安婦被害者をたたえる日」の14日、文在寅(ムン・ジェイン)大統領は中部、忠清南道(チュンチョンナムド)天安(チョナン)市の国立墓地「望郷の丘」で開かれた韓国政府による初の記念式典に出席した。

文氏は演説で慰安婦問題について「韓日間の外交交渉で解決するとは考えていない」とし、「韓日を含む全世界が性暴力と女性の人権問題を深く反省し、再び繰り返さないと固く教訓としたときに解決される」と語った。

一方で「問題が韓日間の外交紛争につながらないことを望む」と指摘する半面、「慰安婦問題は韓日の歴史問題にとどまらない。戦時の女性への性暴力の問題で人類の普遍的な女性人権問題だ」と強調した。記念日は文政権で法制化されたが、日本への責任追及を避け、文氏なりに日本への配慮を示したかたちだ。

式典では慰安婦の追悼碑の除幕式が行われ、元慰安婦や市民団体、青少年を含む400人余りが参加した。韓国各地ではこの日、市民団体による慰安婦像の新たな設置などが行われた。ソウルの日本大使館前では集會が開かれ、参加者が慰安婦問題をめぐる日韓合意の破棄を訴えた。



## 【歴史戦】日韓慰安婦合意 飛び交う「合意の破棄を」 日本大使館前で集会



ソウルの日本大使館前にある従軍

慰安婦問題の少女像＝14日（共同）

「合意は即刻破棄すべきだ」。慰安婦問題を巡り初の記念日を迎えた14日、ソウルの日本大使館前では集会が開かれ、2015年の日韓政府間合意の破棄を求める声が何度も飛び交った。

大学生を中心とした約20人の団体は横断幕を掲げて「慰安婦の被害者に残された時間は限られている」「合意に被害者の要求は一つも入っていない」などと訴え、強い日差しの中、ソウル市内を行進した。

大使館前には慰安婦被害を象徴する少女像が設置されている。像の手元には黄色い花が添えられ、行き交う人々は写真を撮ったり、像を磨いたりしていた。（共同）

## 韓国「慰安婦をたたえる日」 大統領「外交で解決されぬ」 NHK8月14日 19時15分



韓国で14日、新たに制定した「慰安婦をたたえる日」の式典が開かれ、演説したムン・ジェイン（文在寅）大統領は、元慰安婦の名誉と尊厳の回復に取り組む考えを強調したうえで、「日韓両国の歴史問題にとどまらず、人類の普遍的な人権問題だ。外交で解決される問題だとも思わない」と述べ、日韓合意で問題は解決済みだとする日本政府の立場とは一線を画す姿勢を改めて鮮明にしました。

韓国政府は1991年に元慰安婦の女性の1人が初めて公の場で証言した日に当たる8月14日を、ことしから「慰安婦をたたえる日」として新たな記念日に制定しました。

14日、韓国中部のチョナン（天安）で追悼碑の除幕式が開かれ、演説したムン・ジェイン大統領は慰安婦問題につい

て「被害者の心の傷が癒えて、初めて解決することができる」と述べ、元慰安婦の名誉と尊厳の回復に取り組む考えを強調しました。

そのうえで、「日韓両国の歴史問題にとどまらず、人類の普遍的な人権問題だ。日韓間の外交紛争につながらないことを望んでいる。外交で解決される問題だとも思わない」と述べました。

慰安婦問題をめぐっては、日韓両政府が2015年の合意で「最終的かつ不可逆的な解決」を確認していますが、ムン大統領は14日の演説を通じて、日韓合意で問題は解決済みだとする日本政府の立場とは一線を画す姿勢を改めて鮮明にしました。

外務省 日本の立場申し入れ

外務省は去年、韓国政府が慰安婦を追悼する碑を国立墓地に設置すると発表した際、外交ルートを通じて強い懸念を伝えたほか、韓国の国会で慰安婦問題の被害者をたたえる日を制定する内容が盛り込まれた法案が可決・成立した際には「日韓合意の趣旨に反するものだ」と抗議しています。外務省は14日、韓国で除幕式が開かれ、ムン大統領も出席して演説を行ったことを受けて、東京の韓国大使館などを通じて「慰安婦問題は、最終的かつ不可逆的に解決することを確認した日韓合意が着実に履行されることが重要だ」とする日本の立場を改めて申し入れました。

しんぶん赤旗 2018年8月15日(水)

## 韓国初の「慰安婦」被害者の日 彼女たちは勇気の行動 文大統領が式典でたたえる

韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領は、今年初めて法定記念日となった「日本軍『慰安婦』被害者記念の日」の14日、中部・天安で行われた政府主催の式典で演説し、「被害者らの堂々とした勇気ある行動で、この意義深い場が用意された」と述べ、被害者をたたえました。（栗原千鶴）

文氏は、「慰安婦」問題は、日本の植民地支配から解放された後も、隠蔽（いんぺい）・否定され、国家すら被害者を無視したと指摘しました。

「これを改めたのは、国家ではなく被害者自身だった。被害者は沈黙を破り、講演の場や法廷に立ち、韓国や日本、世界各国で被害の実相を証言し、訴えた」と強調。こうした行動が、戦争中の女性の人権と性暴力犯罪に対する国際社会の関心を高め、大きく進展させたと称賛しました。

文氏は、「慰安婦」問題を「日韓両国の歴史問題にとどまらず、戦時下の女性への性暴力問題、人類普遍の人権問題」と定義。2015年末の日韓合意には言及せず、「この問題が韓日間の外交紛争につながらないように願う」と表明しました。そのうえで、「両国間の外交的な手法で解決される問題だとも考えていない」と述べ、「われわれ自身や、日本を含む全世界が、女性への性暴力や人権問題について深く反省し、二度と繰り返してはならないという確固たる教訓

とすることで、初めて解決できる」と力説しました。

また、政府が被害者の名誉と尊厳の回復のために、被害者との意思疎通を通じ、誠意を尽くすと約束。記録の発掘、保存、教育など体系的で積極的な努力を行うと表明しました。

この日は、全国で行動が取り組まれ、被害者が共同生活を送る「ナムムの家」では、李容洙（イ・ヨンス）さんがあいさつ。「27年間（ソウルにある）日本大使館前で謝罪と賠償を叫んできた。私は91歳だが、200歳まで生きて、絶対にこの問題を解決する」と語りました。

「日本軍『慰安婦』被害者記念の日」「慰安婦」被害者の故・金学順（キム・ハクスン）さんが初めて名乗り出て、被害を証言した1991年8月14日を記念して設けられた被害者をたたえる記念日。市民団体が2012年から求め、運動してきました。国会は昨年11月、毎年8月14日を記念日とする法案を可決しました。

#### 北朝鮮での邦人拘束、認識問われ外相「答え差し控える」 朝日新聞デジタル 鬼原民幸 2018年8月14日 10時57分

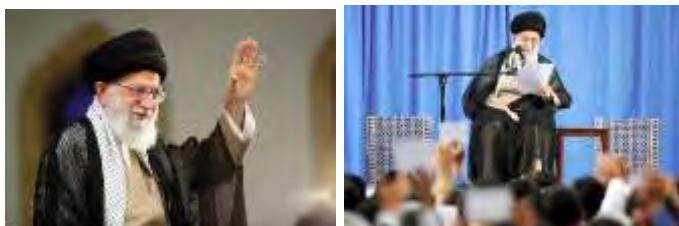


河野太郎外相

北朝鮮西部の南浦（ナムポ）で今月、30代の日本人男性が現地当局に拘束されたことについて、エクアドルを訪問中の河野太郎外相は13日午後（日本時間14日未明）、記者団から事実関係を問われ、「事柄の性質上、お答えは差し控える」と述べた。

男性は海外の旅行会社が企画したツアーで北朝鮮に入り、今月上旬に拘束された。日本政府はこれまで、事実関係を「確認中」として詳細を明らかにしていない。外相のエクアドルでの発言は外務省が発表。河野氏は事案を認識しているかを問う記者団の質問にも、「お答えは差し控える」と述べただけだったという。（鬼原民幸）

#### 「米とは戦争も交渉もしない」 イランのハメネイ師演説 朝日新聞デジタル 杉崎慎弥 2018年8月14日 03時35分



テヘランで13日、演説するイランの最高指導者ハメネイ師。同師の公式サイトから＝ロイター

イランの最高指導者ハメネイ師は13日、首都テヘランで演説し、イラン核合意から離脱した米国の制裁が再開されたことを受けて、「イランは経済問題を抱え、制裁の影響がないわけでない。だが、米国とは戦争も交渉もしない」と述べた。首脳会談に意欲を示す米国に対し、簡単には交渉しない姿勢を強調した。

イラン学生通信が伝えた。5月に核合意から離脱した米国のトランプ大統領は7月末以降、ロハニ大統領との首脳会談に意欲的な発言を続けている。ハメネイ師は演説で交渉に否定的な発言をする一方で、「イランが米国の圧力に立ち向かえる力をつければ交渉も可能だろう。だが、まだその時でない」とも語り、将来的な話し合いには含みを持たせた。

ロイター通信によると、ザリフ外相も9月の国連総会で米当局者との会談の予定はないと語ったという。

また、イラン国防省は同日、新型の短距離弾道ミサイル開発に成功したと発表。8月上旬にはペルシャ湾岸一帯で大規模な軍事演習を実施するなど、米国などへの牽制（けんせい）を続けている。（杉崎慎弥）

#### 衆院選意識調査 期日前投票、投票所に遠いほど高く 毎日新聞 2018年8月14日 18時23分（最終更新 8月14日 19時07分）



台風が近づくなか、期日前投票するための列に並ぶ人たち＝東京都品川区で2017年10月21日午後5時4分、和田大典撮影

公益財団法人「明るい選挙推進協会」は、昨年10月の前回衆院選における有権者の行動や意識を調べた全国意識調査の結果を公表した。自宅から投票所までの時間と期日前投票の関係を見ると、投票所まで「5分未満」の人は「期日前投票をした」のが21.9%だったのに対し、「10分未満」は35%、「20分未満」は50.2%、「20分以上」は50%と、投票所が遠いほど期日前投票に行く割合が高かった。

調査は全国18歳以上の有権者3150人を選挙人名簿から無作為抽出し、調査票を郵送する手法で実施した。回収率は70.1%。

2014年の前々回衆院選の調査では、投票所まで「20分未満」「20分以上」の人が期日前投票した割合は、それぞれ33.7%、44.1%で、今回、大幅に増えた。



一方、調査では投票に行かなかった人に「どういう状況だったら投票に行こうと思うか」も聞いた。「駅やショッピングセンター・コンビニなどでも投票ができれば」と答えた人が38.5%と最も多く、「投票所が近かったら」も9.0%あった。利便性や近さを求める声は強い。

前回衆院選の投票率は、小選挙区が53.68%と、戦後2番目に低かった。総務省によると、前回衆院選の投票所数は4万7741カ所。最も多かった00年衆院選の5万3434カ所から1割以上減っている。「平成の大合併」による行政の効率化や高齢化による人口減少などが要因とみられるが、投票所数の減少が投票率に影響を及ぼしている可能性もある。

小選挙区の投票者に占める期日前投票者の割合は前回衆院選で37.54%（2137万9982人）と増加傾向にあるが、期日前投票所の数は5346カ所にとどまる。前回衆院選で全国の58店舗を投票所として提供したイオン（千葉市）は「要請があれば数を増やしたい」という。

調査報告書は「地域の実情を勘案しながら有権者の投票の機会の均衡を保つことが求められる」と指摘している。

【倉岡一樹】

## 平和の願い、継承を＝両陛下に感謝、新天皇に期待―被爆地、沖縄・終戦記念日



取材に応じる対馬丸記念会理事長の高良政勝さん＝4日、那覇市の対馬丸記念館

天皇陛下は皇太子時代、終戦の日に加え、日本人が忘れてはならない四つの日として、沖縄戦終結の日（6月23日）と広島、長崎の原爆の日を挙げ、毎年黙とうをささげられてきた。被爆地や沖縄からは、平和を願ってきた両陛下への感謝と、次代への継承を求める声が上がった。

2014年6月、学童疎開船「対馬丸」の犠牲者慰霊のため沖縄を訪れた両陛下を案内した対馬丸記念会理事長の高良政勝さん（78）は、毎年戦没者追悼式に出席する天皇陛下の姿を見て、沖縄に大きな犠牲を強いてしまったという深い思いを感じていた。「（最後の参列で）非常に寂しい思いはあるが、長い間お務めを果たしていただきありがたい。来年新天皇、新皇后となる皇太子ご夫妻には「今の天皇陛下のお気持ちを100%受け継いでほしい。即位後は早い時期にぜひ沖縄においていただきたい」と願った。

両陛下は戦後50年の節目を迎えた1995年夏、長崎、広島、沖縄、東京都慰霊堂を巡る「慰霊の旅」を行った。このとき、両陛下に被爆体験を伝えた長崎原爆遺族会顧問

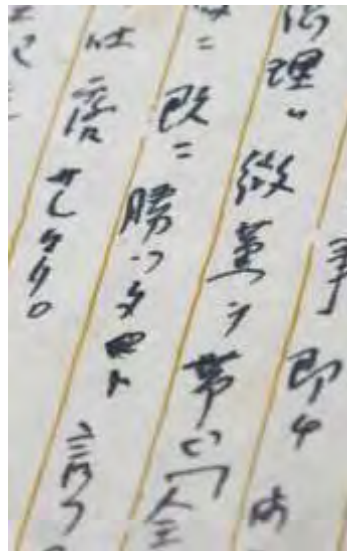
の下平作江さん（83）は「戦争を十分にご存じで、二度と起こらないように努力されたと思う。被爆の実相をしっかりと受け止めていただき、感謝している」と話した。皇太子ご夫妻には「過去をしっかりと知り、核兵器廃絶の声を世界に発信してほしい」と求めた。

14年12月に両陛下が訪れた広島市の原爆養護ホーム「矢野おりづる園」。施設長代行の村田伸夫さん（68）は被爆者の施設長と共に、両陛下が入居する10人の被爆者に声を掛ける様子を間近で見守った。「一人一人丁寧に話しされ、心の底から国民を思っていると感じた」と振り返り、「長年よく頑張ってくられた。この先はお二人の人生や健康を考えて和やかに歩いてほしい」と語った。

皇太子ご夫妻には「今の両陛下のように、国民のための皇室を維持してほしい」と期待した。（時事通信2018/08/15-05:44）

## 東条首相開戦前夜発言のメモ発見 天皇に動揺なく「すでに勝った」

共同通信 2018/8/14 07:49



日米開戦前夜の1941年12月7日、東条英機首相が語った心境を記した、湯沢三千男のメモ。「既ニ勝ツタ」との東条首相の発言を記している

太平洋戦争の開戦前夜、昭和天皇への報告を終えた東条英機首相の発言や様子を記したメモが14日までに見つかった。開戦の手順を報告する東条に、昭和天皇が「うむむ」と応じ、動揺を見せなかったことから、東条は「全く安心している。このような状態であるから、すでに勝ったと言うことができる」と述べたという内容。東条の発言を書き留めた湯沢三千男・内務次官＝1963年に死去＝のメモを遺族が保管していた。

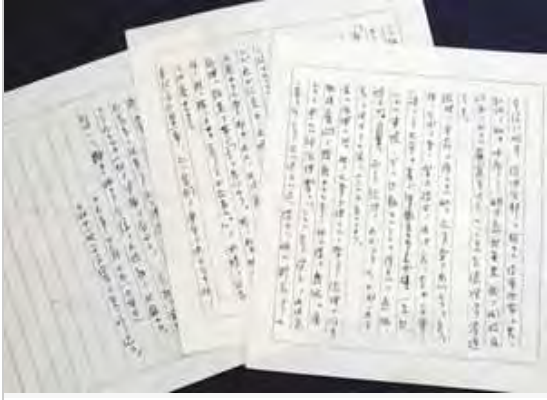
開戦前日の41年12月7日、昭和天皇が東条から報告を受けたと「昭和天皇実録」に記載されるが、その様子が明らかになるのは初めて。昭和天皇との関係を探る手掛かりとなる。



## 開戦前夜、東条首相「すでに勝った」 政府高官のメモ見 つかる

東京新聞 2018年8月14日 夕刊

日米開戦前夜の1941年12月7日、東条英機首相が語った心境や昭和天皇の様子を記した、湯沢三千男のメモ



太平洋戦争の開戦前夜、昭和天皇への報告を終えた東条英機首相の発言や様子を記したメモが十四日までに見つかった。開戦の手順を報告する東条に、昭和天皇が「うむうむ」と応じ、動揺を見せなかったことから、東条は「全く安心している。このような状態であるから、既に勝ったと  
言うことができる」と述べたという内容。東条の発言を書き留めた湯沢三千男・内務次官＝一九六三年に死去＝のメモを遺族が保管していた。

開戦前日の四一年十二月七日、昭和天皇が東条から報告を受けたことは「昭和天皇実録」に記載されているが、その様子が明らかになるのは初めて。東条が「重荷を下ろしたような様子だった」「微薫を帯び（酒に酔っており）」「陛下に褒められてもいいだろうと語った」と、賛意を得た満足感や緊張から解放された様子が記されており、昭和天皇との関係を探る手掛かりとなる。

### 湯沢メモのポイント

- 1941年12月7日夜、総理官邸に呼ばれ、東条英機首相から「対英米戦の開始および国民の処置を決定した」と伝えられた
- 東条によると、昭和天皇は「いったん決めた後は悠々として動揺もない。（報告には）「うむうむ」と言われ、いつもと変わることがなかった
- 昭和天皇が英米交渉に未練があれば、どこかに反映して暗い影が生じるだろうが、そんなことはなかった
- 東条は酒に酔った様子で「全く安心している。このような状態であるから、すでに勝ったと言える」と必勝の信念を吐露した

メモは、東京・神田神保町の古書店主、幡野武夫さん（73）が二〇一〇年ごろ、湯沢の娘婿で内務官僚の大野連治・元青森県知事（官選）＝九一年に八十七歳で死去＝の遺品

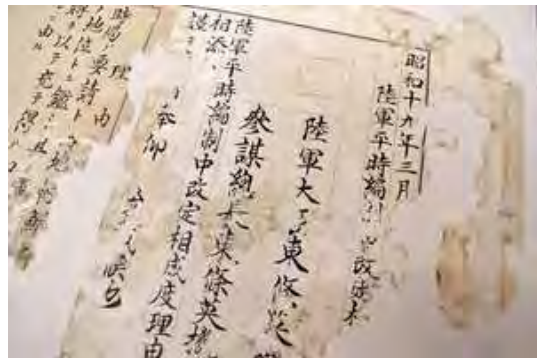
を整理中に発見、解読を進めていた。開戦前夜の午後十一時二十分に書き上げたとする文章が三枚の便箋につづられており、戦時下の政治史を研究する古川隆久・日本大教授は「湯沢の筆跡に間違いはない」としている。

当時、内務省は地方行政だけでなく、警察業務も管轄。四一年十月の政権発足時、東条が内務相を兼任しており、かつて内務次官を務めた湯沢が再就任していた。メモによると、東条は十二月七日夜、首相官邸に呼び出した湯沢に「戦争開始と国民の処置を決定した」と通告。「陛下の命令を受け一糸乱れることのない軍紀の下、行動できるのは感激に堪えない」と発言した。

昭和天皇については「いったん決めた後は悠々として動揺もない」「（報告には）うむうむとおっしゃられ、いつもと変わらなかった」「対英米交渉に未練があれば、暗い影が生じるだろうが、そんなことはなかった」と述べたとしている。

メモに添えられていた別紙には、開戦当日のスケジュールの他、外国の大使の扱いを丁寧にすることや、当時非合法だった共産党への処置も中立国のソ連を刺激しないようにとの指示が書かれていた。

## 陸軍文書、焼かれたはずが 天皇印や「原子爆弾」の記載 朝日新聞デジタル木村司 2018年8月15日 05時55分



戦中に陸軍

省、参謀本部などがあつた東京都新宿区の現・防衛省敷地内の地中から1996年に焼け残った状態で発見され、修復された「御裁可書」。陸軍大臣東条英機の名前の上には「可」の天皇の印がある＝防衛省防衛研究所所蔵「市ヶ谷台史料」



黒い灰が空に舞っている。……東京でも各所で盛んに紙を焼いていて、空が黒い灰だらけだという。作家高見順が、1945年8月16日付の「敗戦日記」にそう記している。45年8月15日の終戦前後、植民地も含めた日本の各地で、大量の公文書が燃やされた。東京・市ケ谷台（現防衛省）にあった陸軍省や参謀本部は、その象徴的場所だ。その地中から戦後50年以上を経て、焼却されたはずの文書が、焦げ痕がついた状態で発見された。

その一つ。焼け残った部分からは「昭和19年3月」「陸軍大臣東条英機」の文字と、天皇の「可」の印がみえる。最高責任者である天皇の決裁をあおいだ「御裁可書」だ。45年8月の「特別緊急電報」では「広島」「調査団ヨリ」「原子爆弾ノ爆発中心ニ於ケル放射能」の文字がよみとれる。

防衛省防衛研究所などによると、これらの文書は、96年4月末、自衛隊市ケ谷駐屯地で東京都埋蔵文化財センターが旧尾張藩上屋敷跡の発掘調査中、簡易防空壕（ごう）と推定される壕の地下約2メートルから発見した。大半は焼損し、半世紀にわたって湿気を帯びた状態だったため、劣化は著しく、ページを開くこともできない状態だったという。

当時研究所にいた軍事史家の原剛さん（80）は史料の仕分けを担当した。「腐った臭いがした」と振り返り、「灰になるまで見届けずに砂をかけてしまったのだろう」と終戦時の慌てふためく様子を想像したという。

原さんらは専門家の意見を聞き、腐食を防ぐためにマイナス20度以下の保管場所をさがして一時収容。史料価値の高いものなどを選び、修復作業を進めた。

「市ケ谷台史料」と名付けられた史料群は、主に陸軍参謀本部第三課が保管していた文書で、編成・動員などに関する御裁可書、編制表、電報綴などで、現在は101番まで番号が付けられて公開されている。

原さんは「敗戦時の焼却処分で、陸海軍の歴史研究に必要な基本的史料が欠落し、歴史の空白やなぞが解明されない部分がある。市ケ谷台史料は、陸軍の戦争指導、作戦指揮について、関係者の証言を裏付けるもの」とその意義を語る。また、「機密文書が大量に焼かれてしまった一方、隠匿されて残れされた重要な公文書もあり、歴史の大切さを私たちに教えてくれる」と話している。（木村司）

**「俺もうアカン」同窓生が見た涙 エースだった特攻隊員**  
朝日新聞デジタル編集委員・永井靖二 2018年8月14日 20時13分

特攻隊員の伯父は死を前に何を思ったのか——。神戸市東灘区の前田優子さん（61）は、旧制神戸一中（兵庫、現神戸高）の野球部エースで伯父の島澄夫（すみお）さんの追悼をある縁から受け継いだ。知れば知るほどに、若くして伯父を死へ追いやった戦争への怒りがこみあげてくる

という。



特攻隊員

として鹿児島の出撃基地へ向かう直前の島澄夫さん（1945年4月5日、大分県宇佐市、颯川良平さん提供）



前田さんは今年3月、自宅を整理中に書類が詰まった段ボール箱から祖母の島貞子（ていこ）さん（1983年死去）の日記を見つけた。

原稿用紙などに書かれたその日記の1枚に、貞子さんの次男で、前田さんの伯父にあたる澄夫さんが特攻隊で出撃したと知らされた日のものがあつた。

沖縄戦のさなかの45年4月9日付。「遂（つい）に恐れていた日は来た」。新聞が報じた出撃者に澄夫さんの名があつたと町内会長が知らせに来て、「一瞬目の前が真っ暗に」なり、「終日こみ上げる悲涙をおさえられず」と書かれていた。

のちに本当の出撃は16日と判明。記事は出撃拠点の鹿児島県の第二国分基地へ後方から移動した際の記述だったが、当時それを知るすべはなかつた。貞子さんはその半月前に大分県宇佐市の基地で澄夫さんと面会していた。「二階の窓からいつ迄（まで）もいつ迄もじっとこちらを見送っていた様子」と振り返り、悲嘆していた。前田さんは「祖母は伯父の話をよくしたが、面会に行ったとは一度も聞かなかった。よほどつらい記憶だったのだろう」と語る。

澄夫さんは神戸一中でエースとして活躍。慶応大学から学徒出陣し、海軍神風（しんぷう）特攻隊員として24歳で南西諸島方面へ飛び立った。前田さんがそんな伯父のことを調べ始めたのは、2年前の墓参の折の出会いがきっかけだった。

前田さんの近所の出身で千葉県…

**シベリアでの最期、70年以上経て解明 抑留者の足跡は**





父・上野米次郎さんの病状などがロシア語で記されたカルテを見る相原由美さん＝2018年6月28日午後7時57分、広島市南区、清水大輔撮影



**シベリア抑留の被害状況と主な経緯**

林さんの収容所 上野さんの収容所 川ソ連 (長春市) 新山

被害状況 華男会による  
抑留者数 約57万5千人 死者数 約5万5千人  
うち約3万7千人の遺骨に精魂を祀る

**主な経緯**

1945 8 ソ連が対日参戦、スターリンが日本人捕虜年 月のシベリア移送を命令  
46 12 米ソ協定締結、抑留者の引き揚げ開始  
56 12 日ソ友好条約締結、最後の引き揚げ船が舞鶴港に  
91 4 ソ連のブルバチェフ大統領が来日、約3万8千人分の死者名簿を提供し、資料提供が完了

資料の 厚労省社会・援護局 調査資料室  
問い合わせ 03-3595-2465



73年前の8月15日を過ぎても、終戦を迎えられない人たちがいた。旧満州（中国東北部）や朝鮮半島に侵攻し

てきたソ連によって、日本兵ら約60万人がシベリアに抑留された。冷戦後に明らかになった犠牲者は少なくとも5万5千人。歴史のはざまでも、肉親の「最期」にたどり着けない人たちがいる。

「1946年3月6日 第944病院で死亡」「ウエノ ヨフネジロ」

広島市に住む相原由美さん（79）のもとに厚生労働省から一通の封筒が届いたのは昨年6月のことだ。ロシアから日本に提供された資料と記されていた。引き揚げの数年後に聞いた父の最期とは異なっていた。

父・上野米次郎さんは旧満州で…

戦争孤児12万人、どこへ 妻子にも口閉ざし生きてきた  
朝日新聞デジタル安田桂子 2018年8月14日 17時15分



1945年11月に大阪市北区で写された一枚。当時の写真説明には「方々のゴミ捨て場をあさって材料を調達し、カンヰメの空き缶で料理する戦災孤児。奥には餓死線をさまよう人の姿も」とある





## 軍捕らえた満州男性の辜丸検体に 北大図書館に 1930 年代の資料

共同通信 2018/8/14 19:39

旧日本軍が満州（現中国東北部）で捕らえた現地男性の辜丸を、北海道帝国大（現北海道大）理学部の教授が染色体研究の検体として使っていたことが 14 日、分かった。北大図書館に 1930 年代の資料が保管されていた。本人の承諾がないまま辜丸を摘出したとみられ、専門家は「現在と倫理観が異なるとはいえ、人道上問題がある行為だ」と批判している。

教授は遺伝学などを専門とした小熊捍氏（故人）。

小熊氏は満州の奉天（現瀋陽）へ出向き、軍の協力で「捕まえた匪賊の一人」の辜丸を検体とした。摘出方法は「相当重大な問題でもあり（中略）しばらくは断然口を緘しておきます」と伏せた。

## 神戸大空襲 重傷の 89 歳女性「戦争は残酷、罪深い」

毎日新聞 2018 年 8 月 15 日 00 時 13 分(最終更新 8 月 15 日 00 時 34 分)



空襲を受けた神戸市内＝1945年12月、米軍撮影・米国防総省提供



動かなくなった左腕の関節を示し、空襲体験を語る杉田典子さん＝大阪府枚方市の自宅で2018年7月30日、岡崎英遠撮影

大阪府枚方市の牧師、杉田典子さん（89）は73年前の神戸大空襲で重傷を負い、母親の大久保末子さん（当時40歳）を失った。焼夷（しょうい）弾で炎に包まれた町、積み重なった遺体。あの日見た地獄のような光景を長らく記憶の中にとどめてきたが、数年前から人前で話すようになった。戦争を知る世代が減る中、「戦争の残酷さを伝えるために、自分はまだ生かされている」と考えるようになった。



戦後しばらく、各地の駅や公園には寝泊まりする子どもたちの姿があった。空襲や戦闘、病気で親を亡くした孤児たち。国が終戦直後に行った全国調査では、その数は12万人。それ以降の調査は見当たらない。残された子どもたちは、その後をどう生きてきたのか。

生後3カ月、5カ月、2歳、16歳……。京都市下京区の大善院に、8人の子どもたちの遺骨や遺髪が安置されている。住職の佐々木正祥（まさよし）さん（64）が20年ほど前、本堂の裏の物置で古い木箱に入っているのを見つけた。木札には「昭和23～28年死亡」と記され、「伏見寮」の墨字があった。

京都駅にはかつて親を亡くした子どもたちがあふれ、「駅の子」と呼ばれていた。市内には戦後の一時期、戦争孤児を預かる施設があった。伏見寮もそのひとつ。佐々木さんの叔父は寮の元職員だった。

2013年、佐々木さんは供養する会を始めた。寮にいた人にも出会った。

京都市左京区の小倉勇さん（86）は1年ほど伏見寮で暮らした。13歳だった1945年7月、福井・敦賀の空襲で母を亡くし、翌年2月、父が病死。食糧難の時代、身を寄せた伯母は冷たく、各地を転々とした。

死んでいく子を何人も見た。8歳ぐらいの女の子。やせ細り、裸足を真っ赤に腫らして、大阪駅前で力尽きた。福井駅で出会ったひとつ年下の「かめちゃん」。盗みをしては、闇市でカレーや肉まんを分け合った。東京・品川駅近くで電車で飛び込んで自殺した。

小倉さんは2年の放浪の末、京都駅で保護された。緑内障の適切な治療を受けられず、左目を失明した。「歯を食いしばっても泣いても、世間は冷たかった。地獄でした」。社会への不信感から、黙っていようと決めた。

■「何のために生まれた…」

たからだ。

1945年6月5日早朝、高等女学校3年で16歳だった杉田さんは、神戸市須磨区の自宅を襲った激しい揺れに飛び起きた。空襲警報が鳴り響く中、着の身着のまま外へ出ると屋根から火が上がっていた。

母、4歳上の姉と一緒に海岸を目指して駆け出した。次々と降ってくる焼夷弾や爆弾。爆風で左腕を痛め、飛び散った破片に左脇腹と左足を貫かれた。姉は無事だったが、破片が頭部を直撃した母親は帰らぬ人となった。

杉田さんの左脇腹の傷はあと5ミリ深ければ致命傷だった。左腕は複雑骨折しており、「最初に診察した軍医は切断を考えたが、姉が猛反対した」という。ただ、満足な治療を受けられず、関節が動かない後遺症が残った。

戦争が終わり、生かされた命を何のために使うかを考えた時、杉田さんは「人を助ける仕事がしたい」と思った。両親が敬虔(けいけん)なキリスト教徒だったこともあり、牧師になることを決意。19歳の時に洗礼を受けて勉強や布教活動を続け、40歳前で牧師になった。

牧師として岐阜や奈良、大阪で働いた。人前で話す機会は多かったが、戦争のことはほとんど語らなかつた。「周りも戦争を体験した世代。左腕のことを尋ねる人もいなかった」と杉田さん。あえてつらい記憶を呼び起こすことはなかった。

しかし、戦後70年を迎える頃、当時を知る世代が周囲でめっきり少なくなったことを実感し、「自分が語ることで、一人でも多くの人に戦争の実態を伝えたい」との思いが芽生えた。教会の集まりなどで空襲体験を話すようになった。今年2月には、枚方市のラジオ番組にも出演した。

杉田さんは静かに言った。「戦後73年、平和な時代が続いてきた。戦争は罪深いもの。あの日のような地獄を二度と繰り返してはいけない」【岡崎英遠】

### 終戦73年 狂気二度と 宮崎の元特攻隊員、不戦願い手記

毎日新聞 2018年8月14日 22時52分(最終更新 8月14日 22時52分)

宮崎県都城市の東郷勝次さん(92)は太平洋戦争中、特攻隊員として待機し、極限の精神状態に置かれた。配置転換などで出撃しなかったが、帰ってこなかった航空学校の同期もいた。「軍指導部は最後は『一億総特攻』『一億玉砕』を掲げて破滅に向かった。狂気としか言えない戦争を二度と繰り返してはならない」。願いを込めて、東郷さんは自らの体験を1年かけて手記にまとめた。

16歳の少年だった1942(昭和17)年10月、憧れの東京陸軍航空学校に合格。熊谷陸軍飛行学校(埼玉県)や甲府教育隊(山梨県)など上級校で操縦技術を学んだ後、日本占領下の中国の飛行隊に配属された。

敗色濃厚となった45年4月、三重県伊勢市の部隊に転

属。「諸君はと号要員だから指示あるまで待機せよ」。東郷さんら約20人が上官に命令された。「と号」とは特攻のことだった。「覚悟はしていたが、全身にえたいの知れない電流が走り、体全体が硬直した」

だが数日後、愛知県の小牧飛行場を拠点にした飛行隊に転属になり、特攻を免れた。その後、沖縄に向かう特攻隊を護衛する任務につくため、鹿児島県の万世(ばんせい)飛行場に移動。爆弾を抱えて高く飛べない特攻機を、上空から護衛する役目だった。当初は奄美群島の喜界島上空まで護衛したが、終盤は離陸後の周辺上空に限られた。「そのころの特攻機は援護機もなく哀れだった」

6月終わりか7月初めになると部隊で特攻要員が募られた。死の恐怖と闘いながら志願した。「沖縄の地上部隊の組織戦はもう終わったのに今更」。小声でそう漏らす先輩パイロットもいた。結局、東郷さんらは特攻に出撃せずに済み、大阪の防空任務を最後に敗戦を迎えた。「若くして散った隊員たちに申し訳ない思いだった」

生き残った者の使命として、昨年6月ごろから400字原稿用紙にこの体験をつづり始めた。当時の写真も貼り付け、手記は計150枚になった。

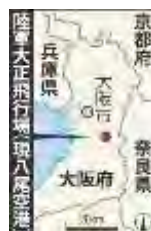
「死を恐れない人間はいない。若くして非業の死を遂げたパイロットや、そのご遺族の心境を思うと、今でも涙が止まらない」と東郷さん。「夢を持ち、未来を担う青少年を再び戦場へ送ってはいけない。自分の命も自分のものでなく、自由にならなかつた時代だった。二度とそういう時代をつくってはならない」と訴えた。【重春次男】

### 終戦73年 自決「裏切り」自責 90歳元軍属

毎日新聞 2018年8月14日 22時42分(最終更新 8月15日 01時37分)



掩体壕の前で73年前の思いを語る吉川晋吾さん＝大阪府八尾市で2018年8月14日、梅田麻衣子撮影





## 陸軍大正飛行場（現八尾空港）

日本の敗戦を告げる昭和天皇の玉音放送が流れた73年前、自ら命を絶つ軍人が相次いだ。大阪で陸軍機の整備をする軍属だった吉川晋吾さん（90）＝東大阪市＝は、懇意だった陸軍少尉から集団自決に加わるよう誘われたが、自身は思いとどまった。「申し訳ない」という思いを消せなかった吉川さんは14日、軍施設跡や自決現場となった神社を戦後初めて訪れて手を合わせ、平成最後の夏に心の重荷をようやく少し軽くした。

吉川さんは岐阜県の陸軍施設で飛行機の整備技術を学び、1945年4月に現在の大阪府八尾市にあった陸軍大正飛行場（現八尾空港）に併設された大阪陸軍航空廠（しょう）に配属された。既に日本は制空権を失い、米軍の空襲は激化していた。飛行機を守る「掩体壕（えんたいごう）」と呼ばれる格納庫で、来る日も来る日も作業を続けた。特攻に向かう航空機も整備した。「離陸さえできればいい」「燃料は片道だけ」。冷徹な命令に渋々従った。

8月14日、翌日に重大放送があるといううわさが広がった。弟のように可愛がってくれていた少尉に声をかけられた。「降伏となったら俺は自決する。お前も来るか」。その場では断れず、作業場に隣接する神社の本殿裏側で落ち合うことを約束した。

翌日は白装束代わりの白い服で出勤した。神社の境内まで来たが、両親の顔が脳裏に浮かび足がすくんで動けなくなった。待ち合わせ場所には行かなかった。

玉音放送を境内で聞いた後、急に騒がしくなった。本殿裏側へ駆け付けると、少尉が倒れていた。取りすがって泣き崩れたが、憲兵らに引き離された。少尉は亡くなったと後に聞いた。他に2人の将校が自決を図ったことも知らされた。

吉川さんは戦後、板金会社を起し、子や孫にも恵まれた。ただ、約束の場に行かなかったことを「裏切ってしまった」と引きずっていた。神社にも足が向かなかった。戦争体験も積極的には語らなかった。

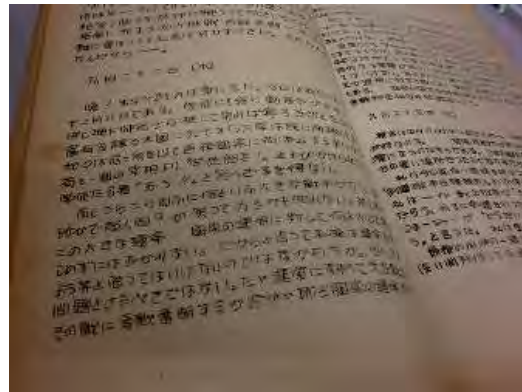
14日は唯一残る掩体壕の跡と神社を巡り、やっと慰霊ができた。「少尉はまだ21歳で造船技師を夢見ていた。愚かな戦争がもっと早く終わってれば、どんな人生を歩んだらうか」。生かされた自分を振り返り「精いっぱい生きてきた」と語った。【岡崎英遠】

## 名大・旧制高 「クラス日誌」公開 理系生徒、戦時の本音

毎日新聞 2018年8月14日 20時59分(最終更新 8月14日 22時46分)

名古屋大学の前身・旧制第八高等学校（八高）の理科系生徒が学徒出陣など戦時中の出来事や思いを記した「クラス日誌」が、名古屋市千種区の名大の大学文書資料室で公開されている。戦地に赴く文科系生徒への気遣いや戦局の

冷静な分析がつづられ、資料室の担当者は「自由に発言できなかった時代の若者の本音がうかがえる貴重な史料」と話す。



八高の理科系生徒がつづった「クラス日誌」＝名古屋大学文書資料室で、加藤沙波撮影

日誌は理科系2年6組の生徒たちが1943年5月12日～44年4月13日につづり、B5判約190ページに30人以上の記述が見える。戦後にガリ版印刷で複製されたとみられる。約10年前に八高同窓会が資料室に寄贈し、昨秋から公開している。

学徒出陣を巡っては、東条内閣による「学生の徴兵猶予の停止」が伝えられた43年9月22日、「来るべきものは竟（つい）に来た。今日は我々にとって実に（太平洋戦争開戦の41年）十二月八日である」との記載がある。

理科系生徒は兵器研究などを理由に徴兵が猶予された。11月25日の記述では、文科系クラスに出征を控えた親友がいるらしい生徒が「勉学を中止して 客観的に之（これ）を見れば誠に気の毒である<中略>便所の中に“理科生ヨ 後ヲタノム”と記してあつた<中略>それを涙なくして読み得なかつた」と複雑な心情を吐露している。

八高卒業生らの記念誌などで、当時の理科系と文科系の生徒間に「溝」があったと記されている。日誌でも「(理科系は) 余りにも無関心であるのではなからうか」「文科の生徒に対して相済まぬと思ふ<中略> (自分は) 今直ちに前線に立つて働ける丈の信念と勇気があるだらうか」と書かれている。

43年は山本五十六・連合艦隊司令長官の戦死やアリューシャン列島・アッツ島での玉砕など戦況が悪化していた。日誌には「学業を以（もつ）て敵撃滅に邁進（まいしん）しよう」との記述がある半面、「ヤマトダマシヒにも限度がある」「“日本は○ける”」（○は伏せ字）といった言葉も並ぶ。

資料室の堀田慎一郎・特任助教（日本近代史）によると、東海地方は学徒出陣関連の史料がほとんど見つかっていない。文科系の学校が少ない上、震災などで失われたとみる。

堀田氏は日誌について「教員らの目に触れないよう、ひそかに書いたのだろう。国のために戦死することが名誉とされた時代に、出征する文科生を“無念”と思いやるなど、



本音が出ているのが特徴的で非常に珍しい史料」と指摘している。【加藤沙波】



佐藤茂壽さん＝名古屋市東区で2018年7月2日、加藤沙波撮影

徴兵猶予へ理系志願も

戦況悪化に伴い政府は1943年10月、それまで猶予されていた大学・高等学校・専門学校の文科系生徒・学生も徴兵対象に加え、同月21日に明治神宮外苑（東京都）で出陣学徒壮行会を開いた。東海地方でも11月ごろに各学校で壮行会を開催し、仮卒業証書を授与するなどした。学徒兵の総数は10万人以上とも言われるが、正確な数は分かっていない。

理科系生徒・学生は徴兵猶予が継続され工場などに動員された。42年に八高に入学した加藤一三（いちぞう）さん（93）＝名古屋市東区＝は「マルクス経済学を学びたかったが、戦争に駆り出されるかもしれないと思い、理科系に進学した」と話す。理科系の名古屋薬学専門学校（現・名古屋市立大）や岐阜薬学専門学校（現・岐阜薬科大）は、44年の入学志願者が例年を大幅に上回ったとの記録が残る。

名古屋高等商業学校（現・名古屋大）OBで現役の税理士、佐藤茂壽（しげとし）さん（94）＝名古屋市千種区＝は在学中の45年に徴兵され、満州（現在の中国東北部）で物資輸送に関わった。「行きたくないなんて本音は出せなかったが、泳いでも生きて帰ってくる気持ちだった」と振り返る。学徒出陣から75年。「平和が当たり前の世の中になったことが何よりありがたい」と話した。【加藤沙波】

**福岡・豊前 戦争の記憶展 特攻隊や痕跡資料など80点**  
毎日新聞 2018年8月14日 17時54分(最終更新 8月14日 23時24分)



日本陸軍初の特攻部隊とされる「万葉隊」の隊員、岩本益臣大尉の遺品や写真も展示＝豊前市八屋の市立埋蔵文化財センターで2018年8月11日午後2時19分、津島史人撮影



ギャラリートークに臨んだ元特攻隊員、末吉初男さん(左)＝豊前市八屋の市立埋蔵文化財センターで2018年8月11日午後2時16分、津島史人撮影

「戦争の記憶～特攻隊と銃後の戦争」が、福岡県豊前市八屋の市立埋蔵文化財センターで開かれている。特攻隊や市内に残る戦争の痕跡に関わる資料など約80点が並ぶ。戦争とは何かを考えるきっかけにと市教委が主催した。9月17日まで、入場無料。

市内の元特攻隊員、末吉初男さん（91）が提供した戦時の写真や母からの手紙などに注目が集まっている。また、市内出身で日本陸軍初の特攻部隊とされる「万葉（ばんだ）隊」の隊員、岩本益臣大尉の遺品や写真も展示。今も残る防空壕（ごう）跡のパネル写真には大勢の人が見入る。

11日には、末吉さん自身がギャラリートーク。末吉さんは、軍国少年として憧れの飛行兵になった経緯や、出撃したものの体当たりに至らず、上官から「無事生還を遺憾に思う」と言われた思い出を語り、復員したら土砂崩れで家族全員が亡くなって身を持ち崩しそうになったことも明かした。「戦争は二度としないように」と結ぶと、訪れた約60人から拍手が湧き起こった。【津島史人】

**兵士写真 75年後の帰還 南洋で戦死、NZ軍人が保管**  
毎日新聞 2018年8月14日 11時29分(最終更新 8月14日 21時53分)



遺族の元に戻った竹添弘さんの写真。長い年月を経てセピア色に変わっている＝「平和ミュージアム 旧日本陸海軍博物館」提供

第二次世界大戦中に南洋で戦死した日本兵の写真がニュ

ージーランド（NZ）で見つかり、今年、75年の時を経て遺族の元に戻った。福島県浪江町にあった実家は東日本大震災の津波で流され、遺族は遺影も遺品も失った。色あせた写真を受け取った日本兵のおいの竹添武さん（70）は「長い間保管してくれた人に感謝したい」と話す。【金子淳】

津波で遺品喪失 古里福島に

写真の日本兵は旧請戸村（現在の浪江町）出身の竹添弘さん。地元遺族会の資料などによると、海軍兵として南洋に送られ、24歳だった1943年11月、赤道直下にあるギルバート諸島（現在のキリバス）で戦死した。写真には海軍の制服姿の弘さんが旭日旗をバックにして写っており、裏には「当年二十三才」と書かれている。



戦死した竹添弘さんの写真を見つめるおいの竹添武さん（右）と武さんの妻の淑子さん＝福島県郡山市で2018年6月23日、金子淳撮影

写真はNZ軍の軍人だった男性が終戦後、交流のあった日本兵の捕虜から受け取ったという。男性の死後に遺品整理をしていた息子が写真を見つけ、昨年4月、日本人の知人を通じて岩手県奥州市にある私設博物館「平和ミュージアム 旧日本陸海軍博物館」に「遺族に返還してほしい」と送った。

写真の裏には名前と当時の住所も書いてあったが、住所は津波の被害を受け、家は流されてしまっていた。博物館が遺族を捜していることをホームページで知った記者が、震災後は福島県郡山市で暮らす武さんらを見つけ、今年6月に写真を渡した。弘さんは9人きょうだいの2番目で、5人が戦場に行き、弘さんを含め3人が戦死したという。武さんはまだ新しい仏壇を前に「震災以前のように飾りたい」と話した。

弘さんの妹で、今は千葉県柏市に避難している秋本房子さん（89）によると、弘さんは面倒見の良い兄だった。戦地に赴く際も母には「泳いで3里（約12キロ）戻る力があるから心配しないで」と話していたという。帰ってきた骨箱には砂しか入っていなかった。写真を見て「今も時々夢に見る。帰って来てくれたんだな」と目を潤ませた。

**水上特攻艇「震洋」 元船大工が初の証言 乗ったら最後、なぜ造る 「国のため」信条曲げ、粗末なボート 自身は被爆**



水上特攻艇「震洋」の建造時の様子を話す山本昭一郎さん＝兵庫県豊岡市の自宅で、高田房二郎撮影

戦局が窮迫した太平洋戦争末期に使用された木造の水上特攻艇「震洋」。旧海軍の軍需工場で建造に携わった元船大工、山本昭一郎さん（91）＝兵庫県豊岡市＝は昨秋、70年以上を経て初めて当時の経験を集会で語った。船大工として安全で丈夫な船ではなく、自爆させるベニヤ板の船を造る矛盾。その後、軍隊で派遣された長崎で原爆被害にも遭った山本さんは「戦争は人と人との殺し合い。二度と繰り返してはいけない」と訴える。【高田房二郎】

山本さんは豊岡市の造船所に勤めていた1944年秋、京都府舞鶴市の海軍工廠（こうしょう）に徴用された…

**戦争を知らないけれど / 1（その1） 42歳、玉砕を漫画に 生還兵「あなたは戦ったのか」**

会員限定有料記事 毎日新聞 2018年8月14日 東京朝刊



トークイベントで、手元を映写しながら漫画「ペリリュー楽園のゲルニカ」のキャラクターを描く武田一義さん＝東京都新宿区で2018年8月5日、宮武祐希撮影

日本から3000キロ南の太平洋に浮かぶパラオの小島・ペリリュー。70年以上前、この地で米兵4万人を前に、旧日本軍1万人が玉砕する激戦があった。その戦いを一人の日本兵の視点で描いた漫画「ペリリュー 楽園のゲルニカ」が、若い世代を中心に人気を集め、青年誌で連載が続いている。描くのは42歳の武田一義さんだ。

登場人物はデフォルメされた3頭身。銃撃戦などの場面でも、絵は柔らかい。主人公の田丸は漫画家を目指す…



戦争を知らないけれど /1 (その2止) 戦場のリアルに苦悩 ペリリュー元兵士「軽すぎる」 漫画家、拒絶胸に「伝えたい」



ペリリュー島で戦った元兵士の永井敬司さん。70年以上たつ今も、亡くなった戦友を思うと眠れなくなるという＝茨城県茨城町で2018年8月6日、手塚耕一郎撮影

7月下旬、私は太平洋戦争の激戦地・ペリリューから生還した34人の一人、茨城県の永井敬司さん(97)の自宅を訪ねた。なぜ、漫画でペリリューの兵士を描く武田一義さん(42)への協力を断ったのか。永井さんは、はっきりした口調で「あそこで戦っていない人には分からない」と語り出した。

18歳で志願し陸軍に入隊。満州で国境警備をした後、ペリリューへ派遣され、飛行場を米軍から守る最前線で戦った。23歳だった。

戦闘はすさまじかった。米軍に挟まれ、身を隠した堤防を仲間と飛び出した。銃弾が地面に当たってあがる土…

戦争を知らないけれど /2 生への力、本に 27歳、30歳 ハルモニの作文に引かれ



ハルモニたちが書いた作文集を出版するため、打ち合わせをする康潤伊さん(左)と吉田守伸さん＝東京都新宿区で2018年7月31日、佐々木順一撮影

京浜工業地帯の一角、川崎市・桜本地区には戦前から多くの在日コリアンが住む。張り巡らされた細い路地に、家々が軒を連ねる。

街の福祉施設で、時代に翻弄(ほんろう)され学ぶ機会に恵まれなかったハルモニ(おばあさん)たちのための識字教室が開かれている。思いを作文にすることも多く、黄徳子(ファントクチャ)さん(75)はこの街を標的としたヘイトスピーチの集団に書いた。<桜本にきていっしょに話しながら仲よくしましょうね!>

攻撃されたのになぜ、こんな思いをつづれるのだろう。

わたしの戦時下 /上 衣食住の希望 次々消えた 毎日新聞 2018年8月15日 東京朝刊



「もっと可愛い服を着てみたかった」と話し、涙を浮かべる村杉美枝さん＝千葉県茂原市で

73年後の「あの日」が巡ってきた。第二次大戦下で「わたし」は何を食べ、何を思いながら過ごしてきたのだろう。平成最後の夏、願いはひとつーあの暮らしが再び訪れませぬように。

●強烈な空腹感

冷えたミネラルウォーターや肉汁がしたたるハンバーグ……。数え切れない飲み物、食べ物が並ぶスーパーやコンビニエンスストアは、まぶしくて目がくらむ。華やかであればあるほど、鼻の奥がツーンとなる。あの「ぜいたくは敵だ!」というスローガンは憎かったけれど、まるで窮乏がなかったかのような今の世は、どうにも耐えられない。

千葉県茂原市の村杉美枝さん(78)は1939年、神奈川県横須賀市田浦町で生まれた。海軍軍人の父が出…

沖縄戦記「若者へ伝える」 札幌の従軍男性、寄贈へ 日経新聞 2018/8/14 9:16

沖縄戦に従軍した札幌市豊平区の森井直次郎さん(94)が、当時の悲惨な状況を記した作者不名の史料「沖縄戦記」の写しを大切に保管している。捕虜収容所で回し読みされていたものを自ら書き写した。「戦争とは人の殺し合い。若者に伝えていかなければ」と訴え、近く北海道内の博物館に寄贈する予定だ。



自ら書き写した「沖縄戦記」を手にする森井直次郎さん(7月、札幌市豊平区)＝共同

沖縄戦記では、美しい「南海の夢の島」が戦争に巻き込まれて無残に破壊される様子や、圧倒的戦力を有する米軍



の激しい攻撃、「不敗の国、日本」の援軍が来ないことを恨みながら、死んでいった兵士の姿が生々しく描かれている。原本が現存するかは不明で、沖縄県平和祈念資料館に写し数点が収蔵されている。

北海道泊村出身の森井さんは19歳で徴兵され、陸軍の第24師団歩兵第22連隊に配属された。沖縄戦の主力だった第24師団には道内出身者が多い。沖縄戦では日米双方で計20万人以上が死亡。都道府県別の犠牲者数は、沖縄を除けば北海道が1万人以上と突出している。

森井さんは戦場で砲弾の破片が脚に刺さり、自然壕（ガマ）に運ばれた。「治療といっても何も無い。腹は減るし、脚にはうじがわく」。ガマの奥からは時折、重症患者が手りゅう弾を抱えて自決する音が聞こえた。食料を求めてガマを飛び出し、森をさまよった。

その後捕虜となり、読谷村の楚辺捕虜収容所に入った。所内で回し読みされていた沖縄戦記を「記録として残したいと思った」という。写しを北海道へ持ち帰った。

沖縄戦記は、「敵機は空に満ち友軍機は一機も現れてくれなかった」と日本兵の失意を代弁。激烈な米軍の攻撃で、「(部隊の)秩序は乱れて、混乱を増すばかりだった」とした。多くの住民が命を落とし、生き残った住民も「全ての財産を焼かれ、家を失い、希望さえも奪われて砲煙弾雨の中にさまよわなければならなかった」と記した。

森井さんは今でも、ガマの奥から響いてきた「助けてくれ」という声を夢の中で聞くという。集落の井戸の周りで、住民が何人も死んでいた光景も目に焼き付いたままだ。「どうして民間人が、子供が死ななきゃならなかったのか」と語気を強めた。〔共同〕

### 戦場はむごたらしい 建築家・元海軍士官 池田武邦さん (94)

東京新聞 2018年8月15日 朝刊



太平洋戦争でマリアナ沖、レイテ沖、沖縄海上特攻という三つの海戦を生き延び、戦後は建築家として霞が関ビル設計に携わった元海軍士官の池田武邦さん(94)＝東京都東久留米市。終戦記念日に合わせて本紙の取材に応じ、「戦場はむごたらしかった。『壮烈なる戦死』なんて華々しさはなかった」と戦場の凄惨(せいさん)な現実を明かし

た。

フィリピンのレイテ沖海戦では航海士として乗った軽巡洋艦「矢矧(やはぎ)」が米軍に猛襲され、艦橋が血の海に。

「船が揺れるたび床にたまった血が右へ左へと流れる。その生臭さと硝煙のにおいが入り混じる。もげた腕や足はバケツの中に入れられ、死体はすぐ腐敗し、惨憺(さんたん)たるものだった」

沖縄を目指した艦隊特攻で矢矧は戦艦大和とともに撃沈された。顔に大やけどをし、黒い重油の覆う海で漂ううち、不意に「畳の上で横になりたい」と実家が恋しくなった。一家だんらんする茶の間の風景が脳裏に浮かんだと振り返った。

戦前戦中は言論や情報が統制された。「玉砕するのが当然」と思い、降伏なんて発想はなかった。考えが偏っていた。戦後、日本の敗戦理由を検証し、自ら設立した日本設計では、建設に関する情報を集めるシステムをつくり、対等に意見を言い合えるようにした。

自衛隊を明記する九条改憲の動きや、集団的自衛権の行使を認める安全保障関連法の成立については「命がかかっている問題だから国民の納得できるプロセスが必要。ごまかして進めるのは一番よくない」と考える。そして「あの戦争の歴史が教育の場でしっかり教えられず、犠牲が生かされてない」と訴えた。

<いけだ・たけくに> 1924年、静岡県生まれ。海軍兵学校卒業後、巡洋艦「矢矧(やはぎ)」に乗り組み、マリアナ沖海戦、レイテ沖海戦、沖縄海上特攻に出撃し、生還。49年、東大建築学科卒業。67年に日本設計事務所(現・日本設計)設立。霞が関ビル、新宿三井ビルなどの超高層ビルのほか、ハウステンボスなど環境共生型テーマパークの設計に携わった。

### 案内活動30年以上「平和とは 考えて」 高校生語り継ぐ戦争史跡

東京新聞 2018年8月14日 夕刊

見学者を案内する長野俊英高郷土研究班の生徒(左)＝長野市の象山地下壕で



太平洋戦争末期、政府の中枢機能をまるごと移転させようと長野県・松代(まつしろ)地区(現長野市松代町)周辺の山麓で極秘に建設が進められた地下壕(ちかごう)「松

代大本営」の関連施設で、長野俊英高（同市）の生徒たちが見学者を案内する活動を三十年以上続けている。生徒たちは「戦争が人々の記憶から消えないよう、語り継いでいきたい」と話す。（高山晶一、妹尾聡太）

「この削岩機のロッド（先端）は七十年たった今も抜くことができず、突き刺さったままです」

七月末、松代大本営地下壕群の一つ「象山（ぞうざん）地下壕」。湿った空気に包まれた暗い壕内で、同校の「郷土研究班」の生徒が岩盤に突き刺さった鉄の棒について解説すると、見学者から「おお〜」と感嘆の声が上がった。この日、案内を受けたのは東京都世田谷区の大東学園高の一行。生徒会長の住吉姫咲（きさ）さん（三年）は「説明がすごく分かりやすい」と感心していた。



活動のきっかけは一九八五年、長野俊英高（当時は篠ノ井旭高）の生徒たちが修学旅行で沖縄県を訪れ、多くの住民が地下壕に追い詰められて犠牲になった沖縄戦について学んだこと。「地元・松代にも同じような場所がある」と調査することにし、八六年から部活動として郷土研究班が発足した。

当時、地元の人たちの間で地下壕の存在は知られていたが、危険な場所として立ち入りが規制されていた。生徒たちが保存、公開を市に提案し、九〇年から公開がスタート。郷土研究班は見学者の案内や、工事関係者らへの聞き取りを続けてきた。

現在は二年生六人が活動。年十回ほど、長野県内外の高校や中学などの見学者を案内している。事前に練習を重ね、ダイナマイトを使う危険な突貫工事で犠牲者が出たこと、周辺住民が立ち退きを迫られたことなど、過去の聞き取り調査で把握した工事の様子を生々しく伝える。掘削で出た大量の岩くずが戦後、東京・霞が関周辺の道路舗装に使われたというエピソードも紹介している。

心がけているのは、主観を交えず、ありのままに伝えること。顧問の海野修教諭は「戦争がいけないのは当たり前だが、まず歴史的な事実を伝える。そこから始まるのが私たちの活動」と説明。活動を通じ、生徒たちが人前で堂々と話せるように成長したとも話す。

班長の高野礼さん（16）は「時代が変わって、戦争を体験した方から話を聞けなくなっている。私たちが懸け橋になり、何があったのかを伝え、平和とは何かを考えてもらえたら」と話している。

<松代大本営> 太平洋戦争末期、「本土決戦」を想定して政府の中枢機能を移そうと長野県・松代地区の象山、舞鶴山、皆神山を中心に進められた計画。舞鶴山地下壕に大本営、象山地下壕に日本放送協会などが入る予定だった。1944年11月に本格的に工事が始まり、終戦までに計十数キロを掘削。現在、象山地下壕の500メートル余りが年間を通じて一般公開されている（休曜日あり）。松代大本営建設を含む本土決戦の時間を稼ぐため、沖縄戦が展開されたという歴史観もある。

国歌「不起立」 貫く被爆2世 モノ言う勇氣、育もう  
毎日新聞 2018年8月14日 12時30分(最終更新 8月14日 15時18分)



不起立に対する処分への思いを歌う増田俊道さん＝大阪市北区で、湯谷茂樹撮影

そこで立たないことは とても力がいるよ 波風立てられること 嫌う人ばかりで

被爆2世の大阪府立高校教師、増田俊道さん（57）は、国歌斉唱時に起立しない心境を先月あった集会で歌った。今春の卒業式で起立斉唱の職務命令に違反したとして、府教委から戒告処分を受け、次は「免職することがある」と府職員基本条例に基づき警告された。そんな不起立は、被爆2世としての思いも込めた行動という。

「過ち繰り返さぬ一歩」

増田さんは広島県の可部町（現・広島市安佐北区）生まれ。父親は12歳の夏、当時住んでいた江田島から広島市中区吉島町の刑務所近くでの建物疎開に動員され、被爆した。爆心地から約2.7キロ。多くの仲間が亡くなるなか、父親は建物内にいて大けがは免れた。

戦後も後遺障害に苦しまされることなく造船所で働いていたが、増田さんが高3になった1979年、胃潰瘍などで胃を摘出し肝炎も発症。働けなくなり、収入は激減した。その時の学費にも困る生活苦が、「右翼的な少年だった」という増田さんの社会への関心呼び起こしたという。

大阪大に進学し、新聞奨学生として働きながら、「被爆二世の会」の活動に参加した。

「直接」「入市」「救護」「胎内」に次ぐ第5の被爆者とし



て2世にも被爆者手帳を交付し、検診を行うよう国に求めた。在韓被爆者支援にも取り組み、海外の学生と交流。「学校で何を教えられてきたんだろう」。そんな思いが教職に向かわせた。

教師になった85年当時、学校では本名宣言する在日朝鮮人の生徒がいた。教師も生徒もさまざまな問題を議論し、自由があった。空気が変わり始めたと感じたのは、99年の国旗国歌法制定の頃から。教育委員会から学校現場への指導が強まり、現場から違和感をとなえる声も増えた。

起立斉唱を定めた2011年の国旗国歌条例をはじめとする大阪維新の会の教育改革で雰囲気はさらに一変する。職員基本条例には起立斉唱など同一の職務命令違反3回で「免職も」の規定が盛り込まれた。「モノが言えない雰囲気が強まっている」とも感じる。

さまざまなルーツの生徒がいる教育現場で、同化を強いる強制には反対だという増田さん。「おかしいと思うのに何もしないのは教師としての実践や生き方への裏切り。抵抗してもいいことを伝えたい。それが原爆のような戦禍を繰り返さないことにつながる」と力を込めた。【湯谷茂樹】

### 戦後73年 消えぬ記憶 句に込め

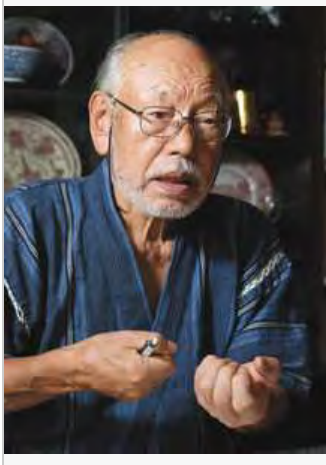
東京新聞 2018年8月15日 朝刊

終戦記念日に復活した「平和の俳句」には、73年前の戦争を生き抜いた人々からも、多くの句が寄せられている。平和への祈りを込め、17文字に忘れられない光景がつつられた。

◆神奈川県厚木市・高橋和男さん(81) 涙の告白「殺すつまった」

叔父帰国「人殺した」としゃくりあげ

叔父の戦争体験などを話す  
高橋和男さん＝神奈川県厚木市で



「こう正座して。手を膝の上に置いて」。鉛筆でラフな絵を描きながら、神奈川県厚木市の元会社員高橋和男さん(81)は記憶をたどった。終戦の翌一九四六年夏ごろ。

当時、一家が住んでいた福島県に中国北部から戻ってきた叔父の薫(かおる)さんが、ポロポロ涙を流しながら言った。

「俺、殺すつまった」「俺、人殺すだ」

当時九歳だった高橋さんは「目の前で血を見たんだな」と直感したという。「遠くの人を撃ったり、自分の命も危ない場合の言い方と思えない。(薫さんは)まだ二十代前半。おとなしい性格だった。上からの命令で、相手は捕虜か民間人だったのか。そのへんは分からない」

長男だった高橋さんの父は召集はされたが、前線には出ずに終戦を迎えた。父の弟のうち海軍の駆逐艦に乗った次男はソロモン海戦で亡くなった。四男は海軍の特攻兵器・特殊潜航艇の乗組員だったが終戦で出撃せずに済んだ。「前線から帰国したのは三男の薫叔父ただ一人。父たちとまとう雰囲気が違って覚えています」

周囲の親戚は口々に「戦争だもの」「しょあんめーしさ(しかたないさ)」と叔父を慰めていた。

普通の大人たちが、人を殺すことを「仕方がない」と言うようになるのが、幼心に刻まれた戦争の姿だ。日本人も、米国人も変わらない。「戦争になると人は常人でなくなる」。叔父の苦しみを思い、平和への願いを句に込めた。(山本哲正)

◆東京都小平市・内海琢己さん(93) ためらい抱え日没後の帰還

生きて来し想ひ嚙(か)み締め学徒兵

壮行の辞が寄せ書きされた日章旗を手に、俳句に込めた思いを話す内海琢己さん＝東京都小平市で



一九四五年七月、陸軍の「特甲幹」(特別甲種幹部候補生)と呼ばれる学徒兵だった内海琢己さん(93)＝東京都小平市＝たちは突然、熊本に集められた。課されたのは、米軍の本土上陸を想定し、爆薬とともに戦車の底腹部に飛び込む猛特訓だった。

広島師範学校在学中の同年三月に召集を受けた。十九歳だった。激励会で贈られた日の丸の寄せ書きに、父は「皇国 男子の誉」とつぶった。「死ぬのは怖くなかった」とい



う。

前線に出ることはなく岡山県の予備士官学校で終戦を迎え、郷里の広島県・尾道へ。生きて帰ったことを一刻も早く両親に知らせたい思いはあったが、人目を避けるように山に登り、薄暗くなってからわが家に帰った。

「何か晴れがましいような形で帰っていくわけにはいかなかった」。多くの兵士が戦死した。匂に投じたのは、同じ運命にいたはずの自分が今こうして生きていることへの思い。日暮れを待った当時のためらいもよみがえってくる。

「今も、学徒兵時代の夢を見るんです」

戦後に師範学校を卒業し五十二年間、高校や大学などの教育現場を歩んだ。「教え子たちを戦場に送ってはならない」と心に期してきたという。「自分はどうすべきかを考えていくのが大事なんだと思う」と結んだ。(石川修巳)

## <20代記者が受け継ぐ戦争 戦後73年> 死の密林、闇夜を流浪

東京新聞 2018年8月14日 朝刊

金子富子さん(中)が太平洋戦争中に暮らしたフィリピンでの体験を描いた水彩画を見ながら、当時の様子を牧野新記者(左)に話す山根寿美子さん=埼玉県所沢市で



「私ね、若い子に話すのが怖いよ」

じっくり話を聞こうとノートを開いた時、金子富子さん(81)がつぶやいた。

「平和な時代に、戦争の話なんて聞きたくないでしょ？ 拒絶されそうな気がして...」

われわれの世代の「無関心」が怖いという金子さん。恐る恐る語るように、フィリピン・ミンダナオ島のダバオでの体験を振り返った。

当時のダバオはロープなどに使う麻栽培が盛んで、多くの日本人が住んでいた。太平洋戦争後期の一九四四(昭和十九)年、米軍のフィリピン攻略が本格化し、八歳の金子さんは両親や姉弟ら十二人とジャングルに避難した。

昼間は木の枝や麻の葉で作った小屋に身を隠し、数日すると闇夜にまぎれて移動した。食べ物は木の根っこや自宅から持ち出したかつお節など。母親は「体を壊さないよう

に」と必ず火を通してくれた。

河原で洗濯中に米軍機に見つかった。パイロットの輪郭がはっきり分かるほど近くから銃撃され、足元に銃弾が刺さった。

ジャングルには病気や飢えで死んだ人が転がっていた。「お母さん...」。木に寄り掛かり、力なく漏らした少年兵。大量のアリがはい回る顔で眼球だけが動いていた。

「あの時は死んだ人を見てもかわいそうとは思わなかった」。日本の降伏で終わった逃避行。同じ集落から逃げ、一家全員が無事だったのは金子家ともう一家族だけだと聞いた。



金子さんが話す隣で、同じダバオ生まれの山根寿美子さん(85)がうなずいた。二人は今、埼玉県所沢市に暮らす。知人を通じて数年前から交流を始めた。

山根さんは三人の妹と父親をダバオで失った。焼夷(しょうい)弾に肘を貫かれたり、爆弾で足の指をそがれたり。「みゆきにかずみ、それとまさみ。小さいのから死んで聞いてわ」

ただ家族の顔は思い出せない。戦争前の三六年に家族と離れ、山口県で祖母らと暮らしていたためだ。

祖父が亡くなり、葬儀の時、祖母が「寿美子を預けて」とダバオから駆けつけた母にせがんだ。母は四歳の山根さんを残してダバオに戻った。「母はすぐ迎えに来るつもりだったと思う」

だが翌三七年に日中戦争が勃発。四一年には太平洋戦争が始まり、母は迎えに来ることができなかった。

離れ離れになって十年。戦後、生き残って帰国した母と再会しても「初対面のように感じた」。

戦争は母の命を奪わなくとも、心をえぐっていた。夫と娘たちの死を思い出すと「死んでくる」と泣いて家を飛び出した。ささいなことで声を荒らげ、時に暴力を振るう。恐ろしくて、憎かった。「死んだ子への愛が狂ったほど大きく、私への愛はそんなになかった」

九四年に八十歳で死んだ母。晩年は介護のため山根さんの元に身を寄せた。「本当に親子として時間を過ごせたのは最後だけよ」



ジャングルで死と隣り合わせの生活を送った金子さんと、親子の絆を戦争に壊された山根さん。メモを取るノートはたちまち二人の体験と思いにあふれた。

取材からしばらくして金子さんが「言い忘れたことがある」と、当時の様子をびっしり書きこんだ手紙を送ってくれた。

「若い子に話すのが怖い」。その言葉は「若い子に伝えたい」気持ちの裏返しだと気付いた。



＜ダバオ＞ フィリピン・ミンダナオ島南部の州。20世紀初頭、麻の栽培のため日本人が入植し、ジャングルを開墾。1936年には在留日本人は1万4000人を超えた。41年に太平洋戦争が始まり、日本が米国の植民地だったフィリピンを占領。45年3月、米軍がミンダナオ島に反攻上陸すると日本人に避難命令が出されたが、米軍の砲撃や病死、餓死などで約5000人が死亡した。

◆ご意見・ご感想 お寄せください

メールは [shakai@tokyo-np.co.jp](mailto:shakai@tokyo-np.co.jp)。手紙は〒100 8505（住所不要）東京新聞社会部。ファクスは03（3595）6919。

## 二・二六事件語る鈴木貫太郎の妻の音声公開

NHK2018年8月15日 10時40分



陸軍の青年将校たちが首都 東京の中枢を占拠した「二・二六事件」で、襲撃を受けた当時の侍従長、鈴木貫太郎の妻が、のちに事件の様子を語った音声は千葉県野田市で公開されています。



二・二六事件は昭和11年2月26日、「昭和維新」を掲げて決起した陸軍の青年将校たちがおよそ1400人を率いて東京の中枢を占拠し、政府要人ら9人を殺害したものです。公開された音声は当時の侍従長で襲撃を受けて、ひん死の重傷を負った鈴木貫太郎の妻 タカが、事件の様子をのちに語ったものです。

この中では、鈴木が将校に対して「何事が起こってこんな騒ぎをしているのか。話したらいいじゃないか」と呼びかけたことや、タカが「とどめだけはどうか待ってください」と訴えたことなどが記録されています。

鈴木は事件のあと、敗戦の色が濃くなるなかで総理大臣を務め、戦争の終結に道筋をつけました。

野田市教育委員会の笹川知樹さんは、公開された音声について「事件で何が起きたのかが臨場感と共に伝わってきます。歴史の1ページを知ってほしい」と話していました。この音声は、野田市の「鈴木貫太郎記念館」で11月4日まで公開されています。

## 特集ワイド この国はどこへ行こうとしているのか 平成最後の夏に… 俳優・鈴木瑞穂さん



鈴木瑞穂さん＝東京都世田谷区で、根岸基弘撮影  
憲法は戦死者の遺言

長年の演劇界への貢献が認められ、昨年、第45回日本新劇製作者協会賞に選ばれた。東京都内で開かれた授賞式で、小説「ドン・キホーテ」で知られるスペイン人作家セルバンテスの言葉を引用しながらスピーチした。憲法9条が掲げる非戦の理想を引き下ろし、改憲を目指す勢力への激しい批判である。「夢だけを見て現実を見ないやつは度し難い。現実だけを見て夢を見ないやつはもっと度し難い。だが、救いようのないほど度し難いのは現実を夢に近づけようと努力しないやつだ」

俳優としてのキャリアを66年積み重ねてきた。

## 主演女優、長崎市長と面会 故谷口稜暉さん題材の映画

日経新聞 2018/8/14 19:43

核兵器廃絶運動の象徴的存在だった長崎被爆者の故谷口稜暉さんを著書で取り上げた英国人ジャーナリストの長女で、復刊したこの本を原作にした映画「長崎の郵便配達」に主演するイザベル・タウンゼントさん（57）が14日、長崎市役所を訪問した。田上富久市長は「谷口さんの体験が（世界に）伝わることを願っている」と映画製作と復刊を歓迎した。

製作プロジェクトによると、映画は、郵便配達中に被爆し背中に大やけどを負った谷口さんを取材するため、約35年前に長崎を訪れた父親の故ピーターさんの足跡を、イザベルさんがたどるドキュメンタリー仕立ての内容。来年完



成の予定。



長崎市の田上富久市長（左）と面会したイザベル・タウンゼントさん（中央）ら（14日、長崎市役所）＝共同

フランス在住のイザベルさんは、撮影のため初来日。田上氏に「父が残した取材テープを聴き、長崎に来ることは素晴らしい経験だ」と伝えた。

ピーターさんの「ナガサキの郵便配達」は、英仏2カ国語で出版された翌年の1985年に邦訳された。絶版となっていたが、今年9日の「長崎原爆の日」に復刊された。谷口さんは昨年8月30日、88歳で死去した。

〔共同〕

### 長崎原爆投下9分前、幻の空襲警報 前日に市民総避難は検討されていた

西日本新聞 8/15(水) 8:01 配信



1945年8月9日午前11時2分、長崎に原爆が投下された。9分前の空襲警報は長崎には出されなかった

15日の「終戦の日」は、平成では最後となる。戦争の記憶は遠ざかるばかりだが、年月を経て浮かび上がる事実もある。西日本新聞が伝えた過去の記事から、長崎原爆が投下された当日の状況をあらためて紹介したい。(以下の記事は2017年06月10日付で、内容は当時のものです)

長崎原爆投下直前の1945年8月9日午前10時53分、原爆搭載機の動向を察知した日本軍は空襲警報を出したが、長崎には届かなかった。記録上だけの警報だったとみられる。投下目標が小倉から長崎に変更されたことを把握した後はラジオで退避命令を呼び掛けたが、それも原爆がさく裂した直後。2度出された“警告”は市民避難には結び付かず幻に終わった。

戦時下の主な警報伝達としては、軍管区司令部からのラジオ放送、自治体によるサイレン、各家庭への電話連絡などがあった。いくつかの伝達方法を併用し、市民の情報共有を徹底していたとされる。他にも主要な軍需工場には軍との直通電話があり、警報などの情報が直接伝わる仕組みができていたという。

旧防衛庁が編集した「本土防空作戦」(1968年発刊)によると、8月9日の記述で、国東半島から北九州地区に向かう爆撃機B29を2機発見し、西部軍管区司令部が午前10時53分に空襲警報を発令。「(6日の)広島への原子爆弾投下の状況から原爆搭載機であろうと判断された」とある。

しかしー。9分後に被爆地となる長崎にはこの警報は出されなかった。爆心地から3・3キロの旧制長崎中の生徒だった深堀譲治さん(86)は、動員学徒として校内の軍需工場にいた。「何となく飛行機の音のような音がしておかしいなどは感じたが、原爆投下まで避難の指示はなかった」と振り返る。

長崎原爆投下前後に出された警報など

時刻	内容
7:48	長崎・佐世保地区に警戒警報
7:50	長崎地区に空襲警報
7:52	佐世保地区に空襲警報
8:30	長崎・佐世保地区の空襲警報解除
10:58	空襲警報? 長崎には出されず
11:00	長崎に原爆投下 「全島退避」のラジオ放送。長崎には聞こえず
11:08	長崎地区に空襲警報
11:10	佐世保地区に空襲警報
12:06	長崎・佐世保地区の空襲警報解除
18:00	長崎・佐世保地区の警戒警報解除

※「長崎原爆被災史」などを基に作成

### 長崎原爆投下前後に出された警報など

「空襲警報が出された記憶はない」

同1・3キロの自宅にいた被爆者の丸田和男さん(85)によると、敵機が島原半島上空を飛行していることを知らせるラジオ放送を職場や家庭で耳にした被爆者はいるが「直前に市民に空襲警報が出された記憶はない。投下間際になっても緊急事態だとは感じなかった」と語る。

8月9日の記録にはまだ不明な点も多いが、県や市に残る記録では午前7時48分に警戒警報が出た後、同7時50分に空襲警報に切り替わり、同8時半には解除になっている。その後は原爆投下までの間に空襲警報は出されていないことになっている。解除後、ほとんどの市民は避難の必要性を感じなかったとみられる。

B29の動きを把握しながら警報は市民の耳に届かず

日本軍は、米軍機が原爆投下の第1目標だった北九州上空から南西に針路を向けたことを察知すると、ラジオなどの通信機関を利用して「B29少数機、長崎方面に侵入しつつあり、全員退避せよ」と繰り返し連絡したとしているが、この放送も実際には伝わっていなかった。放送が流れた時には既に原爆が投下されていたからだ。



三菱重工業長崎造船所などで被爆した人の証言をまとめた「原爆前後 13 巻」には、現在の佐賀県武雄市に一時帰省していた男性労働者の体験として「長崎方面に閃光（せんこう）が走り、爆発音が聞こえた。間もなくラジオから悲痛な声で『長崎市民は全員退避』を連呼し」とある。退避命令を伝えるラジオは、わずかな差で間に合わなかったようだ。

太平洋戦争末期、相次いで本土の各都市が空襲された。敵機の侵入を許し、混乱を極めていた日本の空。B29の動きを把握しながら警報は市民の耳に届かず、退避を命じるラジオが間に合わなかったのは、防空体制の対応が追い付いていなかった現実を浮き彫りにしている。

9 日朝には市民を総避難させる決意を固めた知事

原爆が投下される前日の 8 月 8 日夕、長崎市民の全員退避が検討されていたことはあまり知られていない。長崎原爆戦災史などによると、広島に新型爆弾が落とされたことを知った当時の永野若松知事は「今に長崎にも同じ（新型）爆弾が落とされるはずだ」と判断していた。

8 日、東京から長崎に帰着いた長崎新聞会長の西岡竹次郎氏が、退任時刻ごろの県庁を慌ただしく訪ね、永野知事にこう伝えた。「新型爆弾が落ちた広島のことを軍も秘密にしているし、うかつにしゃべると憲兵に引っ張られるかもしれないが知事には知らせておきたい」。帰途で広島原爆に遭遇していた。

一晩考え、9 日朝には市民を総避難させる決意を固めた永野知事。命令を出すために関係者を集めた協議の場を県庁で開こうとしたが、午前 7 時 50 分に空襲警報が出されたため、県防空本部が置かれていた防空壕（ごう）に移動。そこで改めて会議を始めようとした直後、原爆が投下された。

## 東京は 100 年で 3.2 度上昇 止まらぬヒートアイランド化

日経新聞 2018/8/14 19:47

東京や大阪などの都市部で「ヒートアイランド現象」が進んでいる。気象庁の統計では、国内 10 都市の 17 年までの 100 年間の気温上昇量は平均 2.7 度。都市部を除く 15 地点の平均を 1 度以上上回った。今夏も気温の高い日が続いており、都市部の熱中症対策はますます重要になりそうだ。



ヒートアイランドは都市部の気温が周囲の地域より高い

状態が持続する現象。(1)アスファルトやコンクリートによる熱の蓄積(2)都市活動による人工排熱——などが主な原因とされる。

気象庁がまとめた「気候変動監視レポート 2017」によると、17 年までの 100 年間の平均気温上昇量は東京 3.2 度、福岡 3.1 度など。国内の主要 10 都市すべてが 2 度以上高くなっていった。都市部を除く 15 地点は平均 1.5 度だった。

夏季の最高気温に比べて冬季の最低気温の上昇が目立つ。冬の最低気温は 100 年間に東京で 6.0 度、札幌で 5.6 度上がり、15 地点の平均（1.9 度）を上回った。世界的な地球温暖化に加え、特に都市部では排熱の増加などがあるとみられる。

1931～2017 年の変化をみると、熱帯夜（最低気温 25 度以上）は福岡で 10 年あたり 4.8 日、名古屋で 3.7 日増えた。真夏日（最高気温 30 度以上）も横浜で 2.1 日、京都で 1.3 日増えるなど、都市部の高温化は昼夜問わず進んでいる。

18 年も 7 月 1 日～8 月 14 日の 45 日間で、真夏日でない日は東京で 7 日、名古屋で 4 日しかなかった。

政府は 04 年にヒートアイランド現象の対策大綱をまとめ、エアコン放出熱の削減や都市緑化推進などの中長期対策を盛り込んだ。ただ都市の高温化は止まらず、熱中症被害が多発してきたことから、13 年の改定で「暑さ指数」を活用した熱中症防止策を中心に位置付けた。

国立環境研究所の平野勇二郎主任研究員は「ビル屋上の緑化のほか、都市計画で風の通り道を作り、気温を下げやすくすることもヒートアイランド対策として有効。各国で協力し、温暖化ガス排出削減の枠組みを広げていくことも大切だ」と話す。